中国の文化IX 第６回

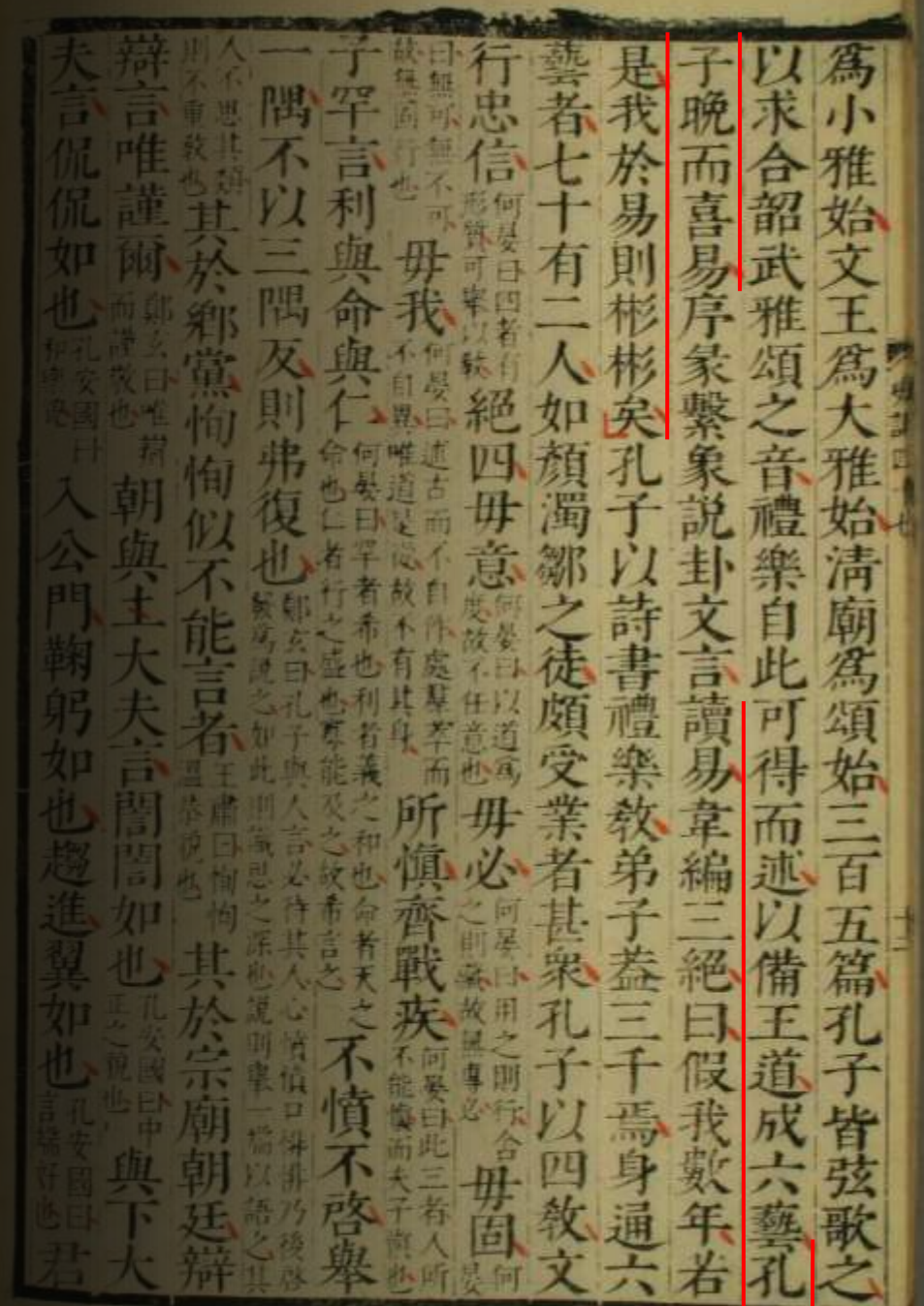
漢代

紙の誕生

これは春秋時代の思想家である孔子の事跡を描いた『孔子聖蹟図』の一部である。明代に描かれたこの絵巻には一つ大きな誤りがある。それは何か？

（明）佚名『孔子聖跡図』（杏壇礼楽、山東省曲阜孔府蔵）

孔子の時代には紙はなく、書写材料には木簡、竹簡が使われていた。

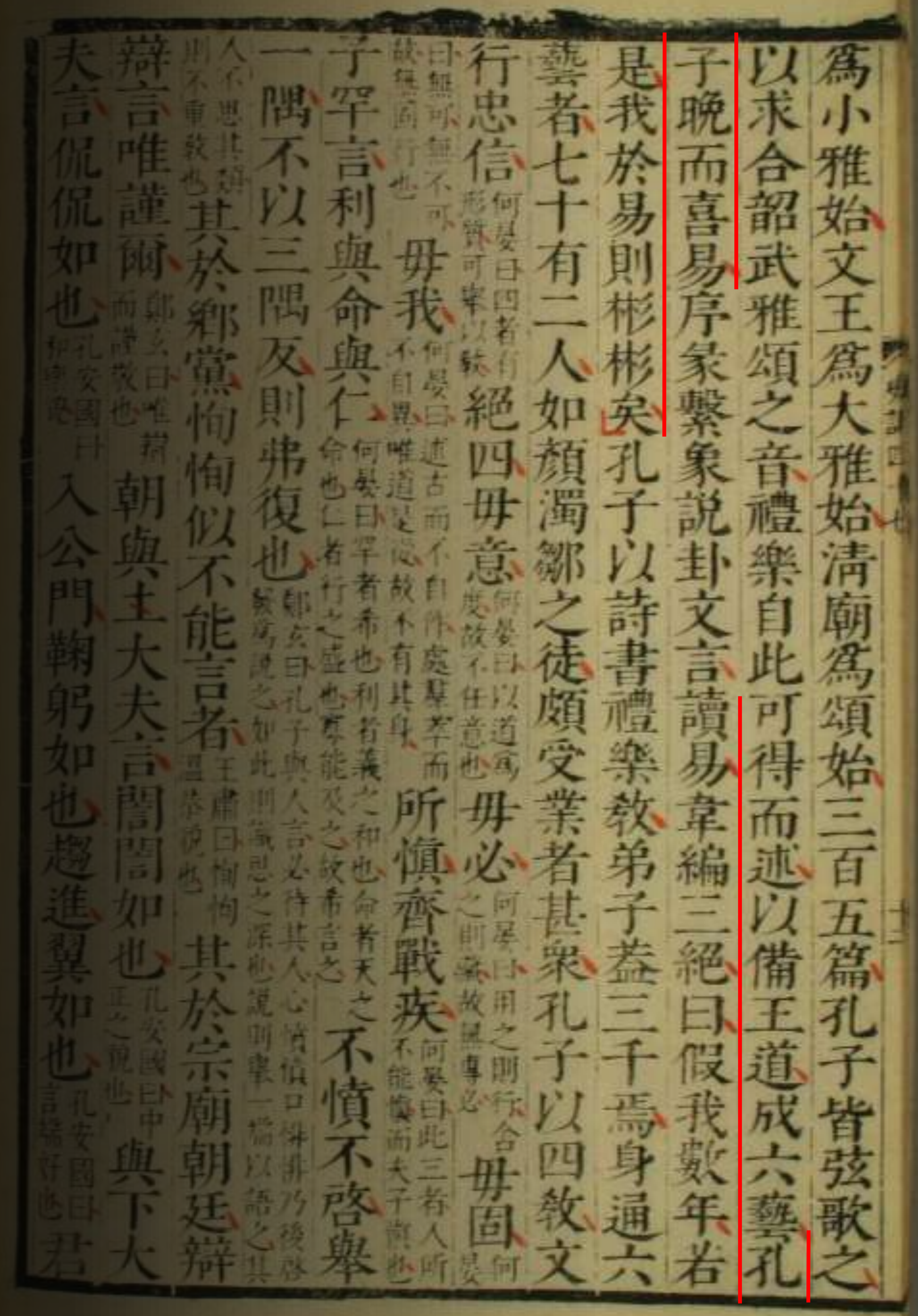

爲小雅始文王爲大雅始清廟爲頌始三百五篇孔子皆弦歌之以求合韶武雅頌之音禮樂自此可得而述以備王道成六藝孔子晚而喜易序彖繫象說卦文言讀易韋編三絕曰假我數年若是我於易則彬彬矣孔子以詩書禮樂教弟子蓋三千焉身通六藝者七十有二人如顏濁鄒之徒頗受業者甚衆孔子以四教文行忠信何晏曰四者行之形質可覩絕四毋意何晏曰以道爲心故不任意也毋必何晏曰以道爲之則行合必之則泥故謹專必毋固何晏曰無可無不可故無固行也毋我何晏曰適古而不自作處卑而故不有其身所愼齊戰疾何晏曰此三者人所不能愼而夫子獨也子罕言利與命與仁何晏曰罕者希也利者義之和也命者天之命也仁者行之盛也蓋能及之故希言之不憤不啓舉一隅不以三隅反則弗復也鄭玄曰孔子與人言必待其人心憤悱乃後啓發之如此則識思之深也舉一隅以語之其人不思其類也則不重教也其於鄉黨恂恂似不能言者王肅曰恂恂信順之貌鄉黨宗廟朝廷辯言唯謹爾鄭玄曰雖辯言而謹慎也其於宗廟朝廷辯言唯謹爾鄭玄曰雖辯言而謹慎也朝與上大夫言闇闇如也孔安國曰中正之貌也與下大夫言侃侃如也孔安國曰和樂貌也入公門鞠躬如也趨進翼如也孔安國曰君

孔子、晩くして易を喜ぶ。（中略）易を読むに、韋編①三たび絶える。曰く、「我に数年を仮せ。若し是らば、我は易に於いて則ち彬彬たらん。」

（前漢）司馬遷『史記』孔子世家

【解説】

①韋編：木簡を結ぶ革紐のこと。孔子は晩年、易経を好み、そのために木簡を結ぶ革紐が三度も擦り切れたという。史記が伝えるこの逸話は、勤勉さを表す「韋編三絶」という故事成語となった。



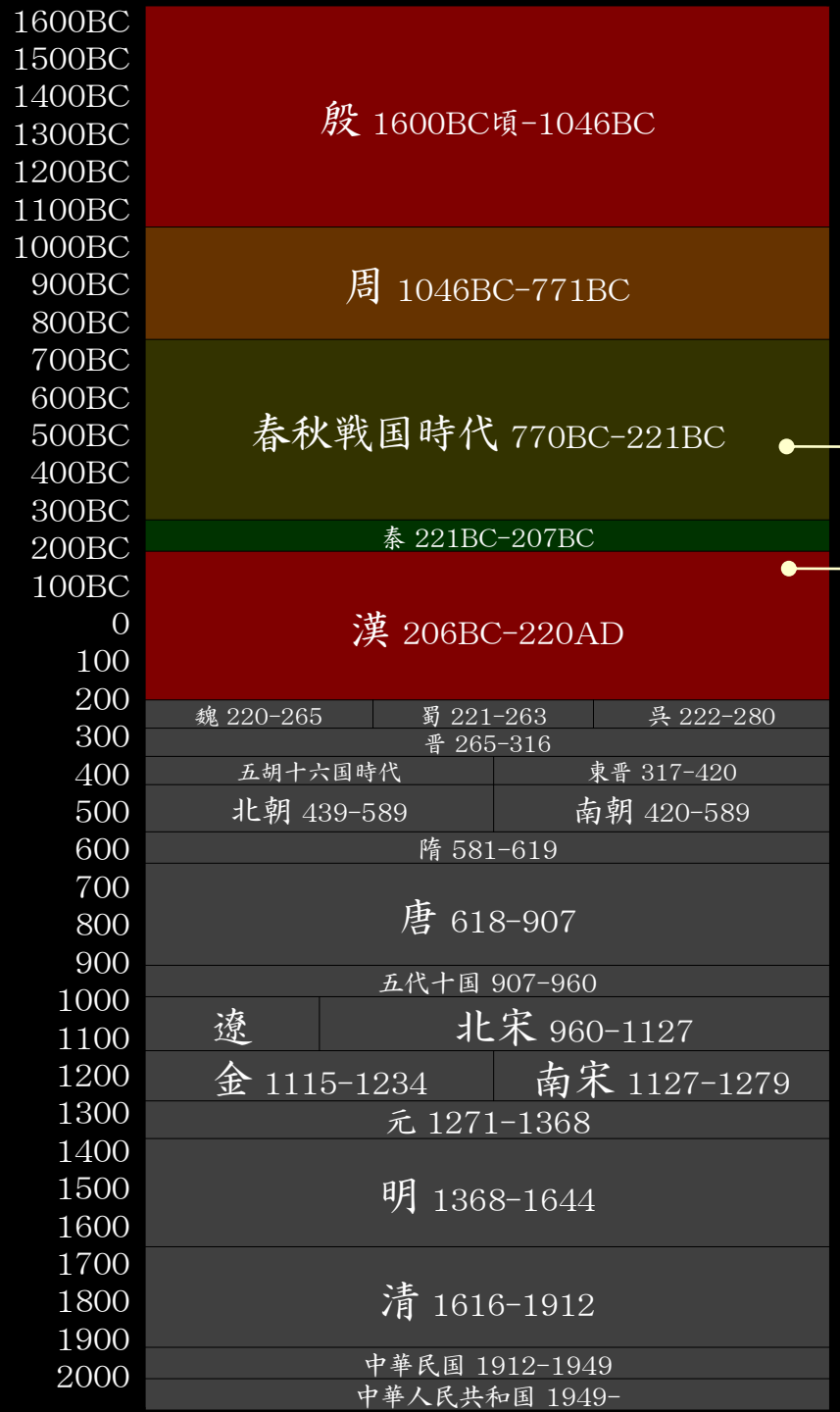
爲小雅始文王爲大雅始清廟爲頌始三百五篇孔子皆弦歌之
以求合韶武雅頌之音禮樂自此可得而述以備王道成六藝孔
子晚而喜易序彖繫象說卦文言讀易韋編三絕曰假我數年若
是我於易則彬彬矣孔子以詩書禮樂教弟子蓋三千焉身通六
藝者七十有二人如顔濁鄒之徒頗受業者甚衆孔子以四教文
行忠信 絕四毋意 毋必 毋固
毋我 所慎齊戰疾
子罕言利與命與仁 不憤不啓舉
一隅不以三隅反則弗復也
其於鄉黨恂恂似不能言者 其於宗廟朝廷辯
辯言唯謹爾 朝與上大夫言誾誾如也 與下大
夫言侃侃如也 入公門鞠躬如也趨進翼如也 君

孔子は晩年、易を好んだ。(中略)易を読む中に革紐が三回も切れた。(孔子は)言った。「どうか私にあと数年の寿命を与えてください。そうすれば、私は易に精通することができるでしょう。」

(前漢)司馬遷『史記』孔子世家

【解説】

①革紐：原文は「韋編」。孔子は晩年、易経を好み、木簡を結ぶ革紐が三度も擦り切れたという。史記が伝えるこの逸話は、勤勉さを表す「韋編三絶」という故事成語となった。



孔子(前551～前479)

紙が誕生する

漢民族の形成と紙の誕生

秦が天下統一からわずか十四年で滅んだ後、中国をふたたび統一したのは漢であった。

儒教思想をもとに新たなナショナル・アイデンティティーを築いた漢の名は、やがて中華民族の代名詞となっていく。

漢代には、中国の文化史上、画期的な事件が起った。紙の誕生である。紙という安価な書写材料の誕生により、それまで歴史の闇に消えていた多くの文学作品が記録され、後世に伝えられた。後漢末の実話を描いた長編叙事詩「焦仲卿の妻」もそうした作品の一つである。

講義内容

第一節　漢
　　―民族の代名詞となった帝国の誕生

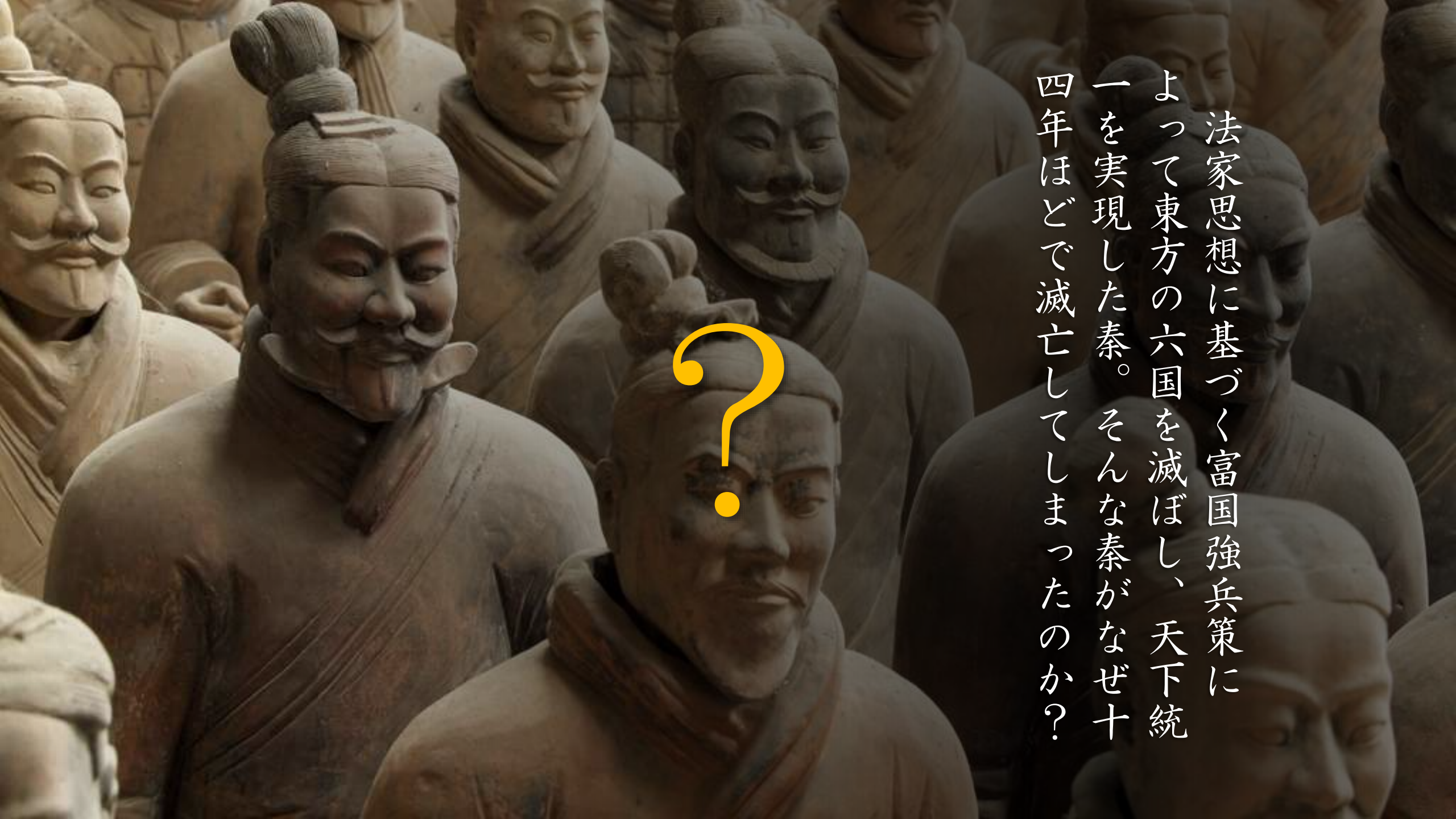
第二節　紙の誕生
　　―紙はいつ誕生したのか

第三節　焦仲卿の妻
　　―後漢末の実話を描いた長編叙事詩

第一節

漢

民族の代名詞となった帝国の誕生

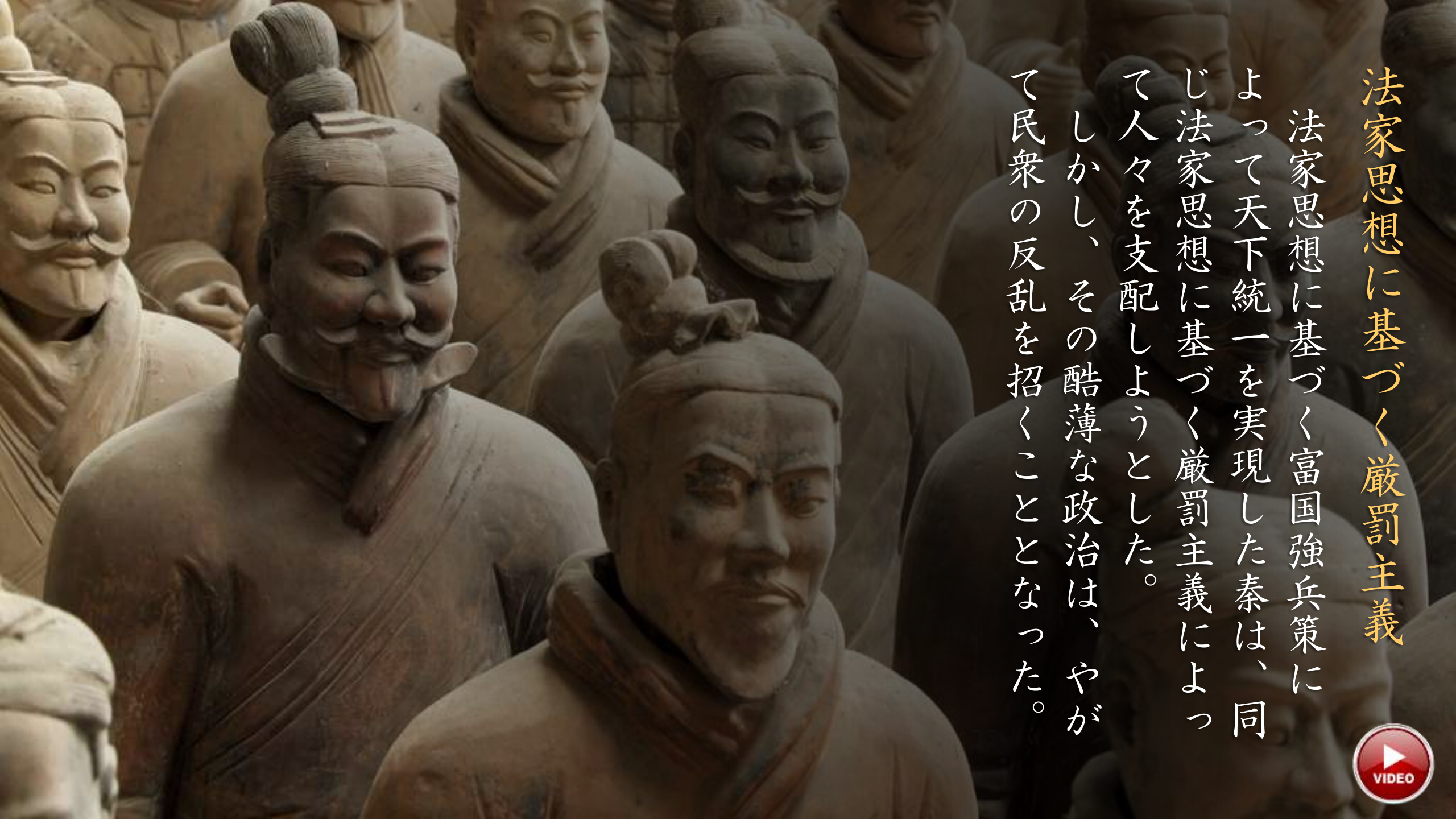


法家思想に基づく富国強兵策によって東方の六国を滅ぼし、天下統一を実現した秦。そんな秦がなぜ十四年ほどで滅亡してしまったのか？

信賞必罰

功のあった者には必ず褒賞を与え
罪を犯した者は容赦なく処罰せよ

商鞅(B.C.390?～B.C.338)



法家思想に基づく厳罰主義

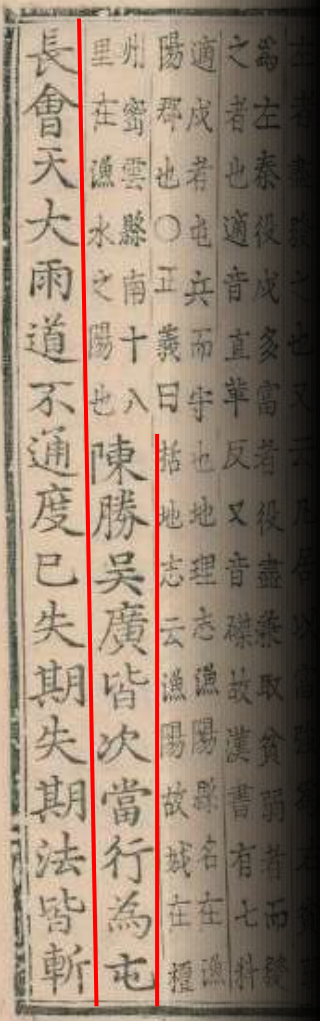
法家思想に基づく富国強兵策によって天下統一を実現した秦は、同じ法家思想に基づく厳罰主義によって人々を支配しようとした。しかし、その酷薄な政治は、やがて民衆の反乱を招くこととなった。

VIDEO

資料映像：ＮＨＫスペシャル「故宮」より

法家思想の限界―陳勝・呉広の乱

始皇帝が死んだ翌年、九百名の農民が軍に徴用され、陳勝と呉広が屯長として引率することになった。

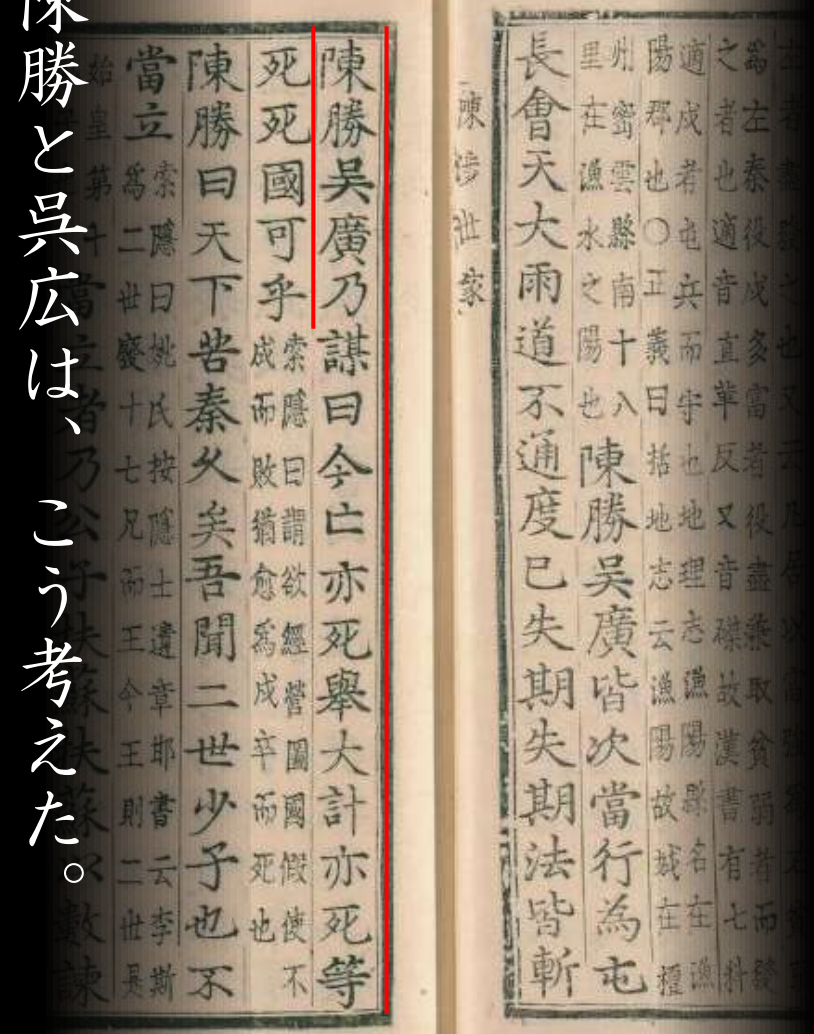


陳勝呉廣乃謀曰今亡亦死舉大計亦死等死死國可乎索隱曰謂欲經營國家假使不成而敗猶愈爲戍卒而死也陳勝曰天下苦秦久矣吾聞二世少子也不當立索隱曰姚氏按隱士逸章耶書云李斯始皇第十子當立爲二世慶十七兄而王今王則二世長

ところが、おりからの大雨で道がふさがり、期日までに間に合いそうにない。間に合わなければ、秦の法では、みな処刑されることになっていた。

（前漢）司馬遷『史記』陳勝世家

法家思想の限界——陳勝・呉広の乱

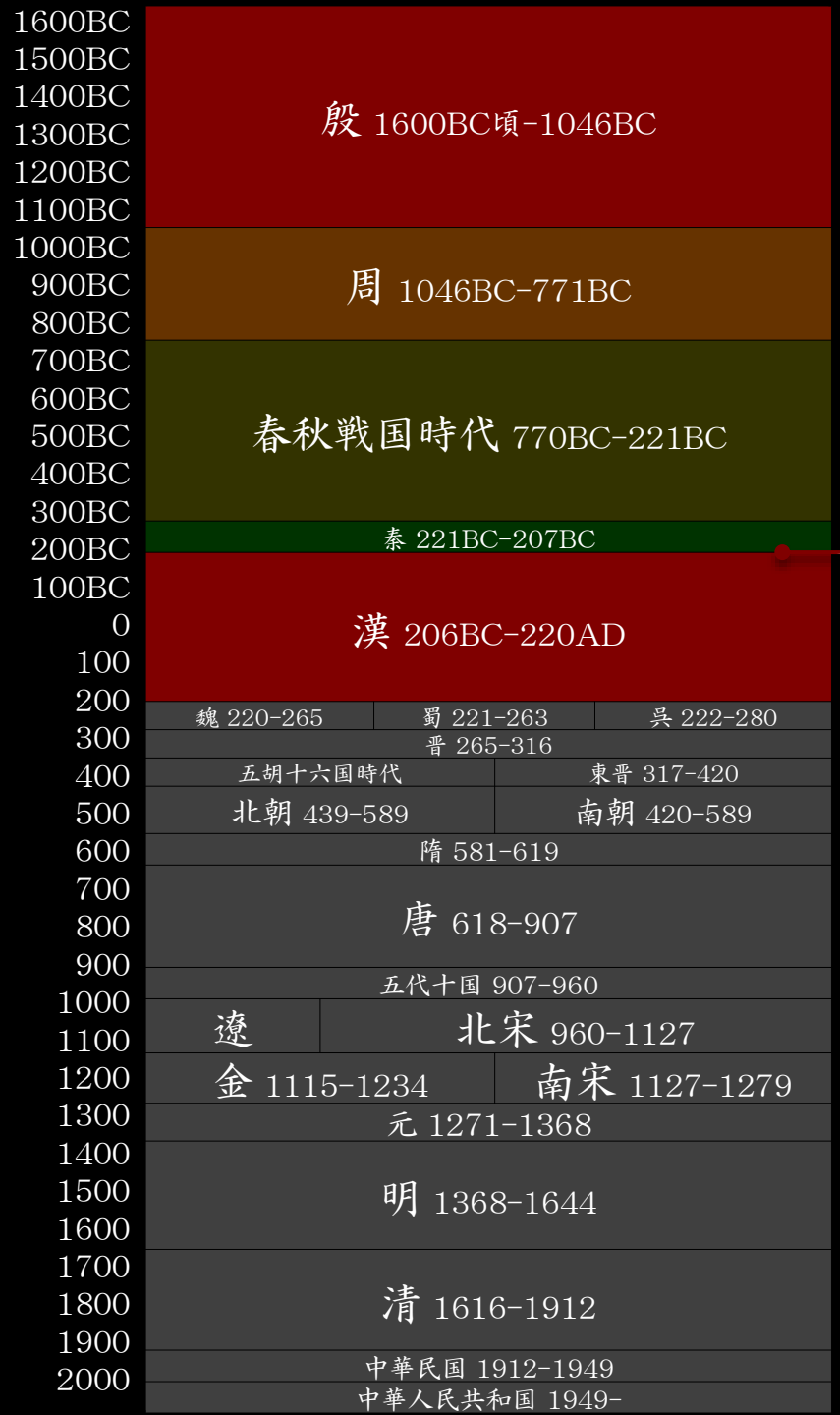

陳勝呉廣乃謀曰今亡亦死舉大計亦死等死死國可乎索隱曰謂欲經營國家假使不成而敗猶愈爲成辛而死也陳勝曰天下苦秦久矣吾聞二世少子也不當立索隱曰姚氏按隱士逸章耶書云李斯始皇第十子扶蘇爲二世慶十七兄而王今王則二世長

陳勝呉廣皆次當行爲屯長會天大雨道不通度已失期失期法皆斬

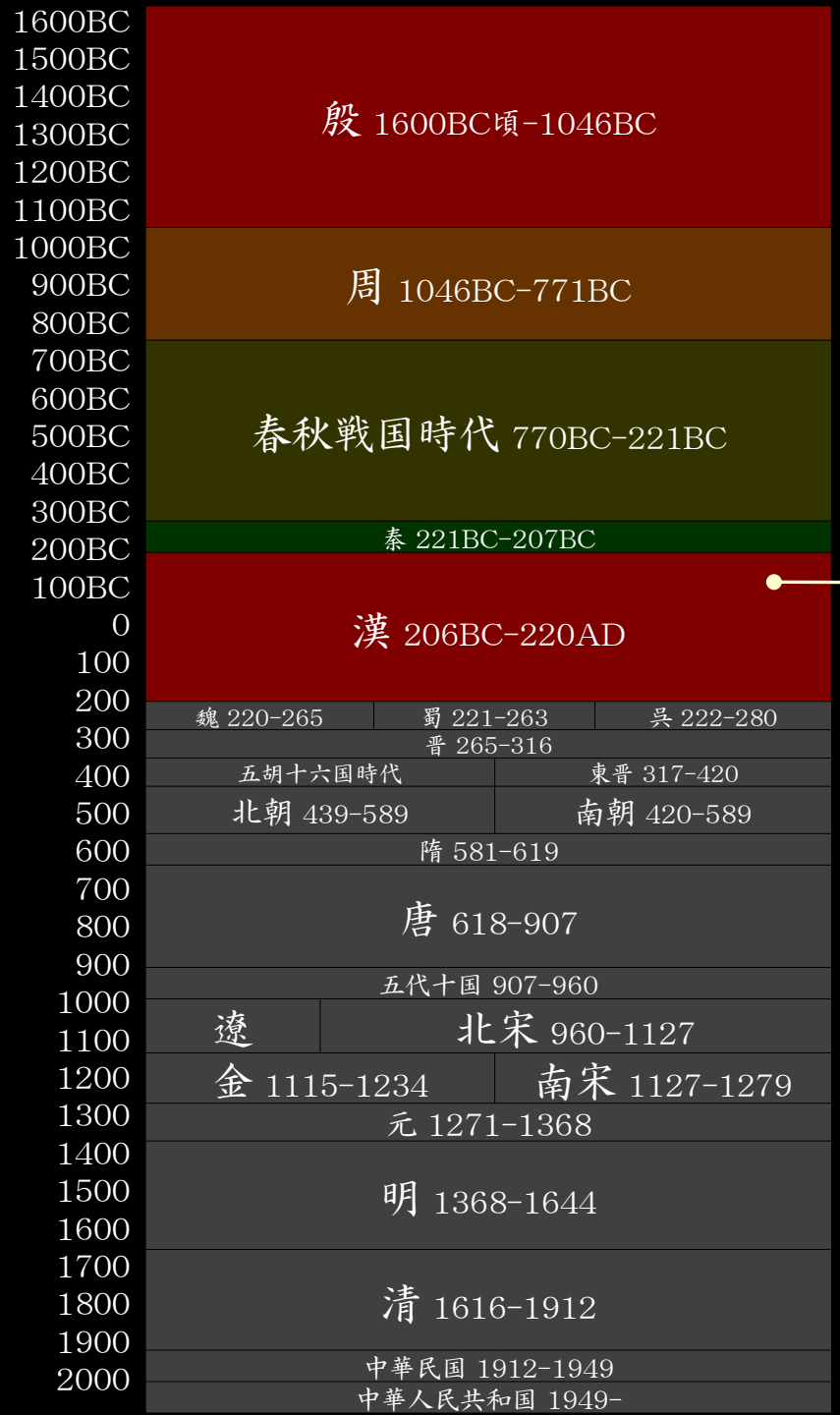
陳勝と呉広は、こう考えた。

「いま逃げても死刑、反乱を起こしても死刑だ。同じ死刑になるなら、国を変えるために死のうじゃないか。」

（前漢）司馬遷『史記』陳勝世家



法家思想による
厳罰主義
民衆の反乱により秦滅亡(BC207)



法家思想による
厳罰主義

漢の武帝、儒教を国教化(BC136)

儒教思想による
教化主義

儒教が唱える徳と礼による社会秩序

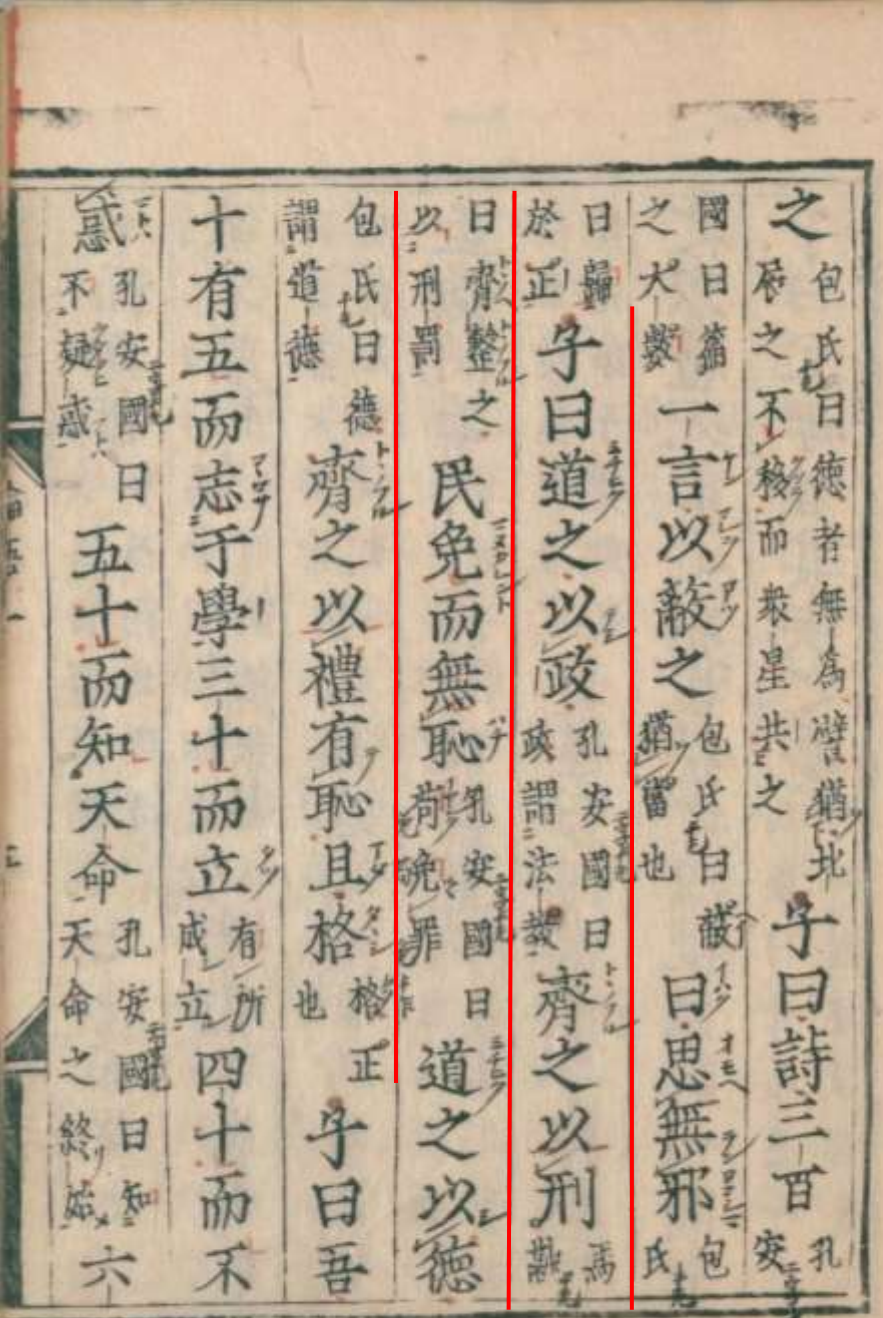
子曰く、之を導くに政①を以てし、之を斉うるに刑を以てすれば、民は免れて恥無し。之を導くに徳②を以てし、之を斉うるに礼を以てすれば、恥ありて且つ格し。

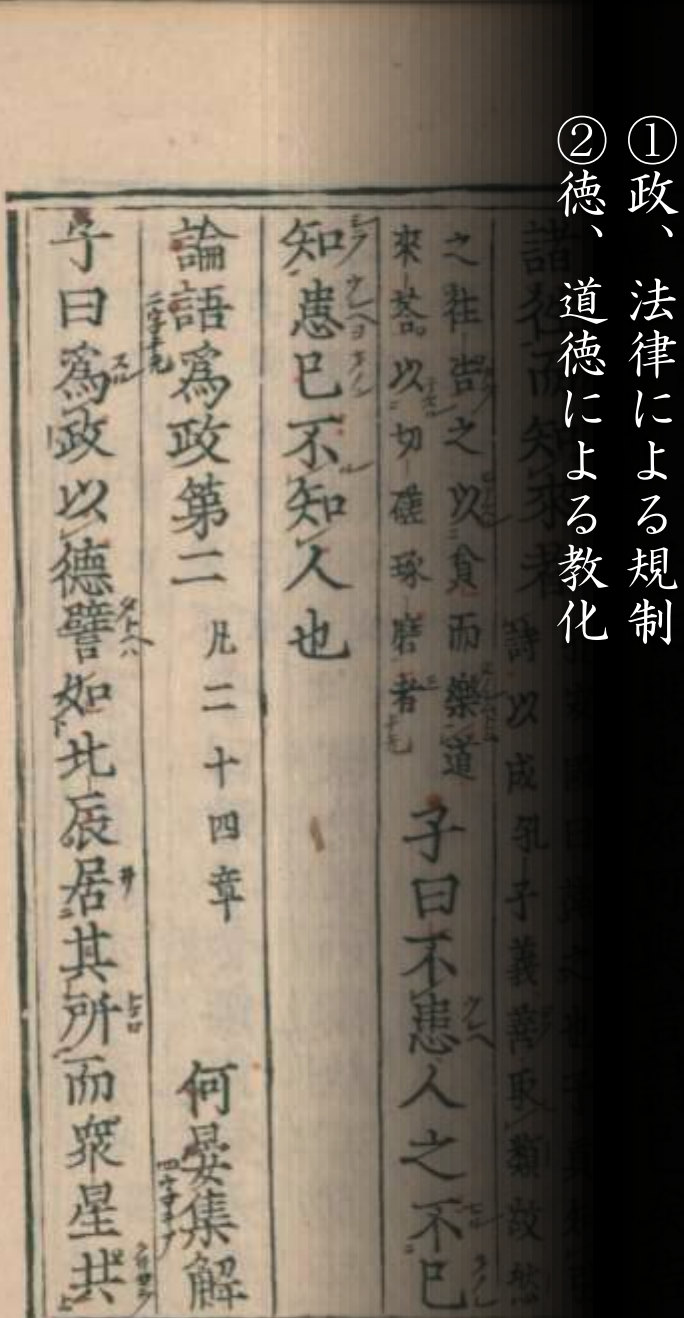
論語為政第二

【注釈】

①政、法律による規制

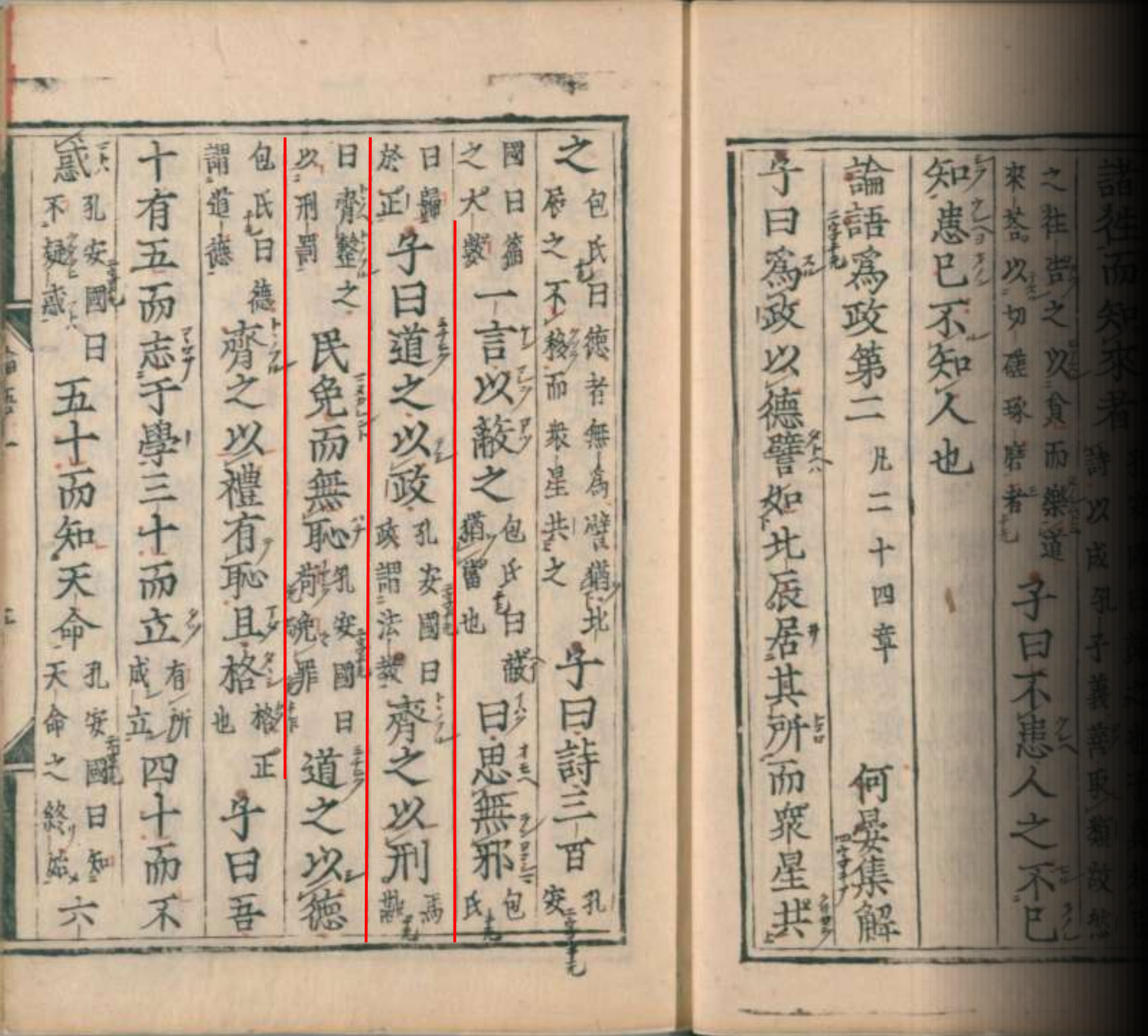
②徳、道徳による教化


之 包氏曰德者無爲而北辰猶北
辰之不移而衆星共之 子曰詩三百 孔安
國曰蔽一言以蔽之 包氏曰蔽猶當也 曰思無邪 包氏
曰歸於正 子曰道之以政 孔安國曰政謂法制 齊之以刑 馬融曰
刑罰 民免而無恥 孔安國曰免而無刑 道之以德 包氏曰德謂道德 齊之以禮有恥且格 孔安國曰格正也 子曰吾
十有五而志于學三十而立 有所成立 四十而不惑 孔安國曰不疑惑 五十而知天命 孔安國曰知天命之終始 六


之往告之以貧而樂道 子曰不患人之不己
知患己不知人也

論語爲政第二 凡二十四章 何晏集解

子曰爲政以德譬如北辰居其所而衆星共


諸往而知來者

之往 告之以貧而樂道 來答以切磋琢磨者

子曰不患人之不己知患不知人也

論語爲政第二　凡二十四章　何晏集解

子曰爲政以德譬如北辰居其所而衆星共之

包氏曰德者無爲譬猶北辰之不移而衆星共之

子曰詩三百 孔安國曰篇之大數 一言以蔽之 包氏曰蔽猶當也 曰思無邪 包氏曰歸於正

子曰道之以政 孔安國曰政謂法教 齊之以刑 馬融曰齊整之以刑罰 民免而無恥 孔安國曰苟免罪 子曰道之以德

齊之以禮有恥且格 包氏曰德謂道德 格正也 子曰吾

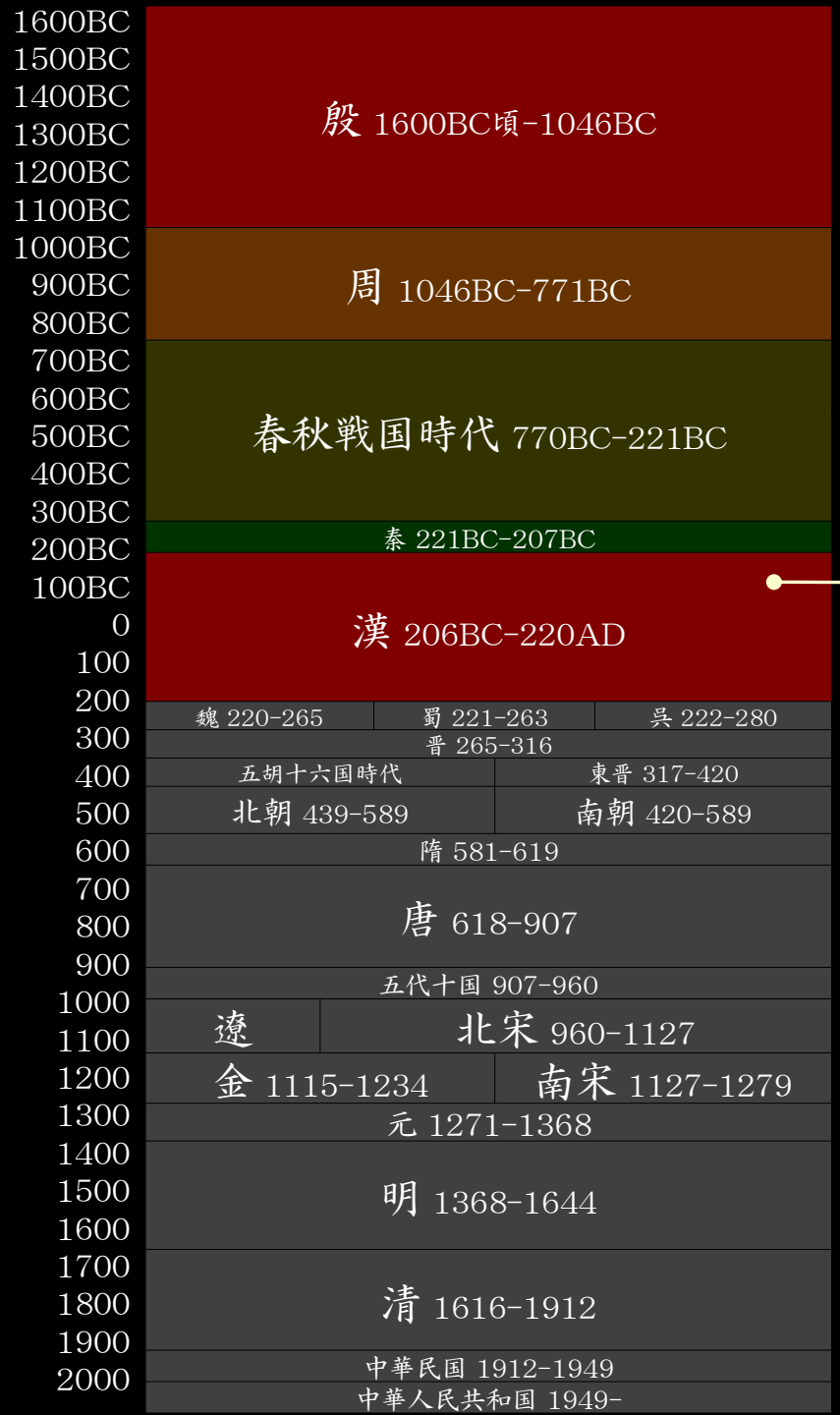
十有五而志于學三十而立 有所成立 四十而不

惑 孔安國曰不疑惑 五十而知天命 孔安國曰知天命之終始 六

儒教が唱える徳と礼による社会秩序

孔子は言った。「人を法律によって指導し、刑罰によって秩序づけたのでは、罪を免れた者はそれを恥としはしない。しかし、人を道徳で指導し、礼儀によって秩序づければ、恥を知り、自らを正すであろう。」

論語為政第二



法家思想による
厳罰主義

漢の武帝、儒教を国教化(BC136)

儒教思想による
教化主義

↓

漢語を話し、儒教を信奉する漢民族の形成

戦犯裁判と教化主義

第二次世界大戦後、連合国が各地で行った戦犯裁判では、起訴された日本人戦犯約五六〇〇人中、約一〇〇〇人が処刑された。

一方、一九五六年に中国が行った裁判では、一〇六九人中、処刑されたものは一人もなく、全員が帰国を許された。日本への留学経験もある首相・周恩来が「制裁や復讐では憎しみの連鎖は切れない」と、人間性の回復による更生を指示したからである。

周恩来(1898-1976)

第二節

紙の誕生

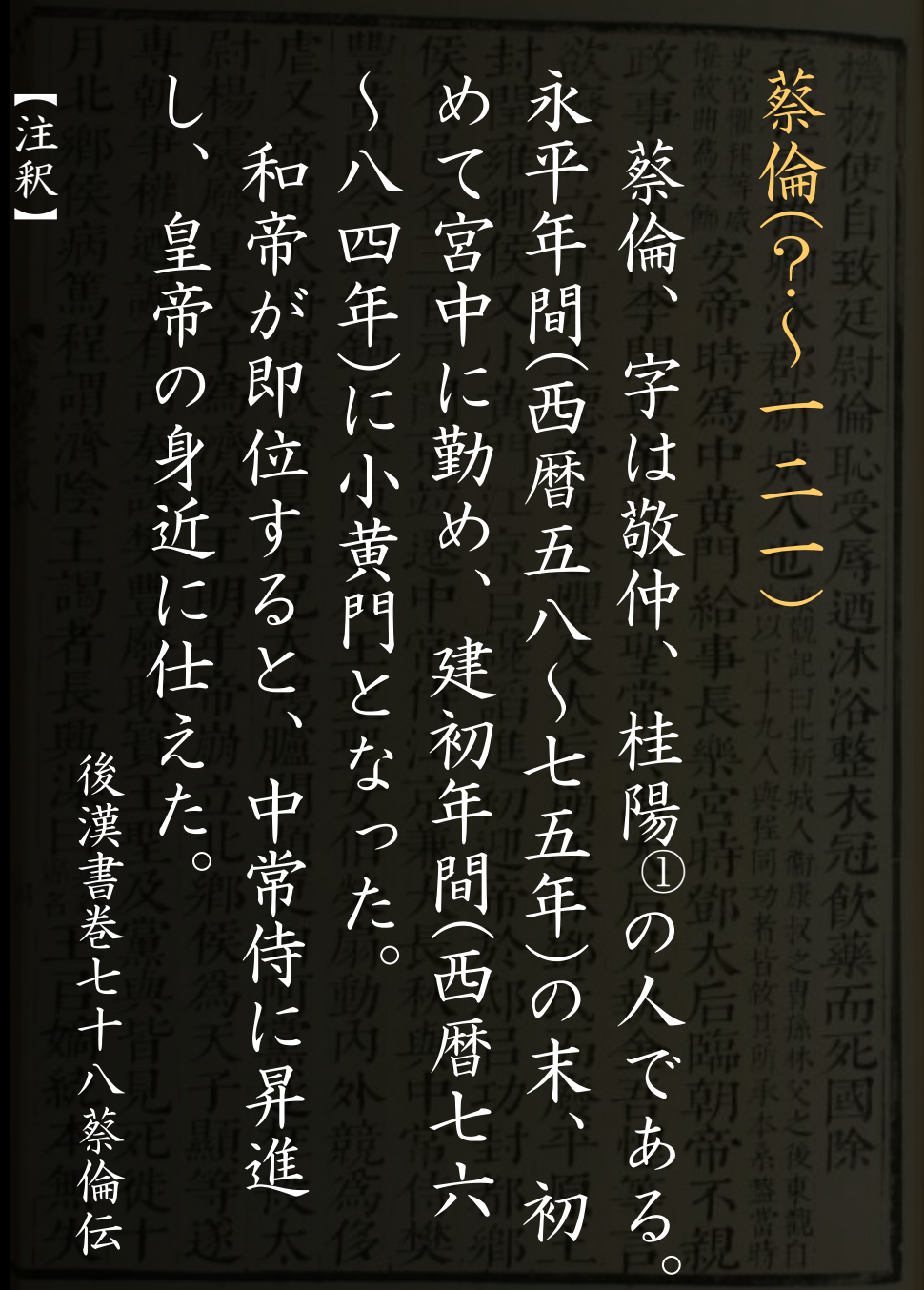
紙はいつ誕生したのか？

紙を発明したのは誰か？

「紙は西暦一〇五年、後漢の蔡倫が発明した」

世界史の教科書に紹介されているこの説は、考古学上の発見と、中国の製紙技術史に関する研究によって、大きく修正を迫られている。

この蔡倫とはどのような人物だったのか、なぜ彼は紙の発明者とされたのか、そして紙は実際にはいつ誕生したのだろうか。


侯

蔡倫字敬仲桂陽人也呂永平末始給事宮掖建初中爲小黄門及和帝卽位轉中常侍豫參帷幄倫有才學盡心敦慎數犯嚴顔匡弼得失每至休沐輒閉門絕賓暴體田野後加位尚方令永元九年監作祕劒及諸器械莫不精工堅密爲後世法自古書契多編以竹簡其用縑帛者謂之爲紙縑貴而簡重竝不便於人倫迺造意用樹膚麻頭及敝布魚網以爲紙元興元年奏上之帝善其能自是莫不從用焉故天下咸稱蔡侯紙

元初元年鄧太后以倫久在宿衛封爲龍亭侯邑三百戶後爲長樂太僕四年帝以經傳之文多不正定迺選通儒謁者劉珍及博士良史詣東觀各讎校漢家法令倫監典其事倫初受竇后諷旨誣陷安帝祖母宋貴人及太后崩安帝始親萬

後漢書卷七十八

蔡倫（？～一二一）

蔡倫、字は敬仲、桂陽①の人である。永平年間（西暦五八～七五年）の末、初めて宮中に勤め、建初年間（西暦七六～八四年）に小黄門となった。

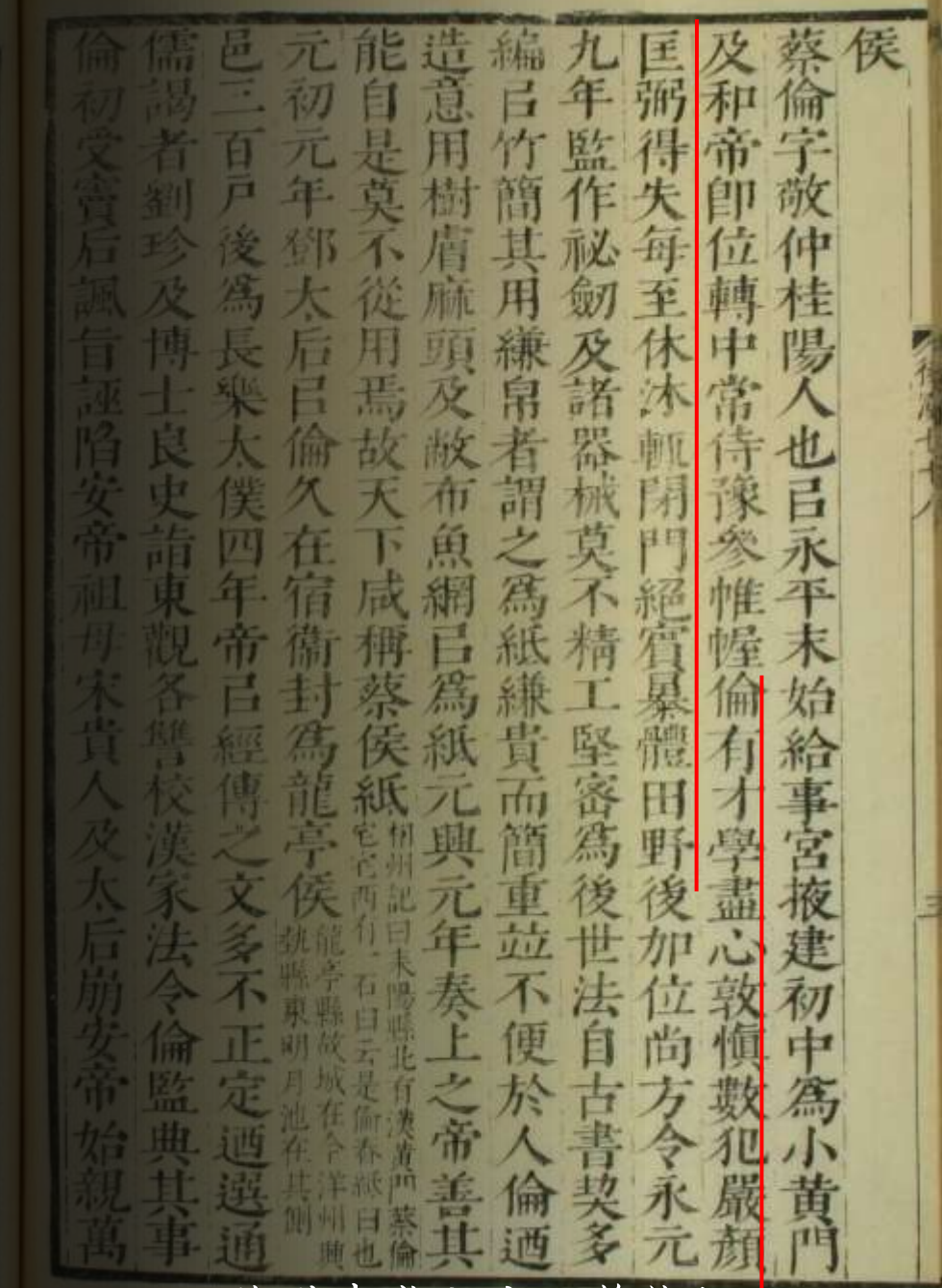
和帝が即位すると、中常侍に昇進し、皇帝の身近に仕えた。

後漢書巻七十八蔡倫伝

【注釈】

①桂陽：現在の湖南省郴州（ちんしゅう）市。

湖南省郴州市


侯
蔡倫字敬仲桂陽人也呂永平末始給事宮掖建初中爲小黄門及和帝卽位轉中常侍豫參帷幄倫有才學盡心敦慎數犯嚴顔匡弼得失每至休沐輒閉門絕賓暴體田野後加位尚方令永元九年監作祕劒及諸器械莫不精工堅密爲後世法自古書契多編以竹簡其用縑帛者謂之爲紙縑貴而簡重竝不便於人倫迺造意用樹膚麻頭及敝布魚網以爲紙元興元年奏上之帝善其能自是莫不從用焉故天下咸稱蔡侯紙
元初元年鄧太后以倫久在宿衛封爲龍亭侯邑三百戸後爲長樂太僕四年帝以經傳之文多不正定迺選通儒謁者劉珍及博士良史詣東觀各讎校漢家法令倫監典其事倫初受竇后諷旨誣陷安帝祖母宋貴人及太后崩安帝始親萬

後漢書卷七十八蔡倫伝

蔡倫（？～一二一）

蔡倫は才能と学問があり、誠実で慎重な人物であった。

皇帝の怒りに触れるようなことがあっても、しばしばその得失を論じ、皇帝を補佐する一方、休日には門を閉ざして来客を断ち、野外にその姿を見せていた。

後漢書巻七十八蔡倫伝

蔡倫（？～一二一）

後に（皇帝の御物を作ることを主な職掌とする）尚方令の位を与えられ、永元九年（西暦九七年）、秘剣やさまざまな道具の製作を監督した。どれも精工かつ頑丈で、後世の手本となった。

侯

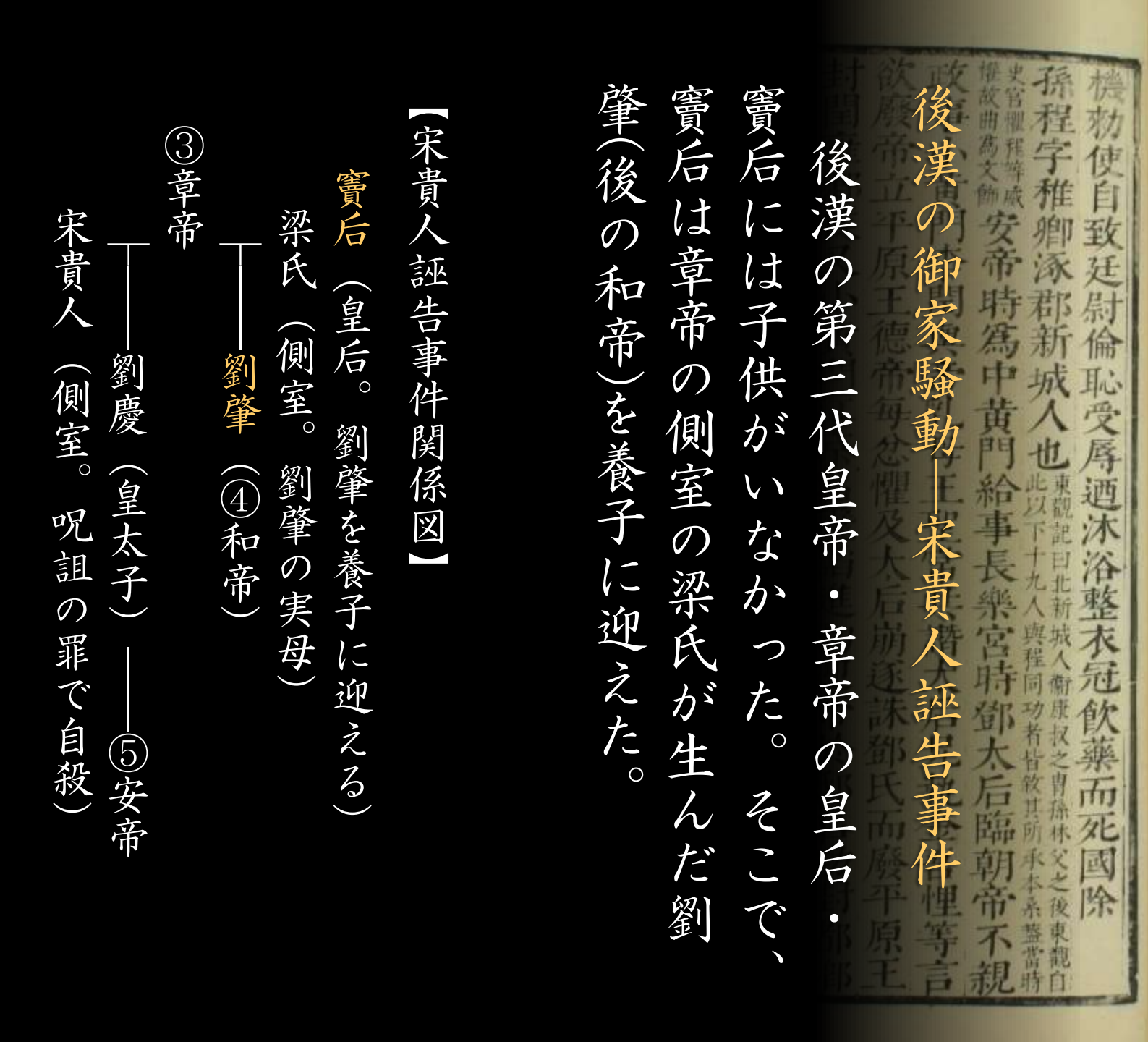
蔡倫字敬仲桂陽人也呂永平末始給事宮掖建初中爲小黄門及和帝卽位轉中常侍豫參帷幄倫有才學盡心敦慎數犯嚴顔匡弼得失每至休沐輒閉門絕賓暴體田野後加位尚方令永元九年監作秘劒及諸器械莫不精工堅密爲後世法自古書契多編以竹簡其用縑帛者謂之爲紙縑貴而簡重竝不便於人倫迺造意用樹膚麻頭及敝布魚網以爲紙元興元年奏上之帝善其能自是莫不從用焉故天下咸稱蔡侯紙

元初元年鄧太后以倫久在宿衛封爲龍亭侯邑三百戸後爲長樂太僕四年帝以經傳之文多不正定迺選通儒謁者劉珍及博士良史詣東觀各讎校漢家法令倫監典其事倫初受竇后諷旨誣陷安帝祖母宋貴人及太后崩安帝始親萬

後漢の御家騒動―宋貴人誣告事件

〔解説〕

幼いころ宦官として宮中に入り、皇帝の側近として誠実に仕えてきた蔡倫であったが、その後、後漢の皇室内で起こった跡目争いに巻き込まれ、不幸な末路を歩むことになる。


侯
蔡倫字敬仲桂陽人也呂永平末始給事宮掖建初中爲小黄門
及和帝卽位轉中常侍豫參帷幄倫有才學盡心敦慎數犯嚴顔
匡弼得失每至休沐輒閉門絕賓暴體田野後加位尚方令永元
九年監作秘劒及諸器械莫不精工堅密爲後世法自古書契多
編以竹簡其用縑帛者謂之爲紙縑貴而簡重竝不便於人倫迺
造意用樹膚麻頭及敝布魚網以爲紙元興元年奏上之帝善其
能自是莫不從用焉故天下咸稱蔡侯紙
元初元年鄧太后以倫久在宿衛封爲龍亭侯
邑三百戶後爲長樂太僕四年帝以經傳之文多不正定迺選通
儒謁者劉珍及博士良史詣東觀各讐校漢家法令倫監典其事
倫初受竇后諷旨誣陷安帝祖母宋貴人及太后崩安帝始親萬

後漢書卷七十八蔡倫伝

後漢の御家騒動―宋貴人誣告事件

後漢の第三代皇帝・章帝の皇后・竇后には子供がいなかった。そこで、竇后は章帝の側室の梁氏が生んだ劉肇(後の和帝)を養子に迎えた。

【宋貴人誣告事件関係図】

竇后（皇后。劉肇を養子に迎える）
梁氏（側室。劉肇の実母）
――劉肇（④和帝）

③章帝
――劉慶（皇太子）――⑤安帝
宋貴人（側室。呪詛の罪で自殺）

後漢の御家騒動―宋貴人誣告事件

竇后は養子に迎えた劉肇に帝位を継がせようと、皇太子・劉慶の母である宋貴人に冤罪をかけ、自殺に追いやった。そして劉肇の実母・梁氏にも冤罪をかけて自殺させた。

【宋貴人誣告事件関係図】

竇后（皇后。劉肇を養子に迎える）

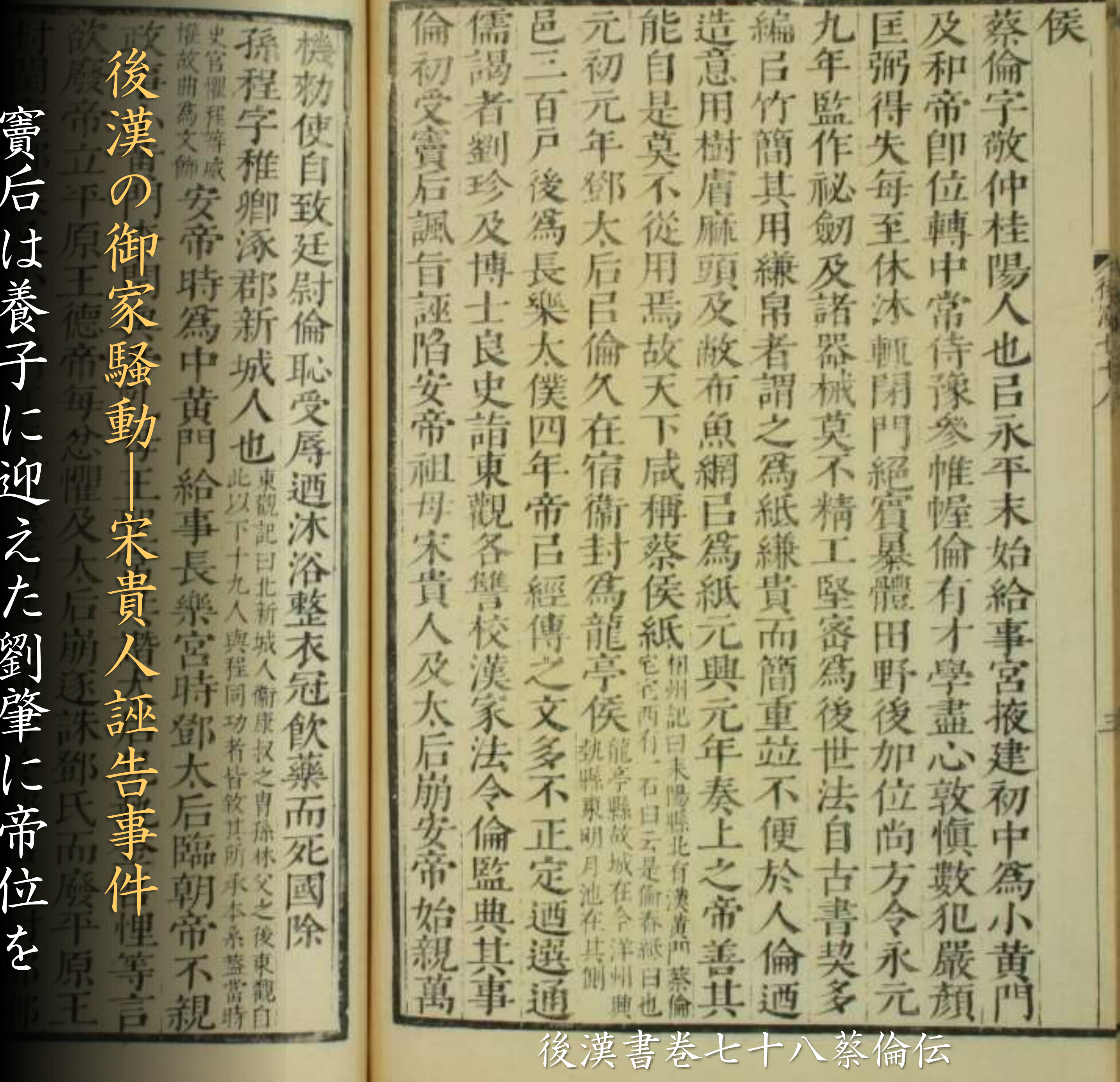
梁氏（側室。劉肇の実母）

├─劉肇（④和帝）

③章帝

宋貴人（側室。呪詛の罪で自殺）

├─劉慶（皇太子）──⑤安帝


機勅使自致廷尉倫恥受辱迺沐浴整衣冠飲藥而死國除

孫程字稚卿涿郡新城人也

安帝時爲中黄門給事長樂宮時鄧太后臨朝帝不親

侯

蔡倫字敬仲桂陽人也以永平末始給事宮掖建初中爲小黄門

及和帝即位轉中常侍豫參帷幄倫有才學盡心敦慎數犯嚴顏

匡弼得失每至休沐輒閉門絶賓暴體田野後加位尚方令永元

九年監作祕劍及諸器械莫不精工堅密爲後世法自古書契多

編以竹簡其用縑帛者謂之爲紙縑貴而簡重並不便於人倫迺

造意用樹膚麻頭及敝布魚網以爲紙元興元年奏上之帝善其

能自是莫不從用焉故天下咸稱蔡侯紙

元初元年鄧太后以倫久在宿衞封爲龍亭侯

邑三百戸後爲長樂太僕四年帝以經傳之文多不正定迺選通

儒謁者劉珍及博士良史詣東觀各讎校漢家法令倫監典其事

倫初受竇后諷旨誣陷安帝祖母宋貴人及太后崩安帝始親萬

後漢書巻七十八蔡倫伝

後漢の御家騒動―宋貴人誣告事件

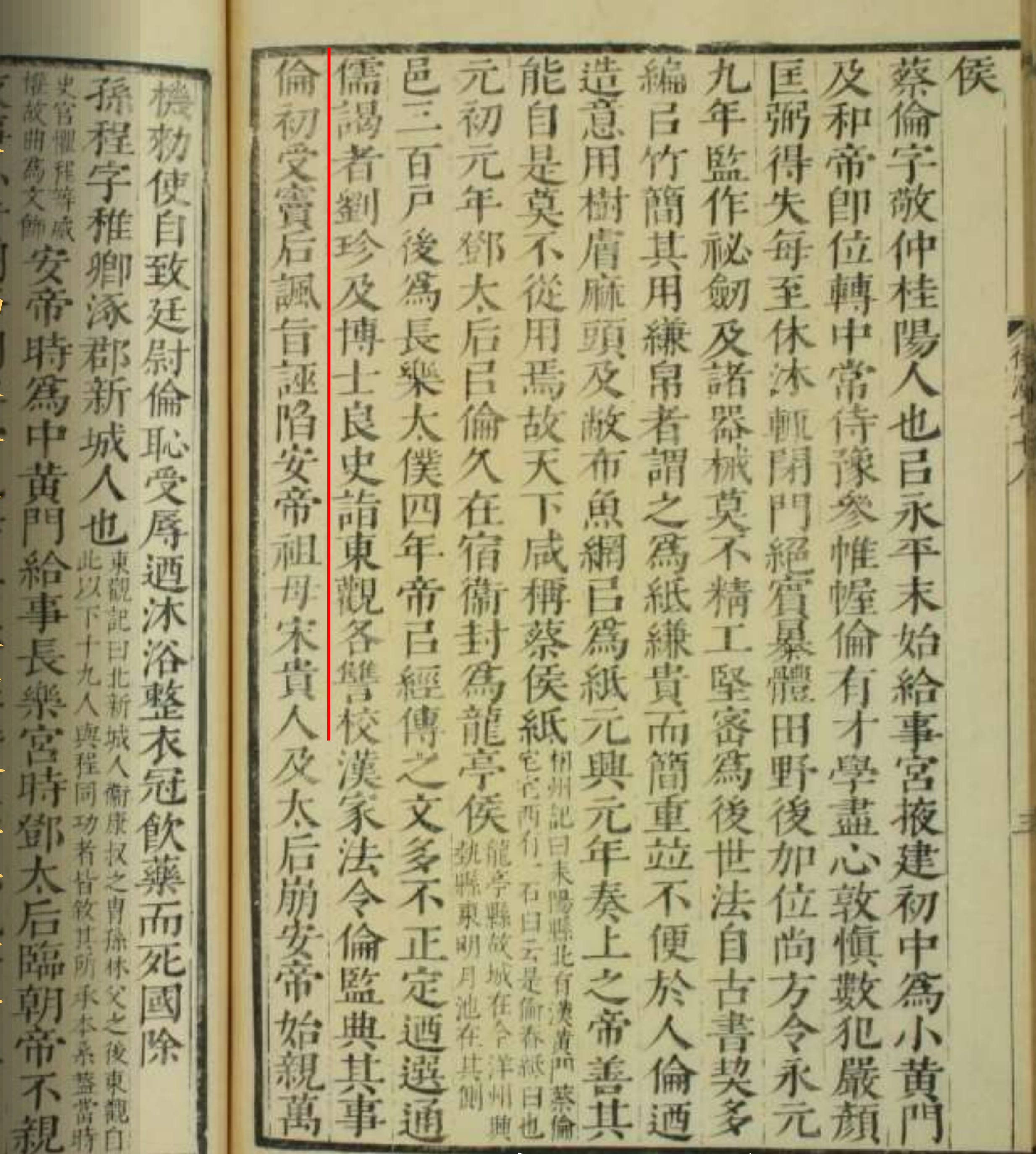
蔡倫は、当初、(章帝の皇后である)竇后から密命を受け、安帝の祖母である宋貴人を嘘の訴えによって陥れたことがあった。

後漢書巻七十八蔡倫伝

【宋貴人誣告事件関係図】

③章帝

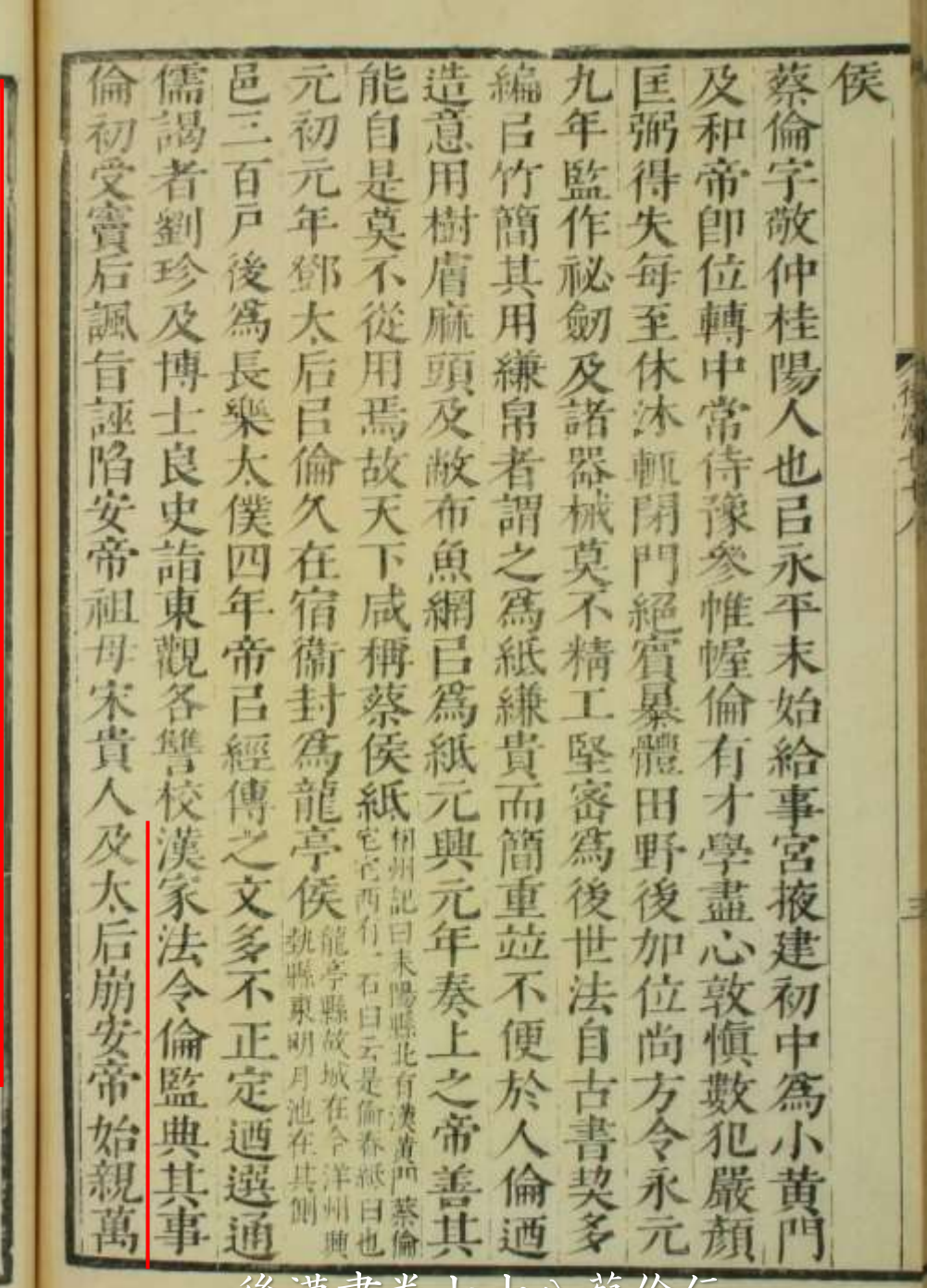
- 竇后(皇后。劉肇を養子に迎える)
- 梁氏(側室。劉肇の実母)
  - 劉肇(④和帝)
- 宋貴人(側室。呪詛の罪で自殺)
  - 劉慶(皇太子)―⑤安帝



機勑使自致廷尉倫恥受辱迺沐浴整衣冠飲藥而死國除
孫程字稚卿涿郡新城人也東觀記曰北新城人衛康叔之胄孫林父之後東觀自此以下十九人與程同功者皆敘其所承本系蓋當時史官懼程等威權故曲爲文飾安帝時爲中黃門給事長樂宮時鄧太后臨朝帝不親

侯
蔡倫字敬仲桂陽人也以永平末始給事宮掖建初中爲小黃門
及和帝即位轉中常侍豫參帷幄倫有才學盡心敦慎數犯嚴顏
匡弼得失每至休沐輒閉門絕賓暴體田野後加位尚方令永元
九年監作祕劒及諸器械莫不精工堅密爲後世法自古書契多
編以竹簡其用縑帛者謂之爲紙縑貴而簡重並不便於人倫迺
造意用樹膚麻頭及敝布魚網以爲紙元興元年奏上之帝善其
能自是莫不從用焉故天下咸稱蔡侯紙湘州記曰耒陽縣北有漢黃門蔡倫宅宅西有一石臼云是倫舂紙臼也
元初元年鄧太后以倫久在宿衛封爲龍亭侯龍亭縣故城在今洋州興道縣東明月池在其側
邑三百戶後爲長樂太僕四年帝以經傳之文多不正定迺選通
儒謁者劉珍及博士良史詣東觀各讎校漢家法令倫監典其事
倫初受竇后諷旨誣陷安帝祖母宋貴人及太后崩安帝始親萬

後漢書巻七十八蔡倫伝


侯
蔡倫字敬仲桂陽人也呂永平末始給事宮掖建初中爲小黄門
及和帝卽位轉中常侍豫參帷幄倫有才學盡心敦慎數犯嚴顔
匡弼得失每至休沐輒閉門絕賓暴體田野後加位尚方令永元
九年監作秘劒及諸器械莫不精工堅密爲後世法自古書契多
編以竹簡其用縑帛者謂之爲紙縑貴而簡重竝不便於人倫迺
造意用樹膚麻頭及敝布魚網以爲紙元興元年奏上之帝善其
能自是莫不從用焉故天下咸稱蔡侯紙
元初元年鄧太后以倫久在宿衛封爲龍亭侯
邑三百戸後爲長樂太僕四年帝以經傳之文多不正定迺選通
儒謁者劉珍及博士良史詣東觀各讐校漢家法令倫監典其事
倫初受竇后諷旨誣陷安帝祖母宋貴人及太后崩安帝始親萬

機勑使自致廷尉倫恥受辱迺沐浴整衣冠飲藥而死國除
孫程字稚卿涿郡新城人也
安帝時爲中黄門給事長樂宮時鄧太后臨朝帝不親

後漢の御家騒動―宋貴人誣告事件

竇太后が亡くなり、安帝が自ら政治を行うようになると、（蔡倫に）裁判所へ出廷するよう命じた。蔡倫は辱めを受けるのを恥じ、沐浴して衣冠を整え、毒薬を飲んで自殺した。

後漢書巻七十八蔡倫伝

【宋貴人誣告事件関係図】

竇后（皇后。劉肇を養子に迎える）
梁氏（側室。劉肇の実母）
――劉肇（④和帝）

③章帝
――劉慶（皇太子）――⑤安帝
宋貴人（側室。呪詛の罪で自殺）

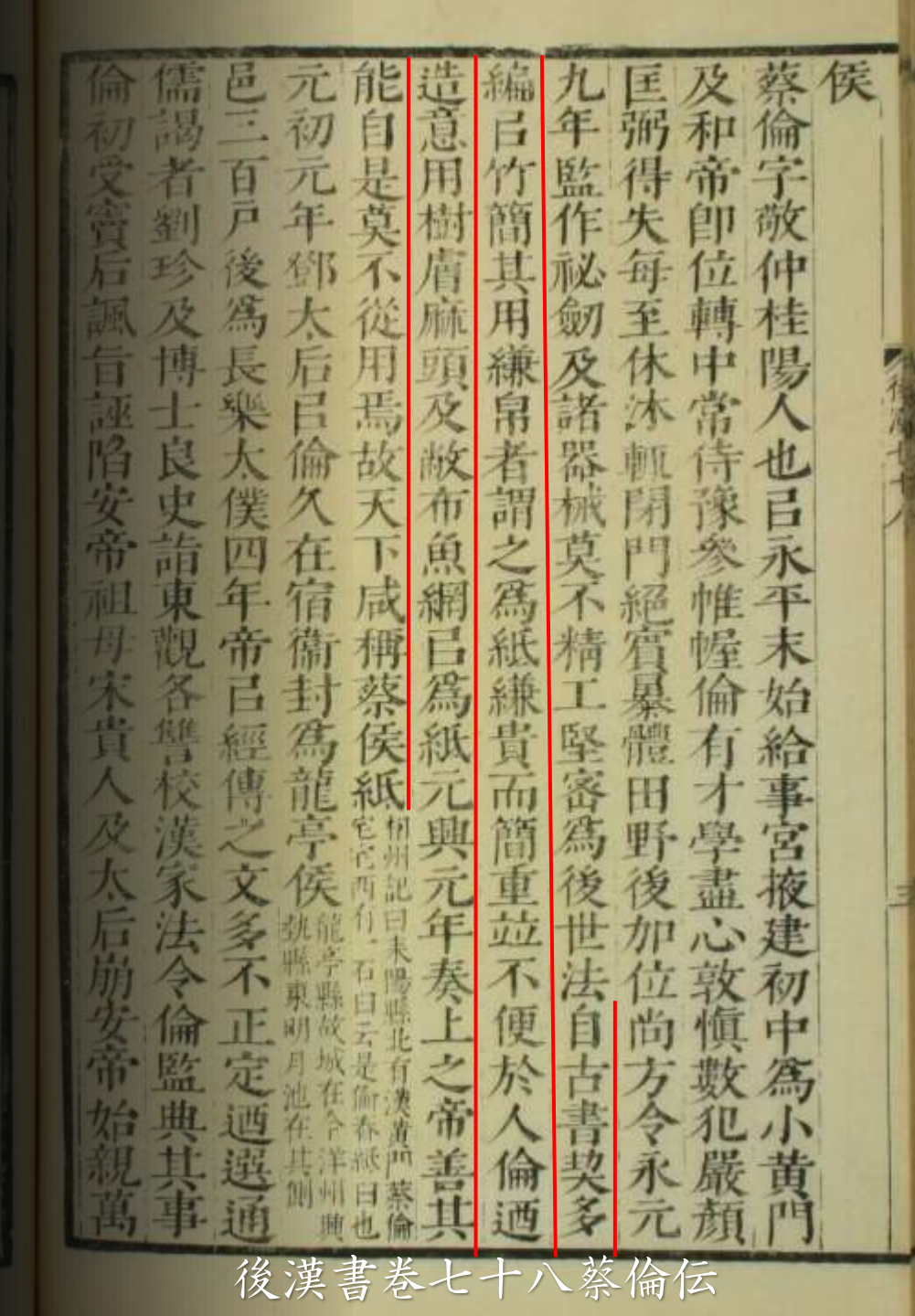
蔡倫と紙

むかしから書物には竹簡が多く使われ、絹布を使う場合、これを紙と呼んでいた。絹は値段が高く、竹簡は重く、ともに不便であった。

そこで蔡倫は、樹膚や麻、ぼろ布、魚網を使って紙を作る方法を考案した。

元興元年(西暦一〇五年)、これを皇帝に上奏した。皇帝は、その才能を称え、以後、みなこれを使うようになった。こうして世の人々はこれを「蔡侯紙」と呼んだ。

後漢書巻七十八蔡倫伝


侯
蔡倫字敬仲桂陽人也㠯永平末始給事宮掖建初中爲小黄門
及和帝卽位轉中常侍豫參帷幄倫有才學盡心敦愼數犯嚴顔
匡弼得失每至休沐輒閉門絕賓暴體田野後加位尚方令永元
九年監作祕劒及諸器械莫不精工堅密爲後世法自古書契多
編㠯竹簡其用縑帛者謂之爲紙縑貴而簡重竝不便於人倫迺
造意用樹膚麻頭及敝布魚網㠯爲紙元興元年奏上之帝善其
能自是莫不從用焉故天下咸稱蔡侯紙相州記曰耒陽縣北有漢黄門蔡倫宅宅西有一石臼云是倫舂紙臼也
元初元年鄧太后㠯倫久在宿衛封爲龍亭侯龍亭縣故城在今洋州興勢縣東明月池在其側
邑三百戶後爲長樂太僕四年帝㠯經傳之文多不正定迺選通
儒謁者劉珍及博士良史詣東觀各讐校漢家法令倫監典其事
倫初受竇后諷旨誣陷安帝祖母宋貴人及太后崩安帝始親萬

後漢書巻七十八蔡倫伝

1600BC
1500BC
1400BC
1300BC
1200BC
1100BC
1000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000
殷 1600BC頃-1046BC
周 1046BC-771BC
春秋戦国時代 770BC-221BC
秦 221BC-207BC
漢 206BC-220AD
魏 220-265
蜀 221-263
呉 222-280
晋 265-316
五胡十六国時代
東晋 317-420
北朝 439-589
南朝 420-589
隋 581-619
唐 618-907
五代十国 907-960
遼
北宋 960-1127
金 1115-1234
南宋 1127-1279
元 1271-1368
明 1368-1644
清 1616-1912
中華民国 1912-1949
中華人民共和国 1949-
竹帛の時代
蔡倫が紙を発明？(105年)
紙の時代

世界史の教科書に紹介されている「紙は西暦一〇五年、後漢の蔡倫が発明した」という説は、ある発見によって修正を迫られている。その発見とは何か？

?

1600BC
1500BC
1400BC
1300BC
1200BC
1100BC
1000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000
殷 1600BC頃-1046BC
周 1046BC-771BC
春秋戦国時代 770BC-221BC
秦 221BC-207BC
漢 206BC-220AD
魏 220-265
蜀 221-263
呉 222-280
晋 265-316
五胡十六国時代
東晋 317-420
北朝 439-589
南朝 420-589
隋 581-619
唐 618-907
五代十国 907-960
遼
北宋 960-1127
金 1115-1234
南宋 1127-1279
元 1271-1368
明 1368-1644
清 1616-1912
中華民国 1912-1949
中華人民共和国 1949-
竹帛の時代
前漢時代の紙の発見
蔡倫が紙を発明？(105年)
紙の時代

1933年、黄文弼ら西北中国考査団が、新疆ロプノールに近い漢代の烽火台遺跡から紙(ロプノール紙)を発見。同時に出土した木簡の年号（前漢宣帝黄龍元年＝BC49）から前漢時代のものと推定されたが、日中戦争の中で焼失した。

1942年、考古学者の労榦と石璋如が漢代の居延遺跡(現内蒙古エジン旗)の烽火台遺跡から漢字が書かれた漢代の紙(査科爾帖紙)を発見。周辺で発見された木簡から下限は後漢の永元10年＝98年、上限は前漢の昭帝、宣帝の時代(BC89～BC49)と推定された。

1957年、陝西省西安市の東にある灞橋レンガ工場で、土木工事中の作業員が古紙(灞橋紙)を発見。同時に出土した器物から前漢武帝時代(B.C.141～B.C.87)のものと推定された。

1973年、甘粛省居延考古隊が漢代居延遺跡の肩水金関跡で古紙(金関紙)を発見。同地点で出土した木簡の年代や地層から、前漢の宣帝～哀帝の時代(B.C.52～B.C.6)以前のものと推定された。

1986年、甘粛省文物考古研究所が天水市放馬灘の漢墓から古紙(放馬灘紙)を発見。文帝・景帝時代(B.C.180～B.C.141)のものと推定され、表面には手書きの地図と見られる図が描かれていた。

VIDEO

CCTV高清

1600BC
1500BC
1400BC
1300BC
1200BC
1100BC
1000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000
殷 1600BC頃-1046BC
周 1046BC-771BC
春秋戦国時代 770BC-221BC
秦 221BC-207BC
漢 206BC-220AD
魏 220-265
蜀 221-263
呉 222-280
晋 265-316
五胡十六国時代
東晋 317-420
北朝 439-589
南朝 420-589
隋 581-619
唐 618-907
五代十国 907-960
遼
北宋 960-1127
金 1115-1234
南宋 1127-1279
元 1271-1368
明 1368-1644
清 1616-1912
中華民国 1912-1949
中華人民共和国 1949-
竹帛の時代
蔡倫が紙を発明？(105年)
紙の時代

1600BC
1500BC
1400BC
1300BC
1200BC
1100BC
1000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000
殷 1600BC頃-1046BC
周 1046BC-771BC
春秋戦国時代 770BC-221BC
秦 221BC-207BC
漢 206BC-220AD
魏 220-265
蜀 221-263
呉 222-280
晋 265-316
五胡十六国時代
東晋 317-420
北朝 439-589
南朝 420-589
隋 581-619
唐 618-907
五代十国 907-960
遼
北宋 960-1127
金 1115-1234
南宋 1127-1279
元 1271-1368
明 1368-1644
清 1616-1912
中華民国 1912-1949
中華人民共和国 1949-
竹帛の時代
前漢時代の紙の発見
蔡倫が紙を発明？(105年)
紙の時代

？

旧説では、後漢の蔡倫は「紙を発明した」といわれていたが、いまどのように評価されているのか？

潘吉星(1931-)

1954年、大連理工大学卒。中国科学院自然科学史研究所教授。中国科学技術史研究の第一人者。

潘吉星◎著
By Pan Jixing

中国古代四大发明
——源流、外传及世界影响

The Four Great Inventions of Ancient China:
Their Origin, Development, Spread and Influence in the World

中国科学技术大学出版社
University of Science and Technology of China Press

潘吉星(1931-)

現代中国における蔡倫の評価

蔡倫以前にも早くからすでに紙は存在したが、彼の貢献を無視することはできない。それは以下の点にまとめることができる。

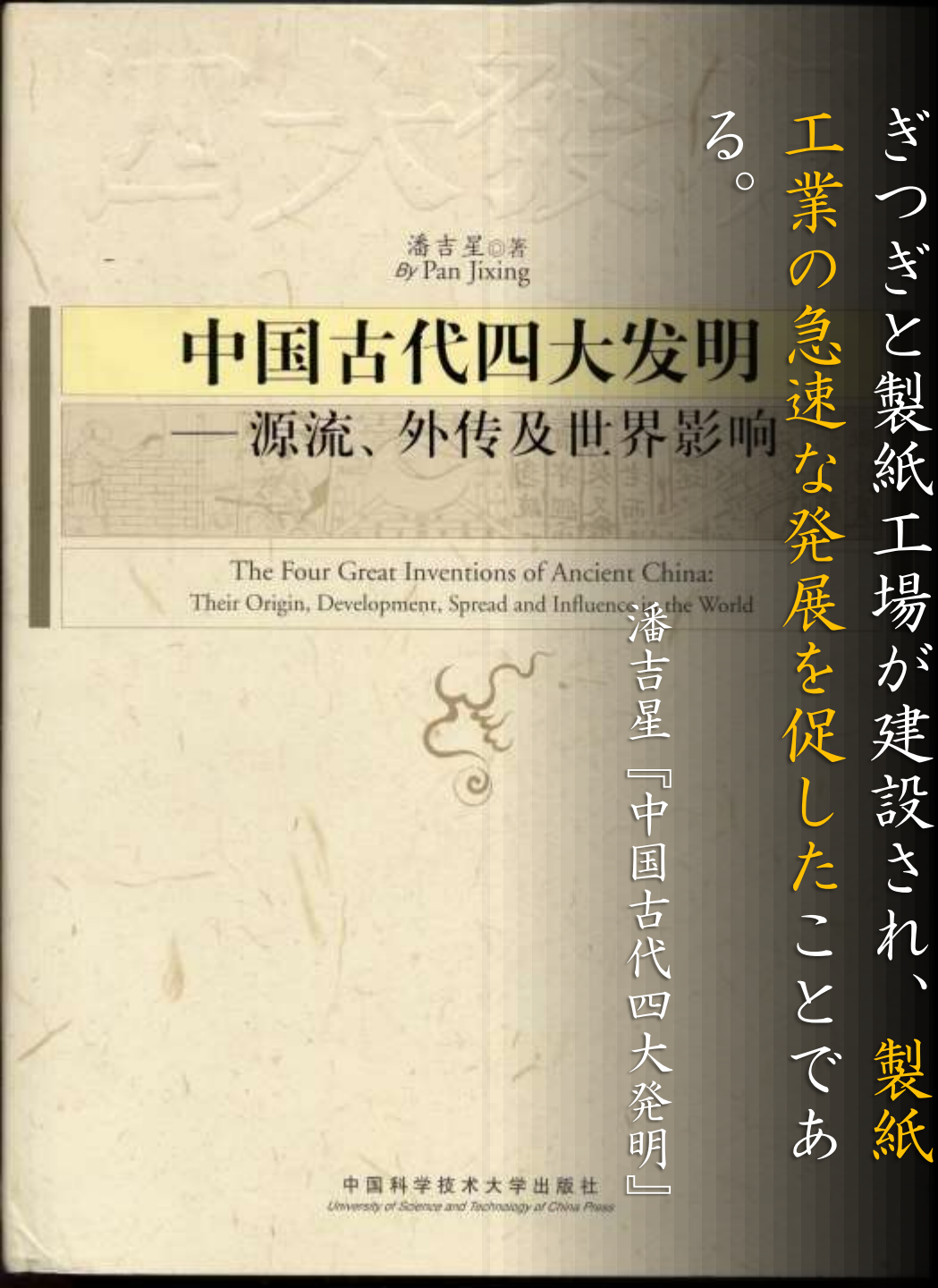
潘吉星『中国古代四大発明』

現代中国における蔡倫の評価

第一は前漢や後漢初期および同時代の麻紙の製造技術を集大成し、組織的に良質の紙を生産したことである。また、古い魚網を原料とすることで麻紙の製造原料を拡大し、麻紙の技術を改良したことである。

第二は楮の樹皮による製紙を提唱し、木本靭皮繊維による製紙技術を発明し、製紙に新たな原料の来源を切り開き、樹皮を原料とする新たな紙を登場させたことである。

第三は国内の製紙の普及拡大を提唱し、朝廷の支持を得て、各地につぎつぎと製紙工場が建設され、製紙工業の急速な発展を促したことである。



潘吉星『中国古代四大発明』

潘吉星(1931-)

現代中国における蔡倫の評価

このように蔡倫は前代を受け継ぎ、後世に新しい道を切り開いた**製紙技術の革新家**なのである。

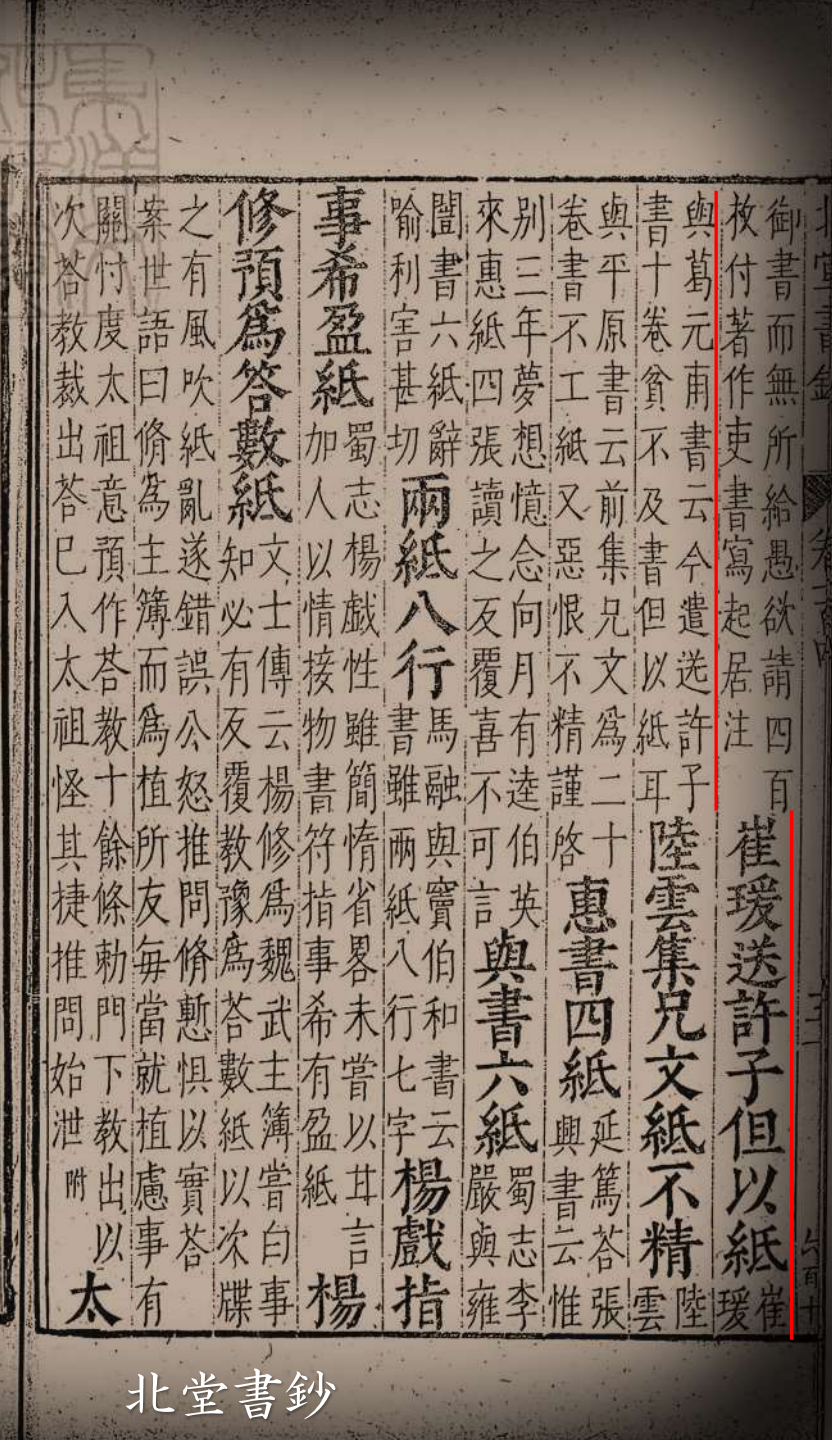
潘吉星『中国古代四大発明』

前漢時代に紙が誕生して以降、中国ではどのように利用が広がっていったのか？

？

1600BC
1500BC
1400BC
1300BC
1200BC
1100BC
1000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000
殷 1600BC頃-1046BC
周 1046BC-771BC
春秋戦国時代 770BC-221BC
秦 221BC-207BC
漢 206BC-220AD
魏 220-265
蜀 221-263
呉 222-280
晋 265-316
五胡十六国時代
東晋 317-420
北朝 439-589
南朝 420-589
隋 581-619
唐 618-907
五代十国 907-960
遼
北宋 960-1127
金 1115-1234
南宋 1127-1279
元 1271-1368
明 1368-1644
清 1616-1912
中華民国 1912-1949
中華人民共和国 1949-
竹帛の時代
紙の誕生
後漢の崔瑗が葛龔に紙の抄本を贈る
紙の時代

御書而無所給愚欲請四百枚付著作吏書寫起居注



崔瑗送許子但以紙 崔瑗與葛元甫書云今遣送許子書十卷貧不及書但以紙耳

陸雲集兄文紙不精 陸雲與平原書云前集兄文爲二十卷書不工紙又惡恨不精謹啓

惠書四紙 延篤荅張興書云惟別三年夢想憶念向月有逵伯英來惠紙四張讀之反覆喜不可言

與書六紙 蜀志李嚴與雍闓書六紙辭喻利害甚切

兩紙八行 馬融與竇伯和書云書雖兩紙八行七字

楊戲指事希盈紙 蜀志楊戲性雖簡惰省畧未嘗以甘言加人以情接物書符指事希有盈紙

楊修預爲荅數紙 文士傳云楊修爲魏武主簿嘗白事知必有反覆教豫爲荅數紙以次牒之有風吹紙亂遂錯誤公怒推問脩慙惧以實荅案世語曰脩爲主簿而爲植所友每當就植慮事有關忖度太祖意預作荅教十餘條勅門下教出以次荅教裁出荅已入太祖怪其捷推問始泄 附

太子紙蔽鼻 三輔故事云衛太子大鼻武帝病太子入省江充曰上惡大鼻當持紙蔽其鼻而入帝怒 案楚策云夫人鄭褒謂新人曰王愛子美矣雖然惡子之鼻子爲見王則必揜子鼻新人見王因揜其鼻王問故鄭褒曰其似惡聞君王之臭也王曰悍哉令剿之二事王相類讒人用口信一轍哉 附

安価な書写材料＝紙の民間への普及

崔瑗①が葛元甫②に與えし書に云う。「今、許子十卷を遣送す。貧すれば素に及ばず。但だ紙を以てするのみ。」

崔瑗與葛元甫書(北堂書鈔③卷一〇四所引)

【解説】

①崔瑗（さいえん 七七～一四二）字は子玉、安平（現在の河北省安平県）の人。後漢の官吏、文人書家として知られる。

②葛龔（かっきょう 生没年不詳）字は元甫、梁国寧陵（現在の河南省寧陵）の人。後漢の官吏。

③北堂書鈔は、完本として現存する中国最古の類書。隋の虞世南が秘書郎在任中、詔勅をはじめとする公文書を作成する際の参考書として群書中から語句をとり出し類別したもの。

北堂書鈔

安価な書写材料＝紙の民間への普及

（後漢の）崔瑗①が、葛龔②に送った手紙にいう。「今、許子十巻をお送りします。貧しくて絹は買えないので紙を使いました。」

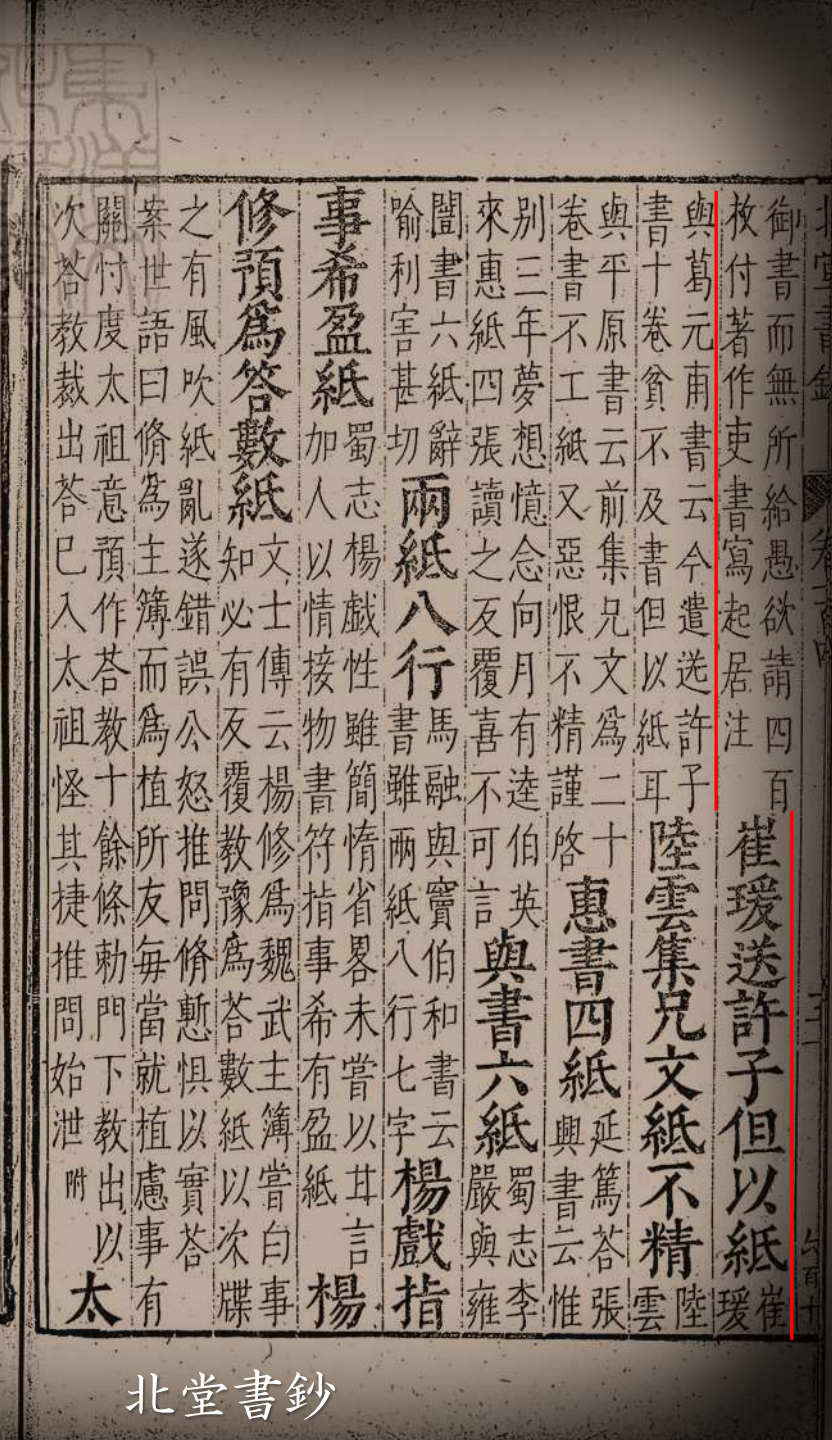
崔瑗與葛元甫書（北堂書鈔③巻一〇四所引）

【解説】

①崔瑗（さいえん 七七～一四二）字は子玉、安平（現在の河北省安平県）の人。後漢の官吏、文人書家として知られる。

②葛龔（かっきょう 生没年不詳）字は元甫、梁国寧陵（現在の河南省寧陵）の人。後漢の官吏。

③北堂書鈔は、完本として現存する中国最古の類書。隋の虞世南が秘書郎在任中、詔勅をはじめとする公文書作成の参考書として群書中から語句をとり出し類別したもの。


崔瑗送許子但以紙
崔瑗與葛元甫書云今遣送許子書十卷貧不及書但以紙耳陸雲集兄文紙不精陸雲與平原書云前集兄文爲二十卷書不工紙又惡恨不精謹啓惠書四紙延篤荅張惠書云惟別三年夢想憶念向月有逵伯英來惠紙四張讀之反覆喜不可言與書六紙蜀志李闓書六紙辭喻利害甚切兩紙八行馬融與竇伯和書云書雖兩紙八行七字楊戲指事希盈紙蜀志楊戲性雖簡惰省畧未嘗以其言加人以情接物書符指事希有盈紙楊修頌爲荅數紙文士傳云楊修爲魏武主簿嘗白事知必有反覆教豫爲荅數紙以次牒之有風吹紙亂遂錯誤公怒推問脩慙惧以實荅案世語曰脩爲主簿而爲植所友每當就植慮事有關忖度太祖意預作荅教十餘條勅門下教出以次荅教裁出荅已入太祖怪其捷推問始泄附太

子紙蔽鼻三輔故事云衛太子大鼻武帝病太子入省江充曰上惡大鼻當持紙蔽其鼻而入帝怒案楚策云夫人鄭褒謂新人曰王愛子美矣雖然惡子之鼻子爲見王則必捻子鼻新人見王因捻其鼻王問故鄭褒曰其似惡聞君王之臭也王曰惧哉

北堂書鈔

1600BC
1500BC
1400BC
1300BC
1200BC
1100BC
1000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000
殷 1600BC頃-1046BC
周 1046BC-771BC
春秋戦国時代 770BC-221BC
秦 221BC-207BC
漢 206BC-220AD
魏 220-265
蜀 221-263
呉 222-280
晋 265-316
五胡十六国時代
東晋 317-420
北朝 439-589
南朝 420-589
隋 581-619
唐 618-907
五代十国 907-960
遼
北宋 960-1127
金 1115-1234
南宋 1127-1279
元 1271-1368
明 1368-1644
清 1616-1912
中華民国 1912-1949
中華人民共和国 1949-
竹帛の時代
紙の誕生
後漢の崔瑗が葛龔に紙の抄本を贈る
東晋の桓玄、禁簡令を出す(403)
紙の時代

禁簡令＝公文書を竹簡から紙へ

古には紙無し。故に簡を用う。敬うを主(しめ)すに非ざるも。今、諸の簡を用いる者は、皆黄紙を以て之に代えよ。

桓玄①偽事(太平御覧② 巻六百五)

【解説】

①桓玄(かんげん、三六九～四〇四)：東晋安帝の元興二年(四〇三年)、帝位を簒奪して国号を楚と改めたが、翌年、劉裕らの軍に敗れ、殺された。

②太平御覧：北宋時代、李昉らが勅を奉じて編纂した類書(百科事典)。九七七年に編纂を開始し、九八三年に完成。一〇〇〇巻。

(宋)太平御覧一〇〇〇巻

禁簡令＝公文書を竹簡から紙へ

むかしは紙がなかったため、竹簡を使っていたが、それは敬意を示すためではない。現在、竹簡を使っているものは、すべて黄紙に代えよ。

桓玄①偽事（太平御覧② 巻六百五）

【解説】

①桓玄（かんげん、三六九～四〇四）：東晋安帝の元興二年（四〇三年）、帝位を簒奪して国号を楚と改めたが、翌年、劉裕らの軍に敗れ、殺された。

②太平御覧：北宋時代、李昉らが勅を奉じて編纂した類書（百科事典）。九七七年に編纂を開始し、九八三年に完成。一〇〇〇巻。

（宋）太平御覧一〇〇〇巻

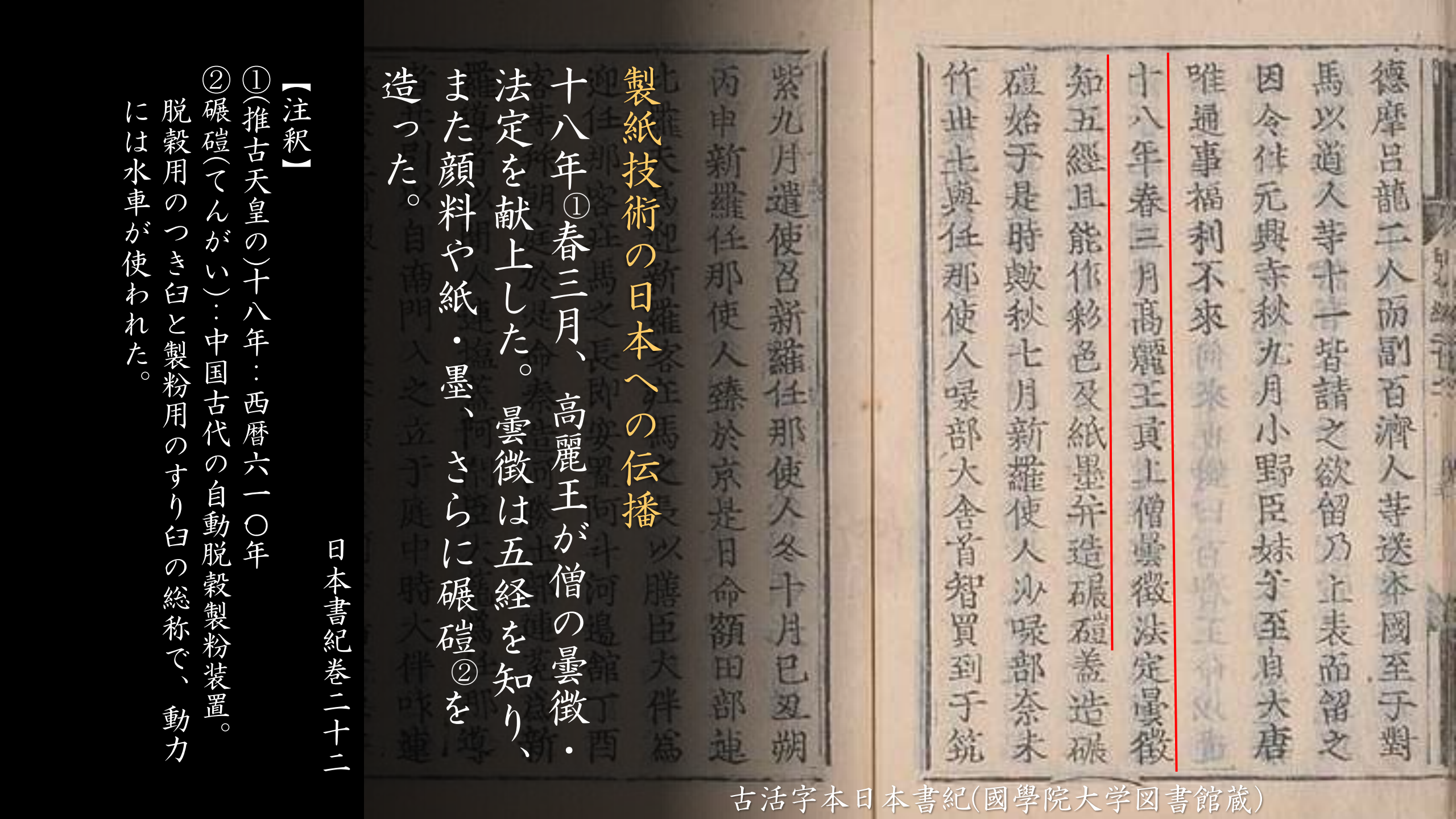
VIDEO

宣紙の伝統的製法（安徽省涇県）

製紙技術は日本にいつごろ伝わったのか？
?

610年、高麗僧・曇徴が日本に製紙技術を伝える

1600BC
1500BC
1400BC
1300BC
1200BC
1100BC
1000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000
殷 1600BC頃-1046BC
周 1046BC-771BC
春秋戦国時代 770BC-221BC
秦 221BC-207BC
漢 206BC-220AD
魏 220-265
蜀 221-263
呉 222-280
晋 265-316
五胡十六国時代
東晋 317-420
北朝 439-589
南朝 420-589
隋 581-619
唐 618-907
五代十国 907-960
遼
北宋 960-1127
金 1115-1234
南宋 1127-1279
元 1271-1368
明 1368-1644
清 1616-1912
中華民国 1912-1949
中華人民共和国 1949-
竹帛の時代
紙の誕生
後漢の崔瑗が葛龔に紙の抄本を贈る
東晋の桓玄、禁簡令を出す(403)
高麗僧曇徴が日本に製紙術を伝える(610)
紙の時代


德摩呂龍二人而副百濟人等送來國至于對
馬以道人等十一皆請之欲留乃上表而留之
因令住元興寺秋九月小野臣妹子至自大唐
唯通事福利不來
十八年春三月高麗王貢上僧曇徵法定曇徵
知五經且能作彩色及紙墨并造碾磑蓋造碾
磑始于是時歟秋七月新羅使人沙喙部奈末
竹世士與任那使人喙部大舍首智買到于筑
紫九月遣使召新羅任那使人冬十月己亥朔
丙申新羅任那使人臻於京是日命額田部連

製紙技術の日本への伝播

十八年①春三月、高麗王が僧の曇徴・法定を献上した。曇徴は五経を知り、また顔料や紙・墨、さらに碾磑②を造った。

【注釈】

①(推古天皇の)十八年：西暦六一〇年

②碾磑(てんがい)：中国古代の自動脱穀製粉装置。脱穀用のつき臼と製粉用のすり臼の総称で、動力には水車が使われた。

日本書紀巻二十二

古活字本日本書紀(國學院大学図書館蔵)

製紙技術は中東や西洋にはいつごろ伝わったのか？
?

751年、タラスの戦い
10世紀、カイロに製紙工場を建設
793年、バグダッドに製紙工場を建設

製紙技術が伝わる以前、中東では
どのような書写材料が使われていた
のか？
?

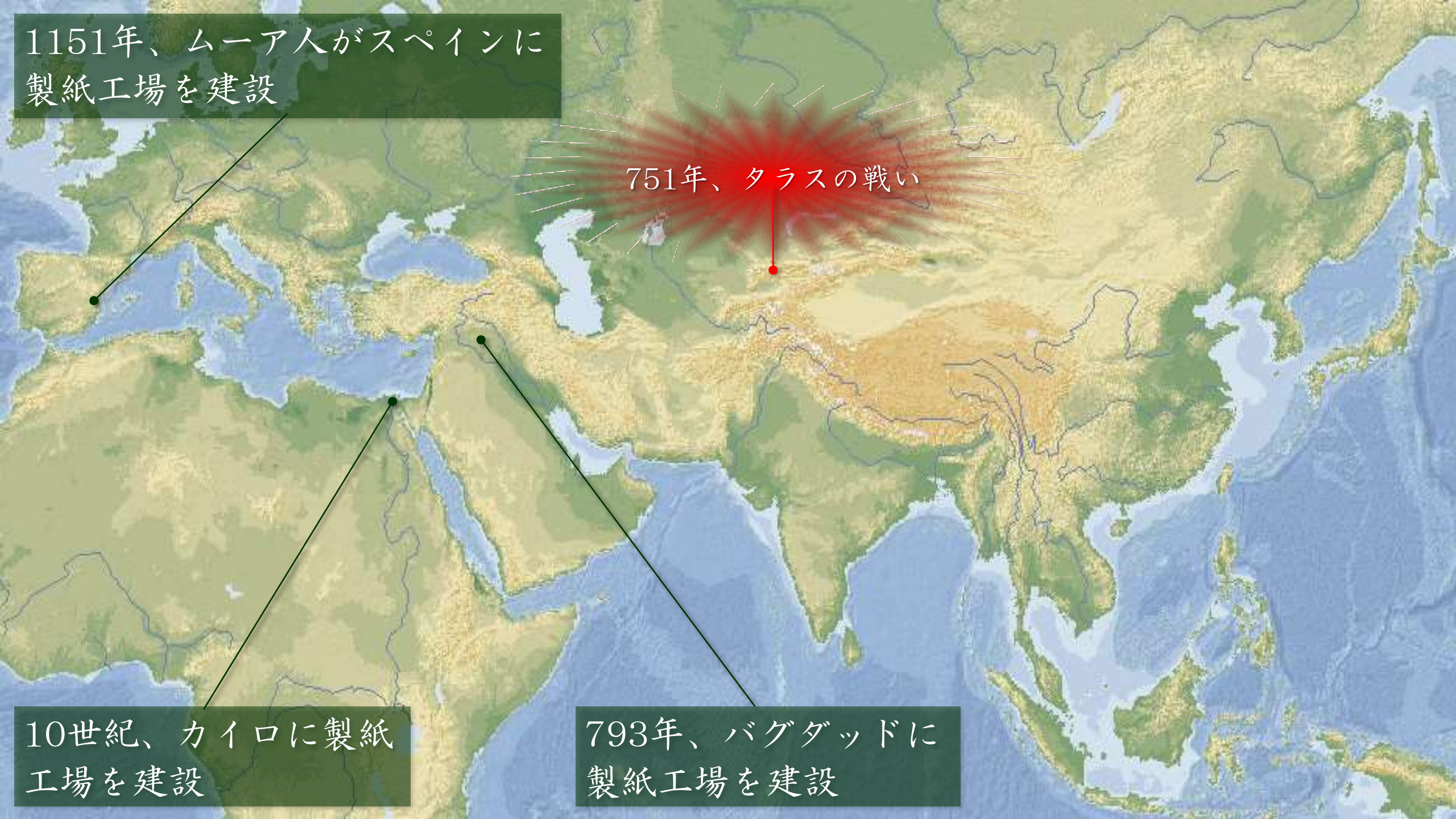
パピルス

古代エジプトでは、カヤツリグサ科の植物の茎の髄を使い、パピルス(Papyrus、paperの語源)と呼ばれる書写材料が作られていた。

カヤツリグサ科の植物の茎とパピルス

How To Make Papyrus Paper (mycompasstv 2013)

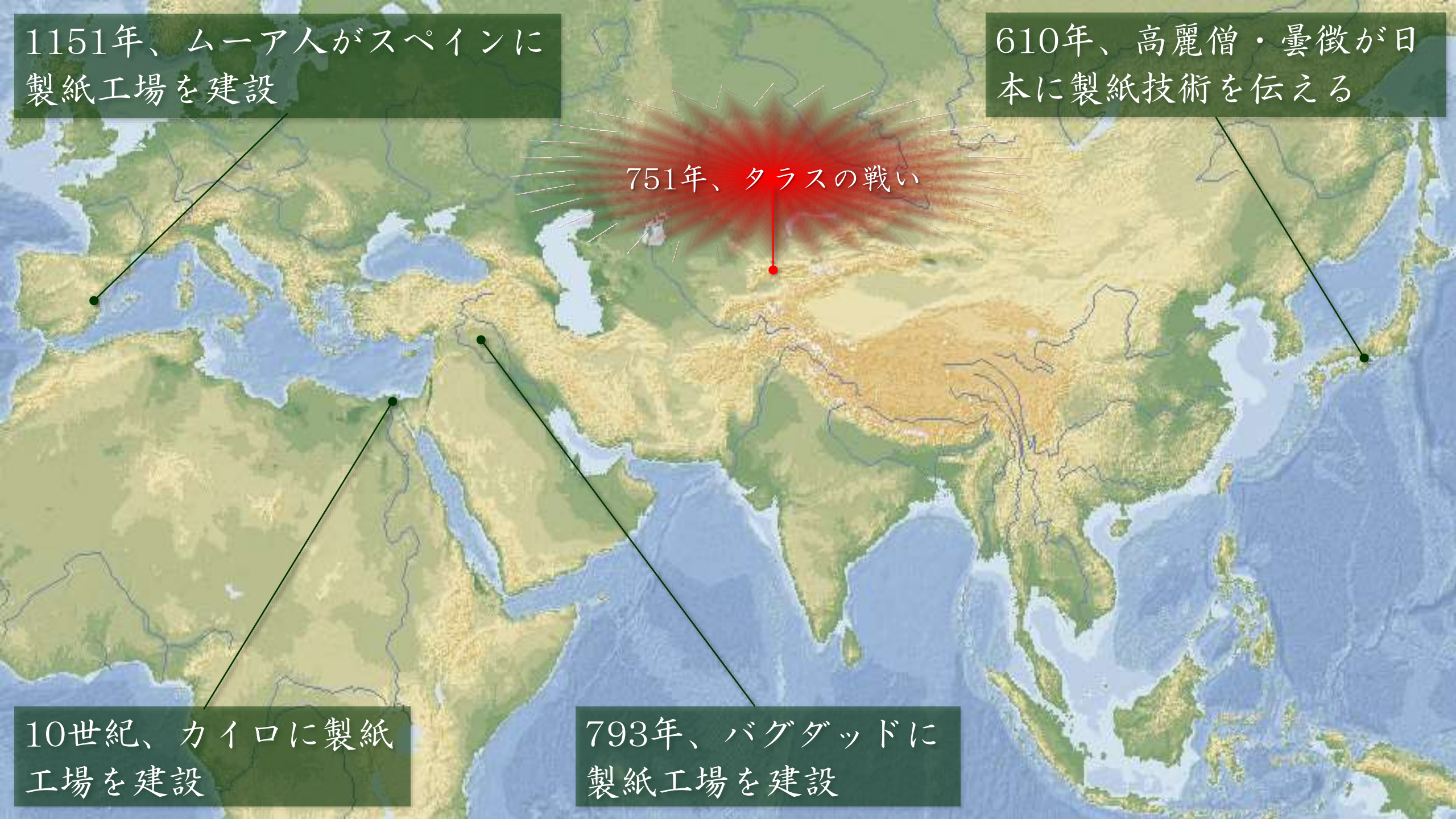
ヨーロッパにはいつごろ製紙技術
が伝わったのか？
？


1151年、ムーア人がスペインに
製紙工場を建設
751年、タラスの戦い
10世紀、カイロに製紙
工場を建設
793年、バグダッドに
製紙工場を建設

製紙技術が伝わる以前、西洋では
どのような書写材料が使われていた
のか？
?

羊皮紙
中東やヨーロッパでは、動物の皮から作られた羊皮紙(Parchment)が広く使われていた。
羊皮紙に書かれたシナイ写本(4世紀？)
VIDEO

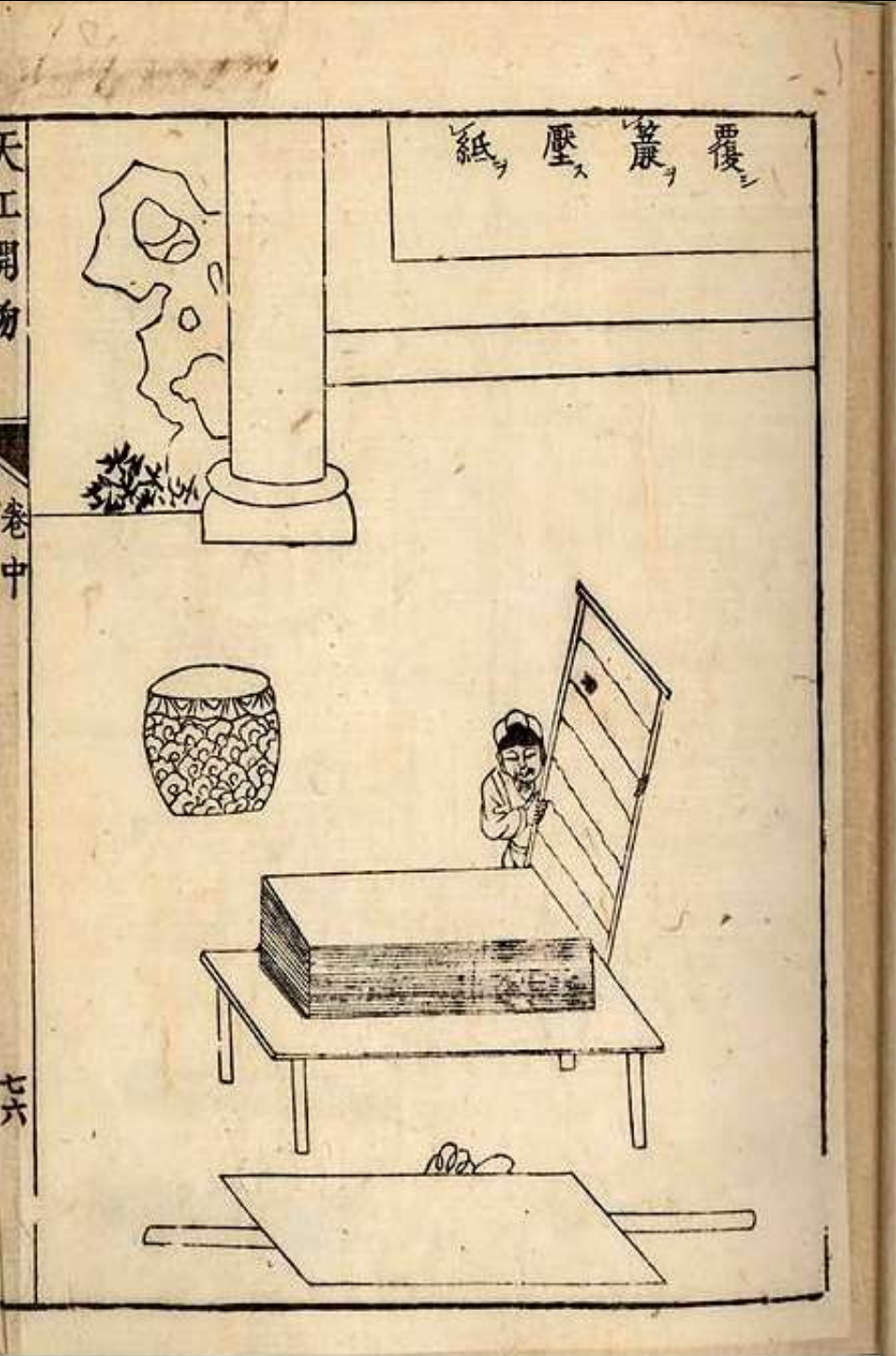
BBC： How Parchment is made

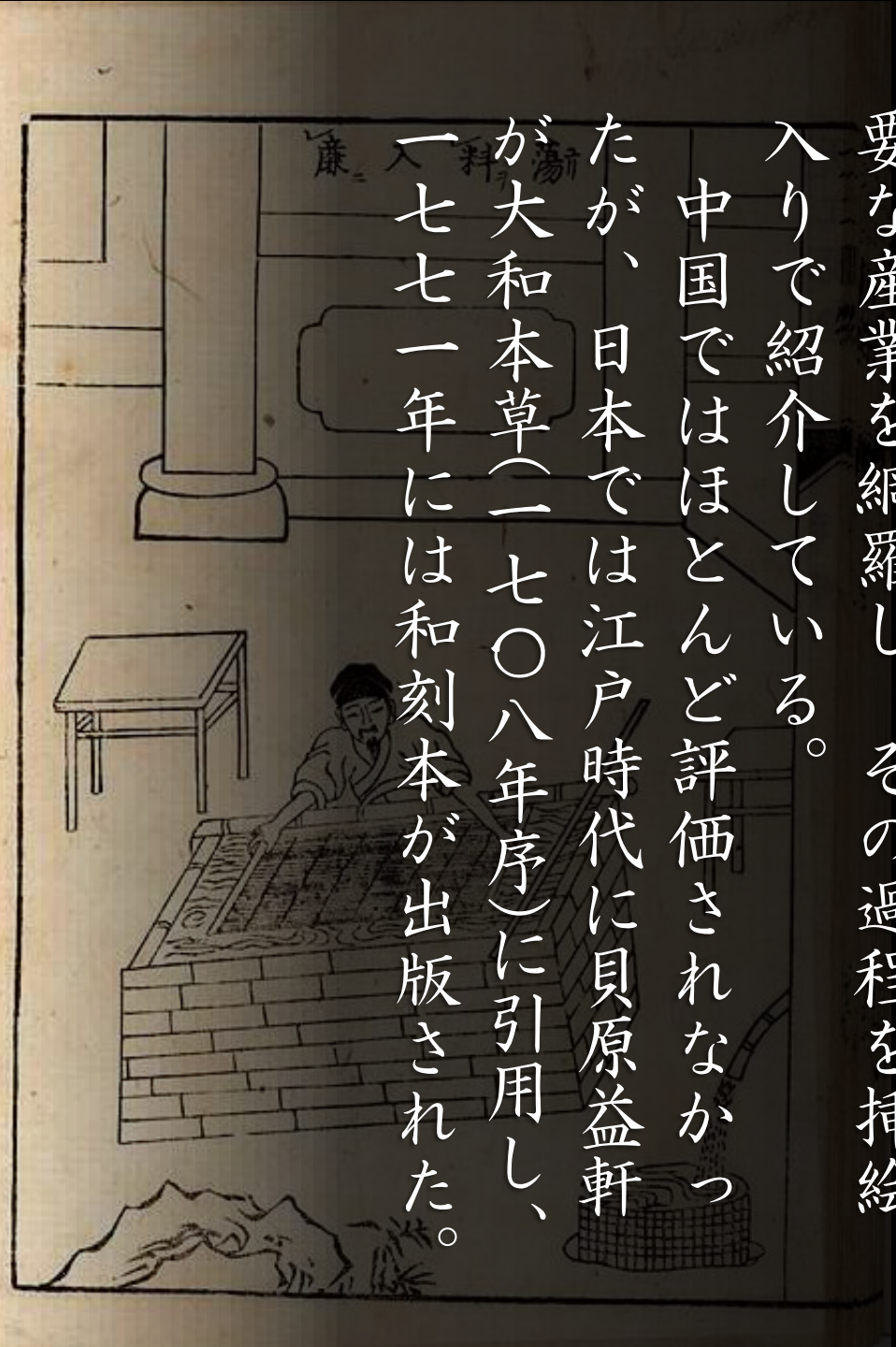

1151年、ムーア人がスペインに製紙工場を建設
610年、高麗僧・曇徴が日本に製紙技術を伝える
751年、タラスの戦い
10世紀、カイロに製紙工場を建設
793年、バグダッドに製紙工場を建設

明代に描かれた『孔子聖蹟図』には、紙の書籍が描かれているが、画家はなぜこのような誤りを犯したのか？

（明）佚名『孔子聖跡図』（杏壇礼楽、山東省曲阜孔府蔵）

1600BC
1500BC
1400BC
1300BC
1200BC
1100BC
1000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000
殷 1600BC頃-1046BC
周 1046BC-771BC
春秋戦国時代 770BC-221BC
秦 221BC-207BC
漢 206BC-220AD
魏 220-265
蜀 221-263
呉 222-280
晋 265-316
五胡十六国時代
東晋 317-420
北朝 439-589
南朝 420-589
隋 581-619
唐 618-907
五代十国 907-960
遼
北宋 960-1127
金 1115-1234
南宋 1127-1279
元 1271-1368
明 1368-1644
清 1616-1912
中華民国 1912-1949
中華人民共和国 1949-
竹帛の時代
紙の誕生
後漢の崔瑗が葛龔に紙の抄本を贈る
東晋の桓玄、禁簡令を出す(403)
紙の時代
明の宋応星、天工開物を著わす(1637)



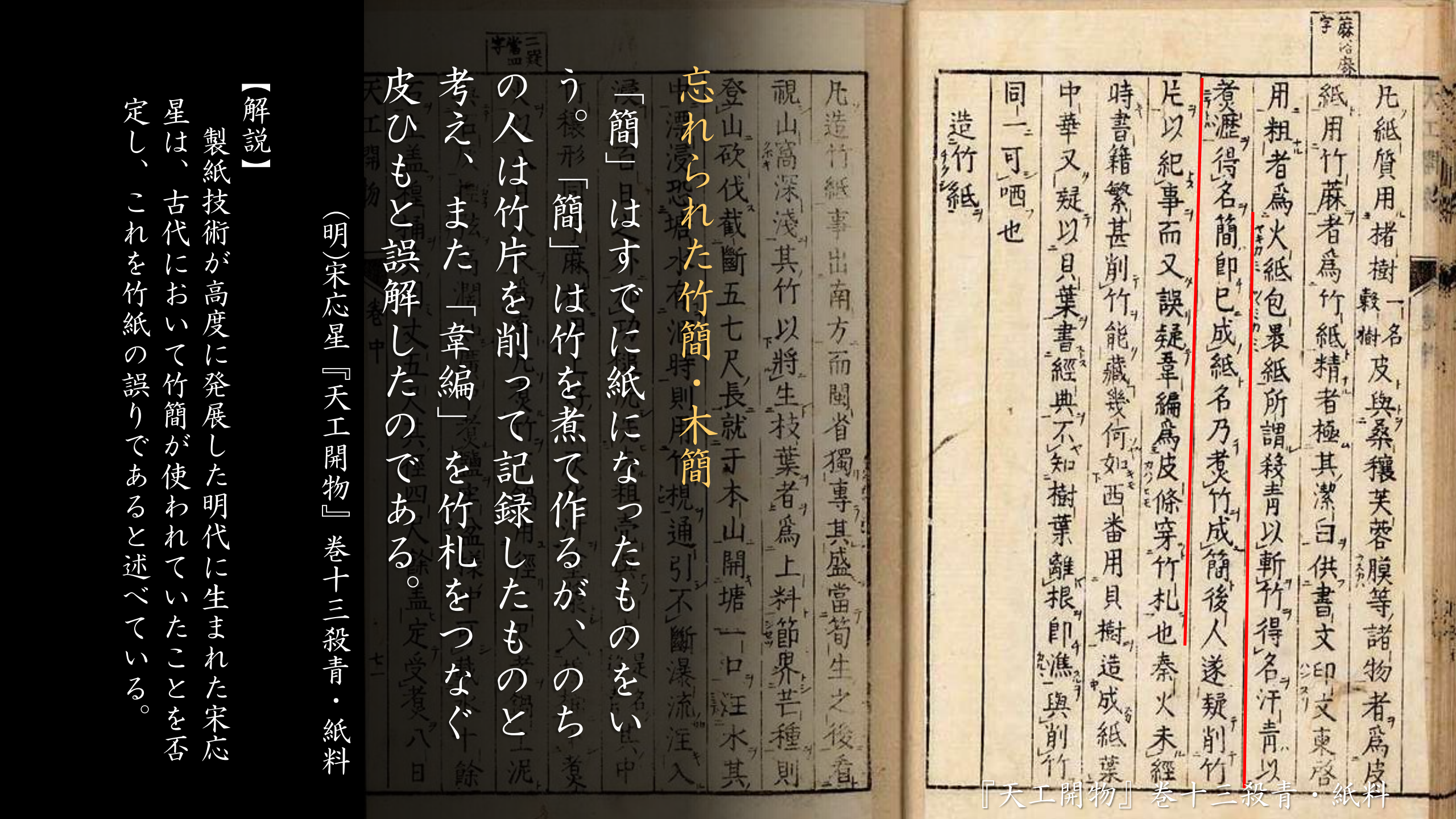


(明)宋応星『天工開物』

〔解説〕

明末の崇禎十(一六三七)年に江西省奉新県の学者・宋応星が出版した中国の産業技術書。全三巻。当時の主要な産業を網羅し、その過程を挿絵入りで紹介している。

中国ではほとんど評価されなかったが、日本では江戸時代に貝原益軒が大和本草(一七〇八年序)に引用し、一七七一年には和刻本が出版された。



凡紙質用楮樹一名穀樹皮與桑穰芙蓉膜等諸物者爲皮紙用竹蔴者爲竹紙精者極其潔白供書文印文東啓用粗者爲火紙包裹紙所謂殺青以斬竹得名汗青以煑瀝得名簡即已成紙名乃煑竹成簡後人遂疑削竹片以紀事而又誤疑韋編爲皮條穿竹札也秦火未經時書籍繁甚削竹能藏幾何如西番用貝樹造成紙葉中華又疑以貝葉書經典不知樹葉離根即瀌與削竹同一可哂也

造竹紙

凡造竹紙事出南方而閩省獨專其盛當筍生之後看視山窩深淺其竹以將生枝葉者爲上料節界芒種則登山砍伐截斷五七尺長就于本山開塘一口注水其中漂浸恐塘水有漏時則用竹梘通引不斷瀑流注入

忘れられた竹簡・木簡

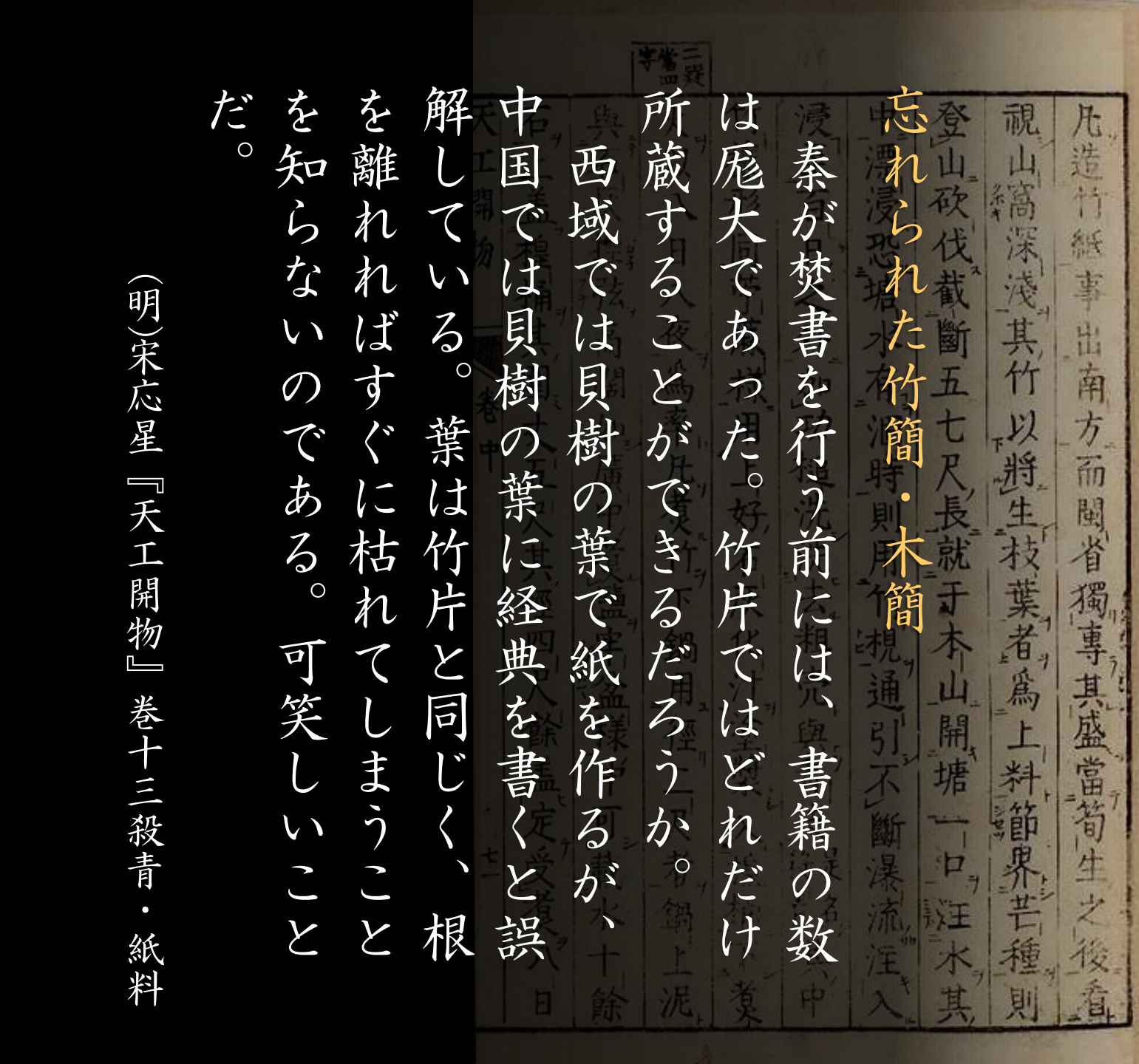
「簡」はすでに紙になったものをいう。「簡」は竹を煮て作るが、のちの人は竹片を削って記録したものと考え、また「韋編」を竹札をつなぐ皮ひもと誤解したのである。

（明）宋応星『天工開物』巻十三殺青・紙料

【解説】

製紙技術が高度に発展した明代に生まれた宋応星は、古代において竹簡が使われていたことを否定し、これを竹紙の誤りであると述べている。

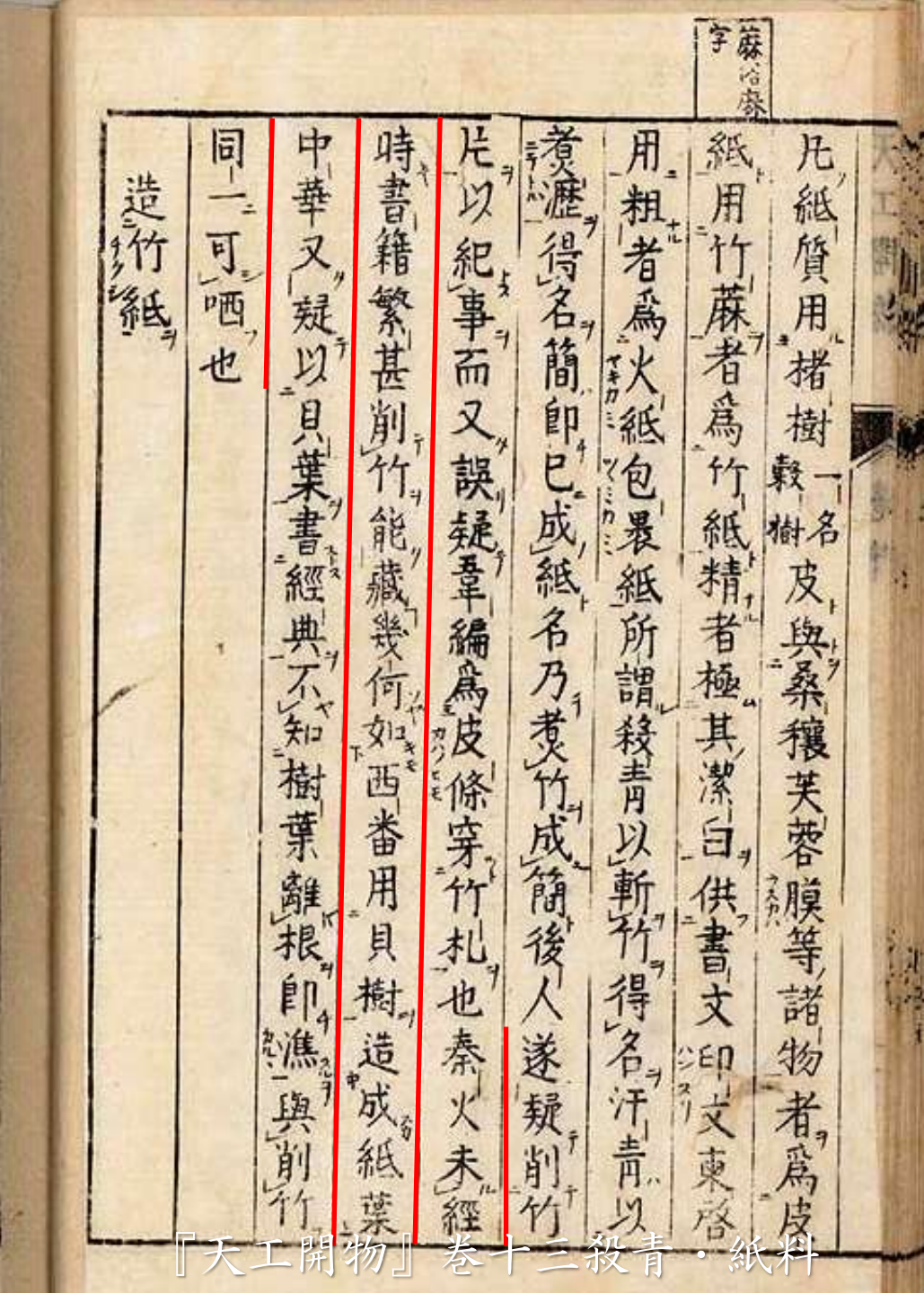
『天工開物』巻十三殺青・紙料


凡造竹紙事出南方而閩省獨專其盛當筍生之後看
視山窩深淺其竹以將生枝葉者爲上料節界芒種則
登山砍伐截斷五七尺長就于本山開塘一口注水其
中浸漬浸恐塘水不滿時則用竹規通引不斷瀑流注入
浸

忘れられた竹簡・木簡

秦が焚書を行う前には、書籍の数は厖大であった。竹片ではどれだけ所蔵することができるだろうか。西域では貝樹の葉で紙を作るが、中国では貝樹の葉に経典を書くと誤解している。葉は竹片と同じく、根を離れればすぐに枯れてしまうことを知らないのである。可笑しいことだ。

（明）宋応星『天工開物』巻十三殺青・紙料

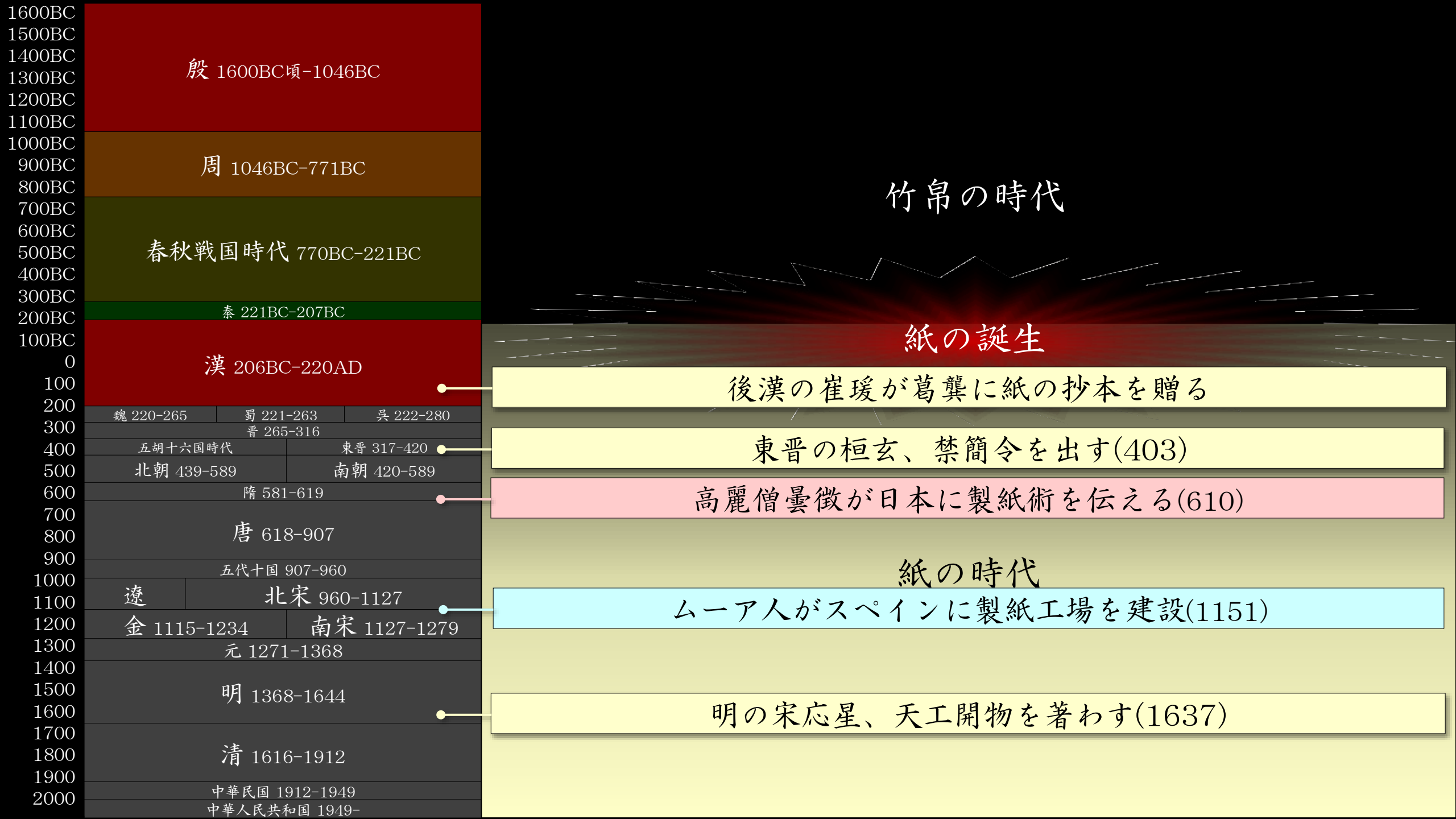

凡紙質用楮樹一名穀樹皮與桑穰芙蓉膜等諸物者爲皮
紙用竹蔴者爲竹紙精者極其潔白供書文東晉
用粗者爲火紙包裹紙所謂殺青以斬竹得名汗青以
煮瀝得名簡即已成紙名乃煮竹成簡後人遂疑削竹
凡以紀事而又誤疑韋編爲皮條穿竹札也秦火未經
時書籍繁甚削竹能藏幾何如西番用貝樹造成紙葉
中華又疑以貝葉書經典不知樹葉離根即濕與削竹
同一可哂也

造竹紙

『天工開物』巻十三殺青・紙料

貝多羅樹（オウギヤシ）の葉(貝多羅 pattraはサンスクリット語で葉の意)

貝多羅樹（オウギヤシ）の葉で作られた貝多羅葉経典


1600BC
1500BC
1400BC
1300BC
1200BC
1100BC
1000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000
殷 1600BC頃-1046BC
周 1046BC-771BC
春秋戦国時代 770BC-221BC
秦 221BC-207BC
漢 206BC-220AD
魏 220-265
蜀 221-263
呉 222-280
晋 265-316
五胡十六国時代
東晋 317-420
北朝 439-589
南朝 420-589
隋 581-619
唐 618-907
五代十国 907-960
遼
北宋 960-1127
金 1115-1234
南宋 1127-1279
元 1271-1368
明 1368-1644
清 1616-1912
中華民国 1912-1949
中華人民共和国 1949-
竹帛の時代
紙の誕生
後漢の崔瑗が葛龔に紙の抄本を贈る
東晋の桓玄、禁簡令を出す(403)
高麗僧曇徴が日本に製紙術を伝える(610)
紙の時代
ムーア人がスペインに製紙工場を建設(1151)
明の宋応星、天工開物を著わす(1637)

第三節

焦仲卿の妻

後漢末の実話を描いた長編叙事詩

後漢末の悲劇を謡った長編叙事詩

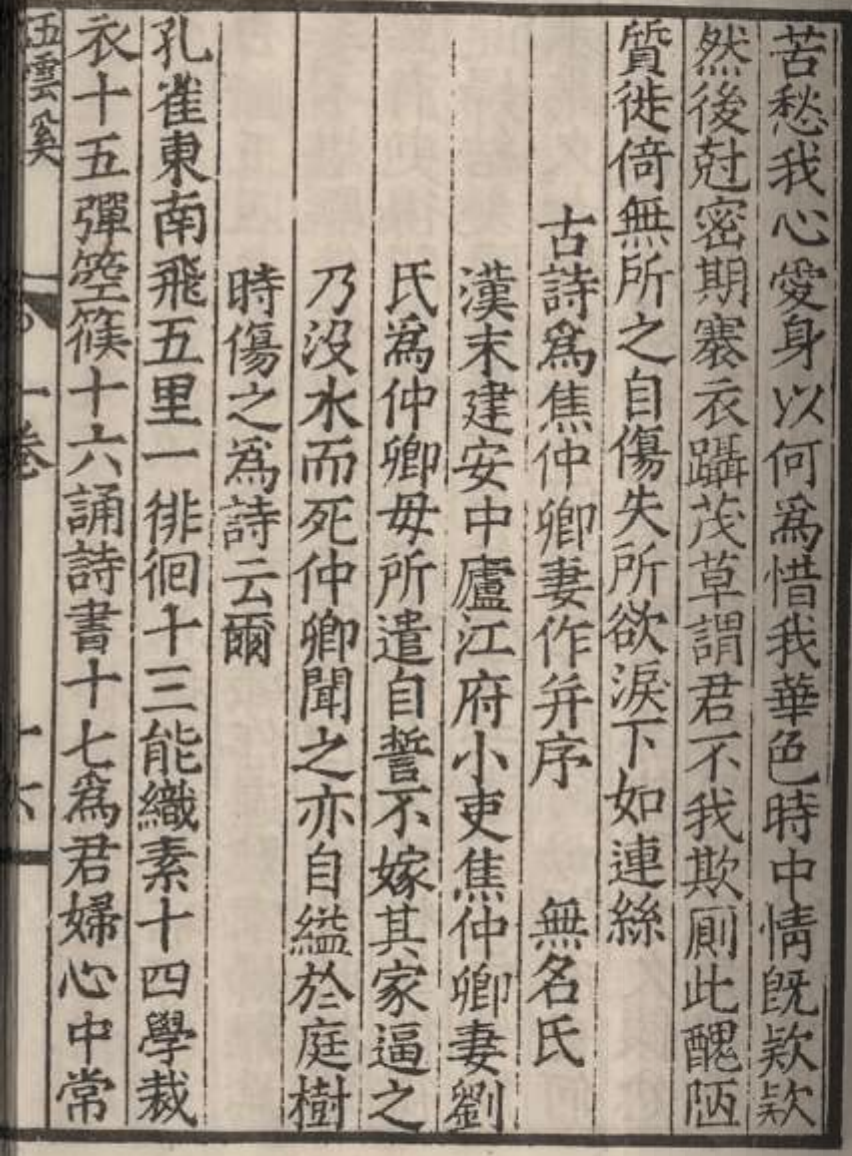
〔解説〕

紙という安価な書写材料の誕生により、中国ではそれまでにない長編の民間文学作品が記録されるようになる。

玉台新詠①巻一には、後漢の末に起こった実話をもとに作られた、千七百字あまりに及ぶ長編叙事詩「古詩焦仲卿の妻の為に作る」（一名「孔雀東南飛」）が収録されている。

【解説】

①南北朝時代の梁の簡文帝（在位五四九～五五一）が太子のころ、徐陵に編集させた恋愛詩歌集



苦愁我心愛身以何爲惜我華色時中情既款款
然後尅密期褰衣躡茂草謂君不我欺厠此醜陋
質徙倚無所之自傷失所欲淚下如連絲

古詩爲焦仲卿妻作并序　無名氏

漢末建安中廬江府小吏焦仲卿妻劉
氏爲仲卿母所遣自誓不嫁其家逼之
乃投水而死仲卿聞之亦自縊於庭樹
時傷之爲詩云爾

孔雀東南飛五里一徘徊十三能織素十四學裁
衣十五彈箜篌十六誦詩書十七爲君婦心中常

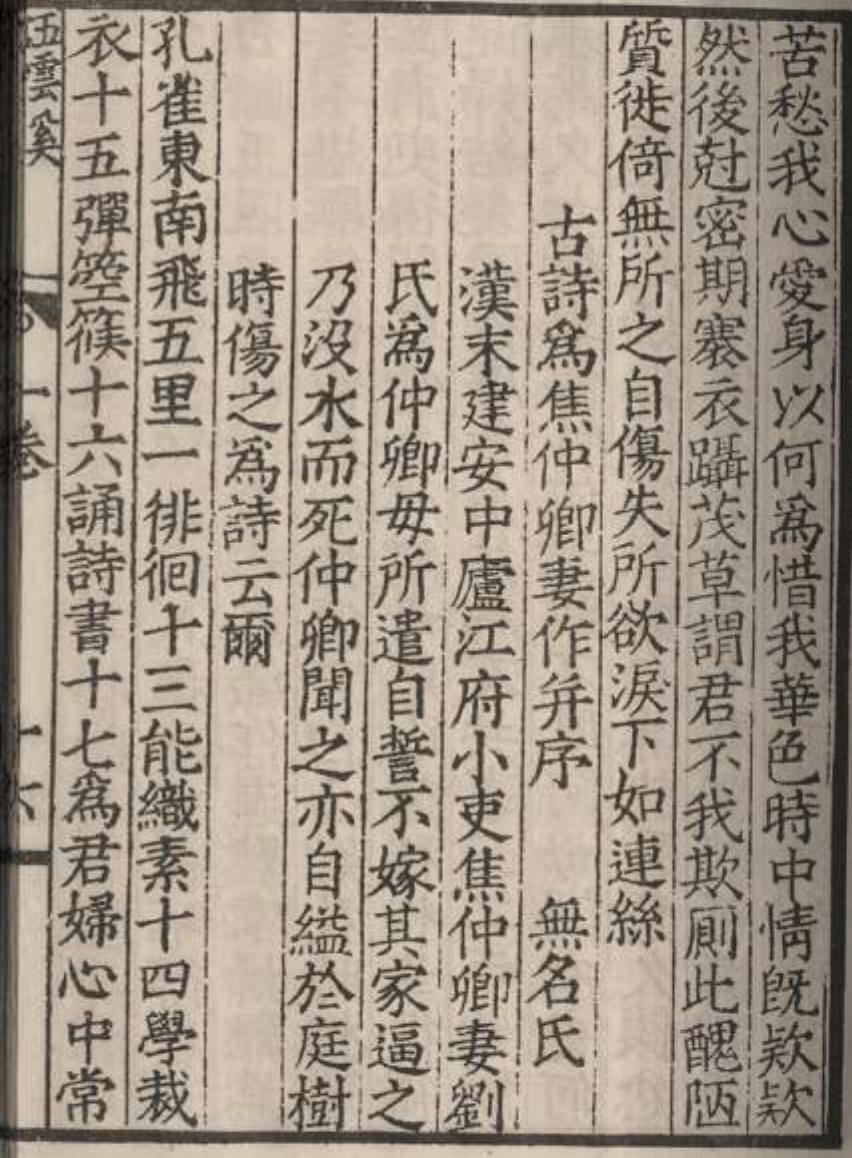
五雲集　一卷　十六

後漢末の悲劇を謡った長編叙事詩

〔解説〕

前漢の武帝の時代、董仲舒の献策により儒教が国教化されると、人々の生活は家父長制的な儒教道徳、いわゆる礼教制度による厳しい制約を受けるようになった。

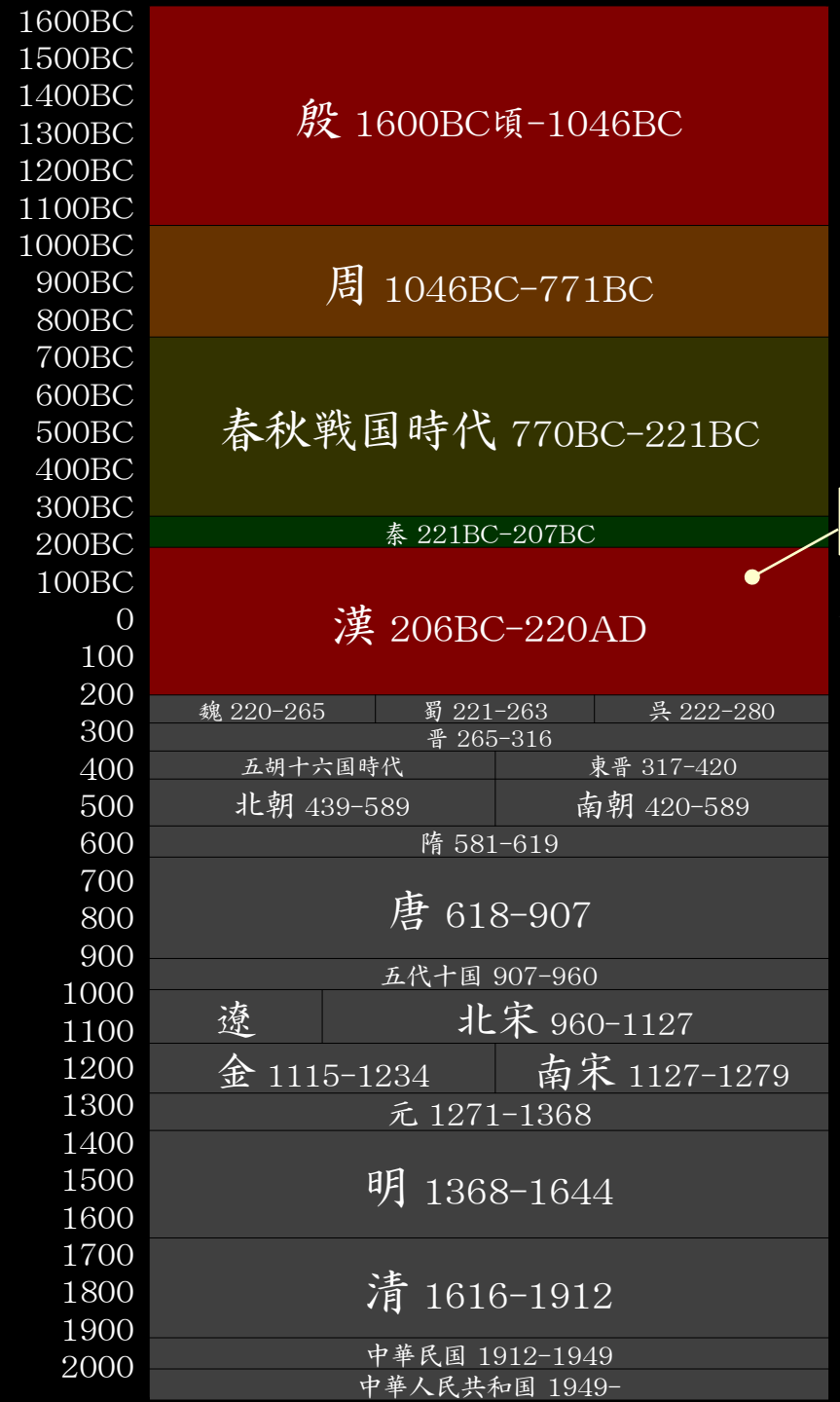
男女の自由な恋愛が否定される中、純粋な愛情を貫こうとした一組の若い夫婦がいた。焦仲卿とその妻・劉蘭芝である。人々は二人の悲劇を後世に伝えようと一篇の長編叙事詩を作った。「焦仲卿の妻の為に作る」という古詩である。


苦愁我心愛身以何爲惜我華色時中情既款款
然後尅密期褰衣躡茂草謂君不我欺厠此醜陋
質徙倚無所之自傷失所欲淚下如連絲

古詩爲焦仲卿妻作并序　無名氏

漢末建安中廬江府小吏焦仲卿妻劉
氏爲仲卿母所遣自誓不嫁其家逼之
乃沒水而死仲卿聞之亦自縊於庭樹
時傷之爲詩云爾

孔雀東南飛五里一徘徊十三能織素十四學裁
衣十五彈箜篌十六誦詩書十七爲君婦心中常



漢の武帝、儒教を国教化(136BC)

儒教の弊害が社会問題化

儒教の封建的婚姻観

父母の命、媒妁の言①を待たず、穴隙(あな)を鑽(うが)ちて相窺(うかが)い、墻(かき)踰(こ)えて相従わば、則ち父母、国人、皆之を賤(いや)しまん。

孟子巻第六滕文公篇下

【注釈】

①父母の命、媒妁の言：結婚は父母の命と媒酌人の言に従って行わなければならいという意。孟子のこの言葉は封建的な婚姻観を象徴するものとして、後世しばしば引用された。

皇如也。出疆必載質。公明儀曰。古之人。三月無君則弔。三月無君則弔。未以急乎。曰。士之失位也。猶諸侯之失國家也。禮曰。諸侯耕助。以共粢盛。夫人蠶繅。以爲衣服。犧牲不成。粢盛不潔。衣服不備。不敢以祭。惟士無田。則亦不祭。牲殺器皿。衣服不備。不敢以祭。則不敢以宴。亦不足弔乎。出疆必載質何也。曰。士之仕也。猶農夫之耕也。農夫豈爲出疆舍其耒耜哉。曰。晉國亦仕國也。未嘗聞仕如此其急也。君子之難仕何也。曰。丈夫生而願爲之有室。女子生而願爲之有家。父母之心。人皆有之。不待父母之命。媒妁之言。鑽穴隙相窺。踰墻相從。則父母國人皆賤之。古之人未嘗不欲仕也。又惡不由其道。不由其道而

孟子（京都大学附属図書館所蔵）

儒教の封建的婚姻観

父母の命や媒酌の言①を待たずに、男女がこっそりのぞきあったり、つきあったりすれば、父母や世間の人々はみな彼らを軽蔑するだろう。

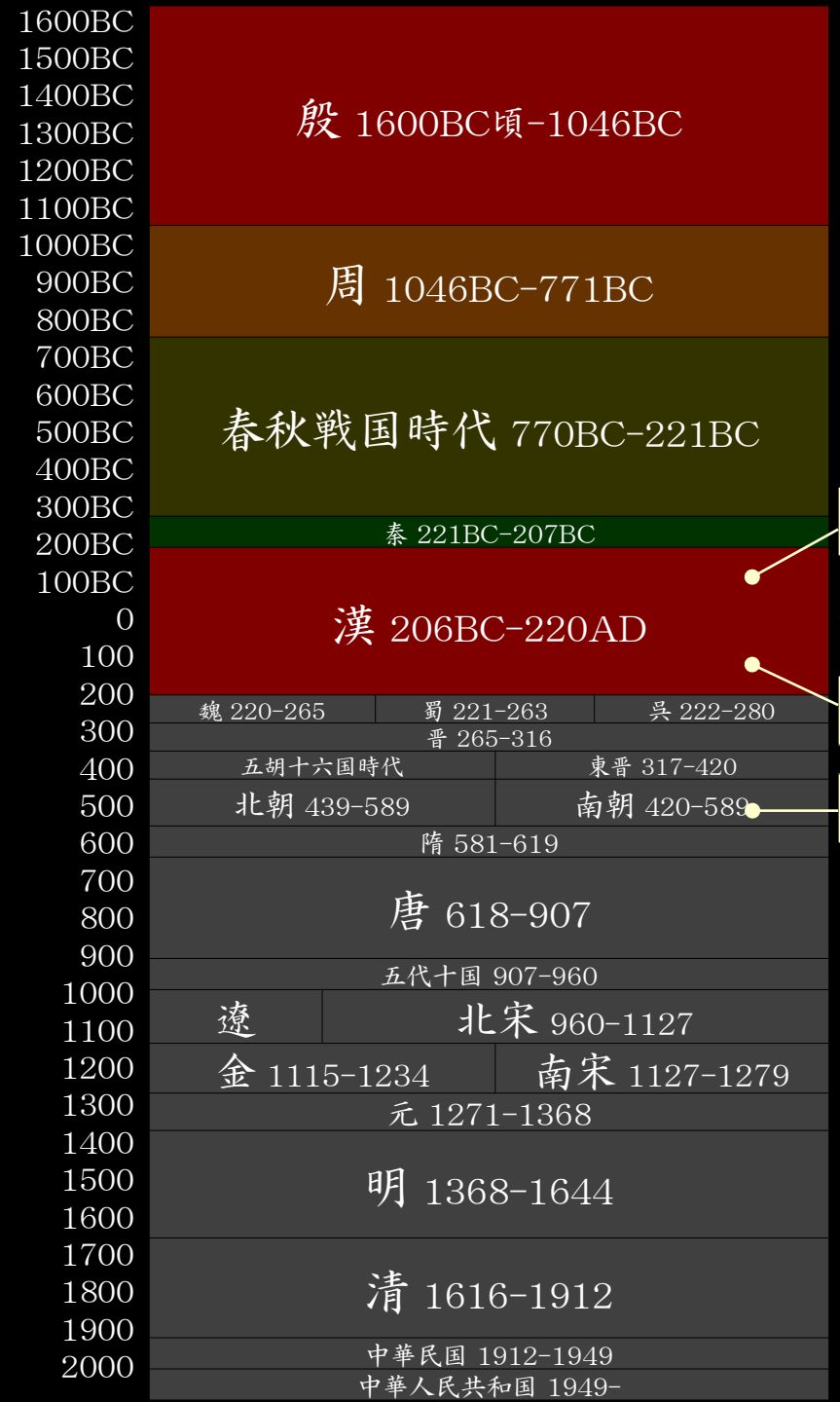
孟子巻第六滕文公篇下

【注釈】

①父母の命、媒妁の言：結婚は父母の命と媒酌人の言に従って行わなければならいという意。孟子のこの言葉は封建的な婚姻観を象徴するものとして、後世しばしば引用された。

皇如也。出疆必載質。公明儀曰。古之人。三月無君則弔。三月無君則弔。未以急乎。曰。士之失位也。猶諸侯之失國家也。禮曰。諸侯耕助。以共粢盛。夫人蠶繅。以爲衣服。犧牲不成。粢盛不潔。衣服不備。不敢以祭。惟士無田。則亦不祭。牲殺器皿。衣服不備。不敢以祭。則不敢以宴。亦不足弔乎。出疆必載質何也。曰。士之仕也。猶農夫之耕也。農夫豈爲出疆舍其耒耜哉。曰。晉國亦仕國也。未嘗聞仕如此其急也。仕如此其急也。君子之難仕何也。曰。丈夫生而願爲之有室。女子生而願爲之有家。父母之心。人皆有之。不待父母之命。媒妁之言。鑽穴隙相窺。踰牆相從。則父母國人皆賤之。古之人未嘗不欲仕也。又惡不由其道。不由其道而

孟子（京都大学附属図書館所蔵）



漢の武帝、儒教を国教化(136BC)

儒教の弊害が社会問題化

焦仲卿とその妻の心中事件が起こる

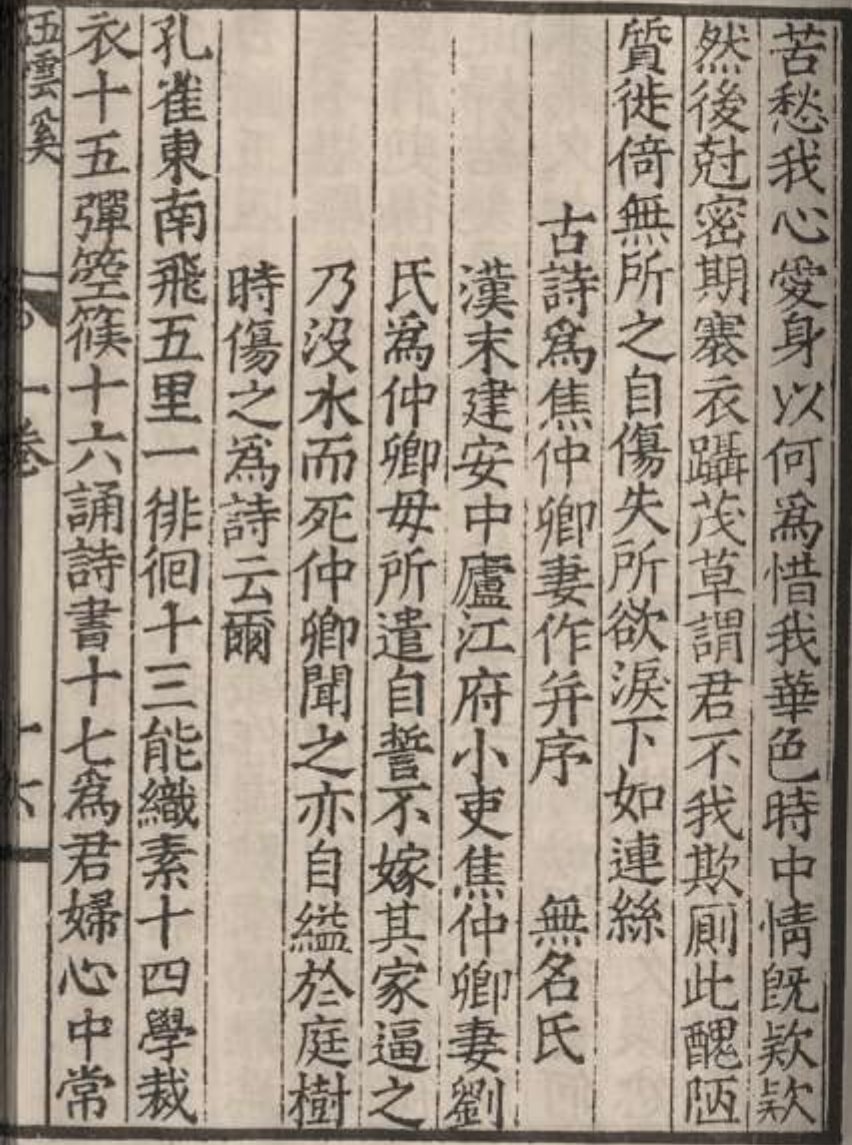
南朝梁の徐陵ら玉台新詠を編纂(6世紀)

恋愛詩歌を集めた詩歌集＝玉台新詠

〔解説〕

玉台新詠は、梁の簡文帝(在位五四九～五五一)が太子であったころ、徐陵に編集させた詩歌集。十巻。簡文帝の兄・昭明太子の文選が各ジャンルにわたって詩・賦・文章の標準を示したのに対し、玉台新詠は恋愛詩歌だけを収録しているところに特徴がある。

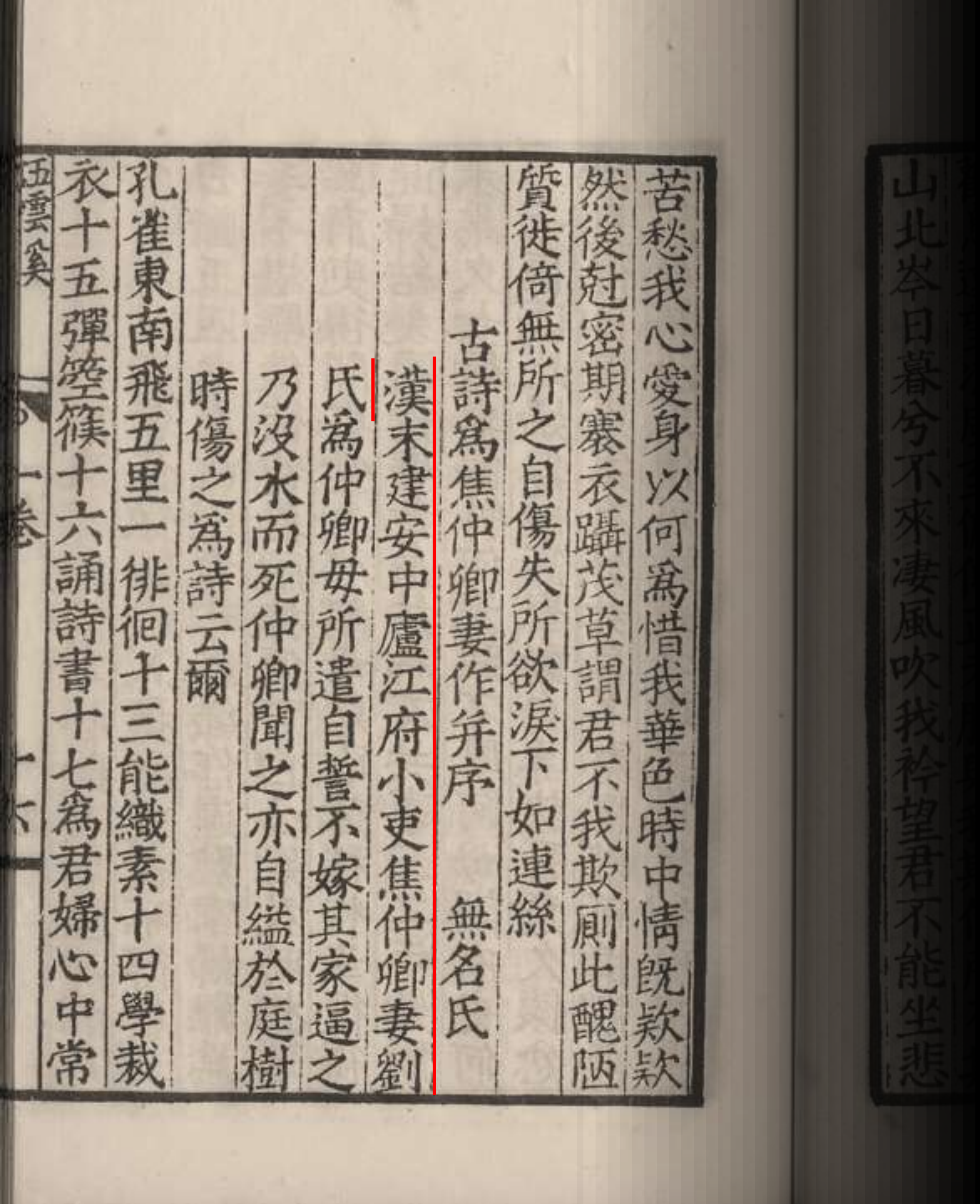
この玉台新詠の中に千七百字あまりに及ぶ長編叙事詩・焦仲卿の妻(古詩為焦仲卿妻作、一名孔雀東南飛)が収録されている。


苦愁我心愛身以何爲惜我華色時中情既欵欵
然後尅密期褰衣躡茂草謂君不我欺厠此醜陋
質徙倚無所之自傷失所欲淚下如連絲

古詩爲焦仲卿妻作并序　無名氏

漢末建安中廬江府小吏焦仲卿妻劉
氏爲仲卿母所遣自誓不嫁其家逼之
乃沒水而死仲卿聞之亦自縊於庭樹
時傷之爲詩云爾

孔雀東南飛五里一徘徊十三能織素十四學裁
衣十五彈箜篌十六誦詩書十七爲君婦心中常


山北岑日暮兮不來淒風吹我衿望君不能坐悲

苦愁我心愛身以何爲惜我華色時中情既款款
然後尅密期褰衣躡茂草謂君不我欺厠此醜陋
質徙倚無所之自傷失所欲淚下如連絲

古詩爲焦仲卿妻作幷序　無名氏

漢末建安中廬江府小吏焦仲卿妻劉
氏爲仲卿母所遣自誓不嫁其家逼之
乃没水而死仲卿聞之亦自縊於庭樹
時傷之爲詩云爾

孔雀東南飛五里一徘徊十三能織素十四學裁
衣十五彈箜篌十六誦詩書十七爲君婦心中常

三百年間伝えられた長編叙事詩

後漢末の建安年間（西暦一九六～二二〇）、廬江府（安徽省廬江県）の小役人である焦仲卿に、劉氏（名は蘭芝）という妻がいた。

玉台新詠巻一 古詩為焦仲卿妻作

【解説】

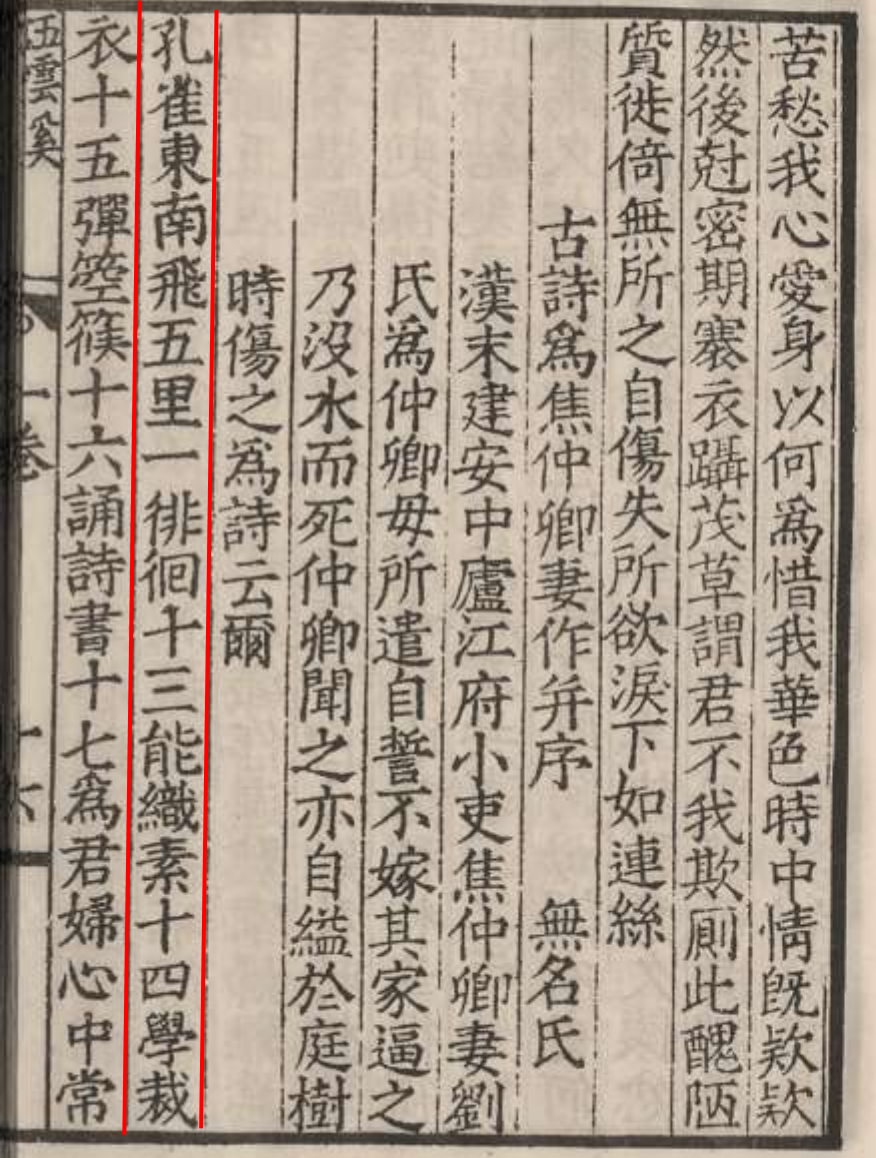
この詩の冒頭には、これが後漢末に起こった実際の事件に基づくことを記した序が付されている。

安徽省廬江県

三百年間伝えられた長編叙事詩

孔雀は東南に飛び
五里に一たび徘徊す
十三にして能く素を織り
十四にして衣を裁つを学び
十五にして箜篌を弾き
十六にして詩書を誦（そらん）ず
十七にして君の婦と為り
心中、常に苦悲す

玉台新詠巻一古詩為焦仲卿妻作


苦愁我心愛身以何爲惜我華色時中情既欵欵
然後尅密期褰衣躡茂草謂君不我欺厠此醜陋
質徙倚無所之自傷失所欲淚下如連絲

古詩爲焦仲卿妻作并序　無名氏

漢末建安中廬江府小吏焦仲卿妻劉
氏爲仲卿母所遣自誓不嫁其家逼之
乃沒水而死仲卿聞之亦自縊於庭樹
時傷之爲詩云爾

孔雀東南飛五里一徘徊十三能織素十四學裁
衣十五彈箜篌十六誦詩書十七爲君婦心中常

三百年間伝えられた長編叙事詩

一対の孔雀が
東南へ飛んでいきます
五里飛んでは
別れを惜しんでいます
十三で機織を覚え
十四で裁縫を習い
十五で箜篌を弾き
十六で詩書を学びました

玉台新詠巻一 古詩為焦仲卿妻作

三百年間伝えられた長編叙事詩

十七であなたに嫁いでからは
いつも悲しいことばかり。
あなたは役所務めの身
お仕事が第一
でも留守を守るわたしは
あなたに会うことも
ままなりません

玉台新詠巻一 古詩為焦仲卿妻作

三百年間伝えられた長編叙事詩

劉蘭芝は仲卿の母に家を追い出されてしまった。

玉台新詠巻一 古詩為焦仲卿妻作

苦愁我心愛身以何為惜我華色時中情既欵欵
然後尅密期褰衣躡茂草謂君不我欺厠此醜陋
質徙倚無所之自傷失所欲淚下如連絲

古詩為焦仲卿妻作并序　無名氏

漢末建安中廬江府小吏焦仲卿妻劉
氏為仲卿母所遣自誓不嫁其家逼之
乃沒水而死仲卿聞之亦自縊於庭樹
時傷之為詩云爾

孔雀東南飛五里一徘徊十三能織素十四學裁
衣十五彈箜篌十六誦詩書十七為君婦心中常

三百年間伝えられた長編叙事詩

「鶏の声とともに機を織りはじめ、
毎夜休むことなく三日で五匹の布を
織りました。でも、お義母様は遅い
遅いと小言ばかり。
　機を織るのが遅いのではありませ
ん。わたしがこの家にふさわしくな
いのです。私のような役立たずは、
邪魔なだけ。お父さま、お母さまに
お願いしました。早く離縁してくだ
さいと。」

玉台新詠巻一 古詩為焦仲卿妻作

三百年間伝えられた長編叙事詩

焦仲卿はそれを聞くと堂に上って母親にいいました。

「私はようやく役所勤めがかない妻を娶ることができました。これからは二人で末永く、あの世でもよき伴侶でいたいと暮らしてきました。なのに妻のどこがお気にめさず、そのようにつらく当たるのでしょう。」

玉台新詠巻一 古詩為焦仲卿妻作

三百年間伝えられた長編叙事詩

母親はいった。

「何をオロオロしているの。あのような礼儀知らずのわがまま娘。前から腹にすえかねていました。身勝手は許しません。東の家によい娘さんがいます。その容貌は秦の羅敷のよう。愛らしさはこの上なく、母さんがその娘を嫁に迎えてあげましょう。だから早く追い出しなさい。未練など持ってはいけません。」

玉台新詠巻一古詩為焦仲卿妻作

三百年間伝えられた長編叙事詩

仲卿はひざまづいていいました。
「お母さん、お願いです。もし妻を追い出すのなら、私は二度と結婚はしません。」
母親はそれを聞くと寝台を叩いて怒りました。
「なんという親不孝者、嫁の肩ばかりもつとは。そんな恩知らずのいうことなど、聞く耳はもちません。」

玉台新詠巻一古詩為焦仲卿妻作

三百年間伝えられた長編叙事詩

嫁ぎ先を追い出された蘭芝は、
けっして再婚はしませんと、仲卿に
誓いを立てる。

玉台新詠巻一古詩為焦仲卿妻作

苦愁我心愛身以何爲惜我華色時中情既款款
然後尅密期褰衣躡茂草謂君不我欺厠此醜陋
質徙倚無所之自傷失所欲淚下如連絲

古詩爲焦仲卿妻作并序　無名氏

漢末建安中廬江府小吏焦仲卿妻劉
氏爲仲卿母所遣自誓不嫁其家逼之
乃沒水而死仲卿聞之亦自縊於庭樹
時傷之爲詩云爾

孔雀東南飛五里一徘徊十三能織素十四學裁
衣十五彈箜篌十六誦詩書十七爲君婦心中常

三百年間伝えられた長編叙事詩

蘭芝は門を出て車に乗りました。
落ちる涙はまるで雨のよう。仲卿の
馬が前をいき、蘭芝の車がその後に
従います。ガタゴトと音を立て、二
人の車馬は街道口へ。
仲卿は馬を下りて車に入り、うつむ
いてこうつぶやきます。

玉台新詠巻一 古詩為焦仲卿妻作

三百年間伝えられた長編叙事詩

「きみと別れるものか。しばらく里にもどってもらうだけさ。僕はいま役所にいくが、すぐに迎えに戻ってくる。けっして君を裏切ったりはしないよ。」

玉台新詠巻一 古詩為焦仲卿妻作

三百年間伝えられた長編叙事詩

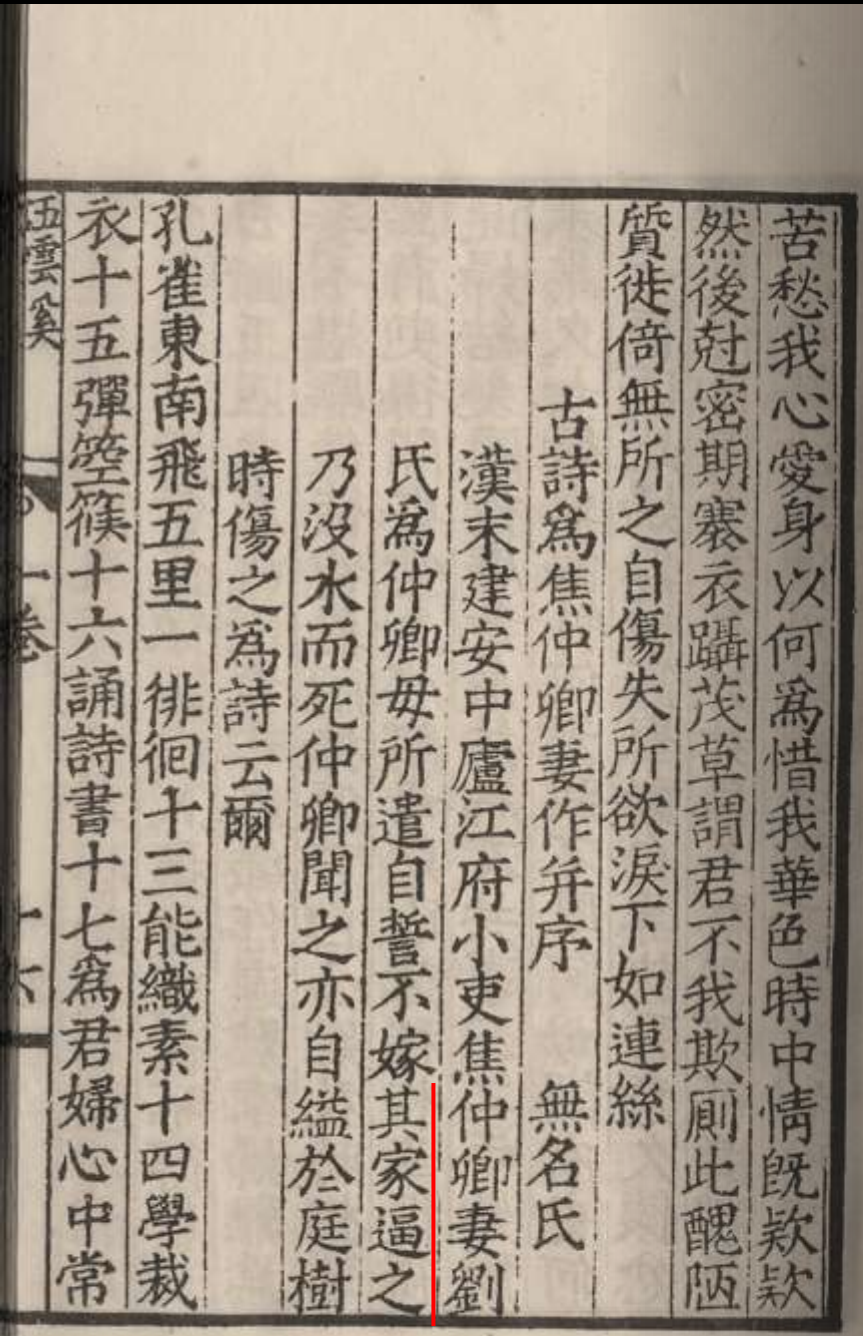
蘭芝は仲卿にいいました。
「優しい言葉をありがとう。あなたがそうまでいうのなら、私もあなたを待ちましょう。あなたは石臼となり、わたしは蒲葦となりましょう。蒲葦は生糸のように強く、石臼はけっして離れることはないのですから。」

玉台新詠巻一 古詩為焦仲卿妻作

三百年間伝えられた長編叙事詩

（実家に帰った蘭芝は）家族の者に再婚を迫られる。

玉台新詠巻一古詩為焦仲卿妻作



苦愁我心愛身以何爲惜我華色時中情既款款
然後尅密期褰衣躡茂草謂君不我欺厠此醜陋
質徙倚無所之自傷失所欲淚下如連絲

古詩爲焦仲卿妻作并序　無名氏

漢末建安中廬江府小吏焦仲卿妻劉
氏爲仲卿母所遣自誓不嫁其家逼之
乃沒水而死仲卿聞之亦自縊於庭樹
時傷之爲詩云爾

孔雀東南飛五里一徘徊十三能織素十四學裁
衣十五彈箜篌十六誦詩書十七爲君婦心中常

三百年間伝えられた長編叙事詩

蘭芝が実家に戻って十日あまりすると、県の長官が媒酌人をよこしていった。

「長官の三男様は優しいお方で、世間に二人とない人物。歳は十八、九、弁もたち才もあります」。

母は娘にいった。

「お受けして嫁ぎなさい」と。

玉台新詠巻一 古詩為焦仲卿妻作

三百年間伝えられた長編叙事詩

蘭芝の兄はこれを聞くと、残念がって胸を痛め、もどかしく妹にいう。

「将来のことをどうして考えないのか。前に嫁いだのは府吏、今度は県令の若様。その差は天地ほど違い。嫁げばお前も富貴の身。若様に嫁がず、これからどうしようというのだ。」

玉台新詠巻一 古詩為焦仲卿妻作

三百年間伝えられた長編叙事詩

家族の者に再婚を迫られた蘭芝は、

ついに水に身を投げて死んでしまう。

玉台新詠巻一古詩為焦仲卿妻作

苦愁我心愛身以何為惜我華色時中情既欵欵
然後尅密期褰衣躡茂草謂君不我欺厠此醜陋
質徙倚無所之自傷失所欲淚下如連絲

古詩為焦仲卿妻作并序　無名氏

漢末建安中廬江府小吏焦仲卿妻劉
氏為仲卿母所遣自誓不嫁其家逼之
乃投水而死仲卿聞之亦自縊於庭樹
時傷之為詩云爾

孔雀東南飛五里一徘徊十三能織素十四學裁
衣十五彈箜篌十六誦詩書十七為君婦心中常

三百年間伝えられた長編叙事詩

黄昏時も過ぎ、人々が寝静まったころ、蘭芝は自分の命も今日まで、この世とお別れと、裳裾を上げ、靴を脱ぎ、池に身を投げました。

玉台新詠巻一 古詩為焦仲卿妻作

三百年間伝えられた長編叙事詩

その知らせを聞いた仲卿も、庭の木に首を吊って自ら命を絶った。

玉台新詠巻一古詩為焦仲卿妻作

苦愁我心愛身以何爲惜我華色時中情既款款
然後尅密期褰衣躡茂草謂君不我欺厠此醜陋
質徙倚無所之自傷失所欲淚下如連絲

古詩爲焦仲卿妻作并序　無名氏

漢末建安中廬江府小吏焦仲卿妻劉
氏爲仲卿母所遣自誓不嫁其家逼之
乃投水而死仲卿聞之亦自縊於庭樹
時傷之爲詩云爾

孔雀東南飛五里一徘徊十三能織素十四學裁
衣十五彈箜篌十六誦詩書十七爲君婦心中常

三百年間伝えられた長編叙事詩

その知らせを聞いた仲卿も、もう
二度と蘭芝に会えないのかと、庭の
木の下をさまよい歩き、東南の枝に
首をつりました。

玉台新詠巻一 古詩為焦仲卿妻作

三百年間伝えられた長編叙事詩

当時の人々は二人を哀れみ、この詩を作ったという。

玉台新詠巻一古詩為焦仲卿妻作

苦愁我心愛身以何為惜我華色時中情既款款
然後尅密期褰衣躡茂草謂君不我欺厠此醜陋
質徙倚無所之自傷失所欲淚下如連絲

古詩為焦仲卿妻作并序　無名氏

漢末建安中廬江府小吏焦仲卿妻劉
氏為仲卿母所遣自誓不嫁其家逼之
乃投水而死仲卿聞之亦自縊於庭樹
時傷之為詩云爾

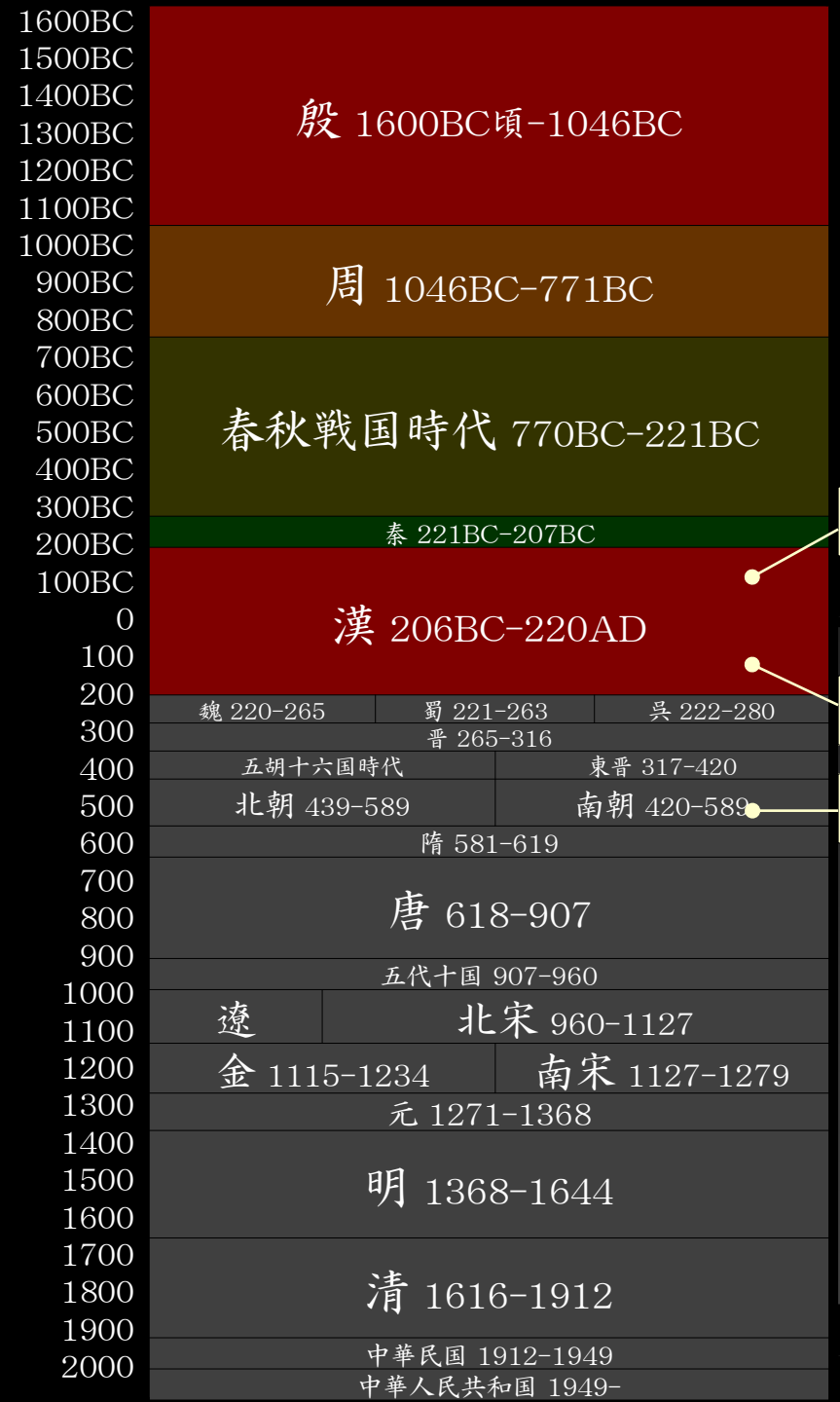
孔雀東南飛五里一徘徊十三能織素十四學裁
衣十五彈箜篌十六誦詩書十七為君婦心中常

三百年間伝えられた長編叙事詩

両家は二人を華山の麓に合葬しました。周囲に植えた木々は互いに枝葉を絡ませあい、その間には一つがいの鳥、名を鴛鴦といいます。天を仰いで鳴きあう声は、毎夜深夜に及び、旅人は足を止め、寡婦たちは起きてさまよい歩きます。

後の世の人々よ、どうか二人の物語を忘れないでください。

玉台新詠巻一 古詩為焦仲卿妻作



漢の武帝、儒教を国教化(136BC)

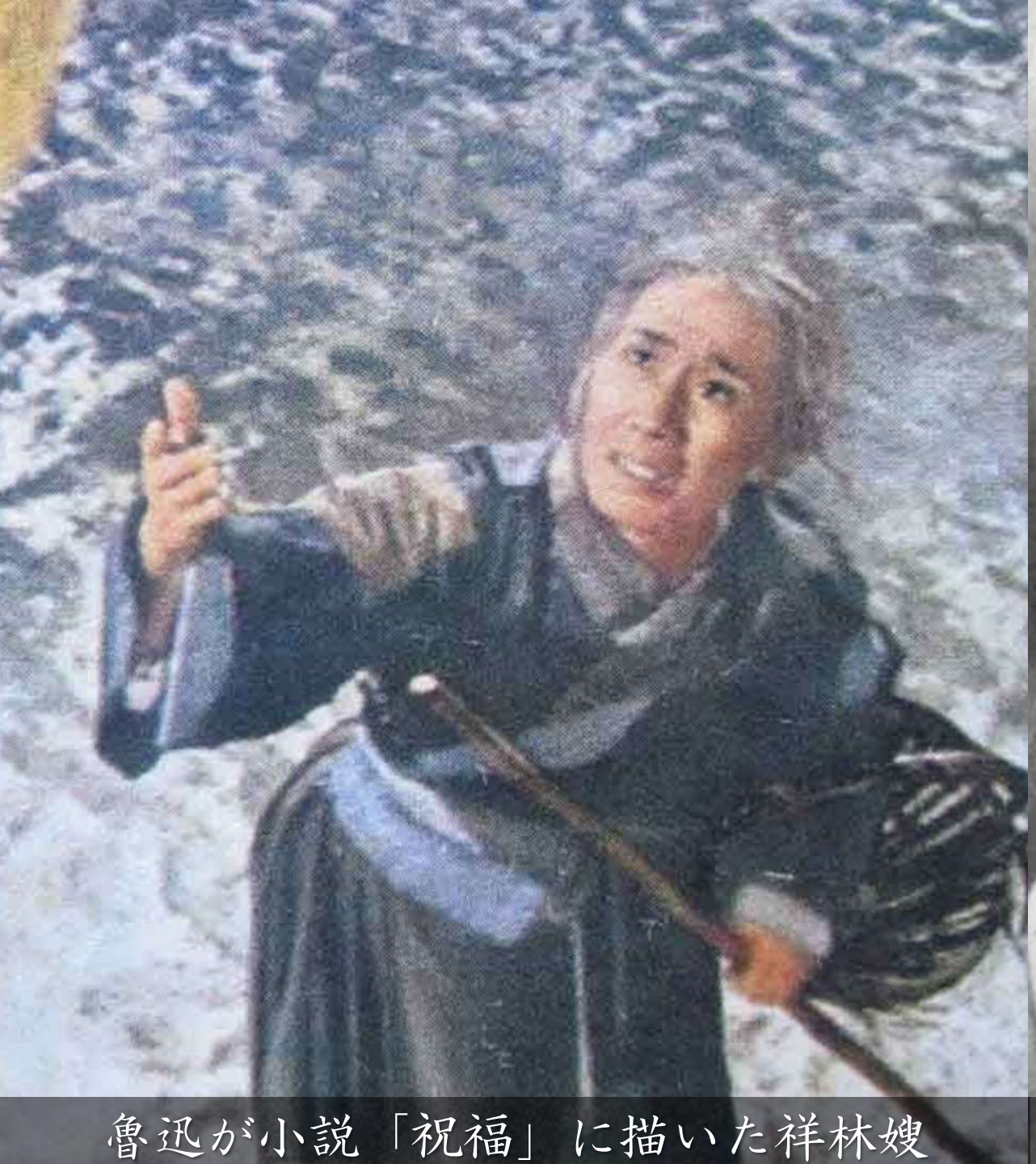
儒教の弊害が社会問題化

焦仲卿とその妻の心中事件が起こる

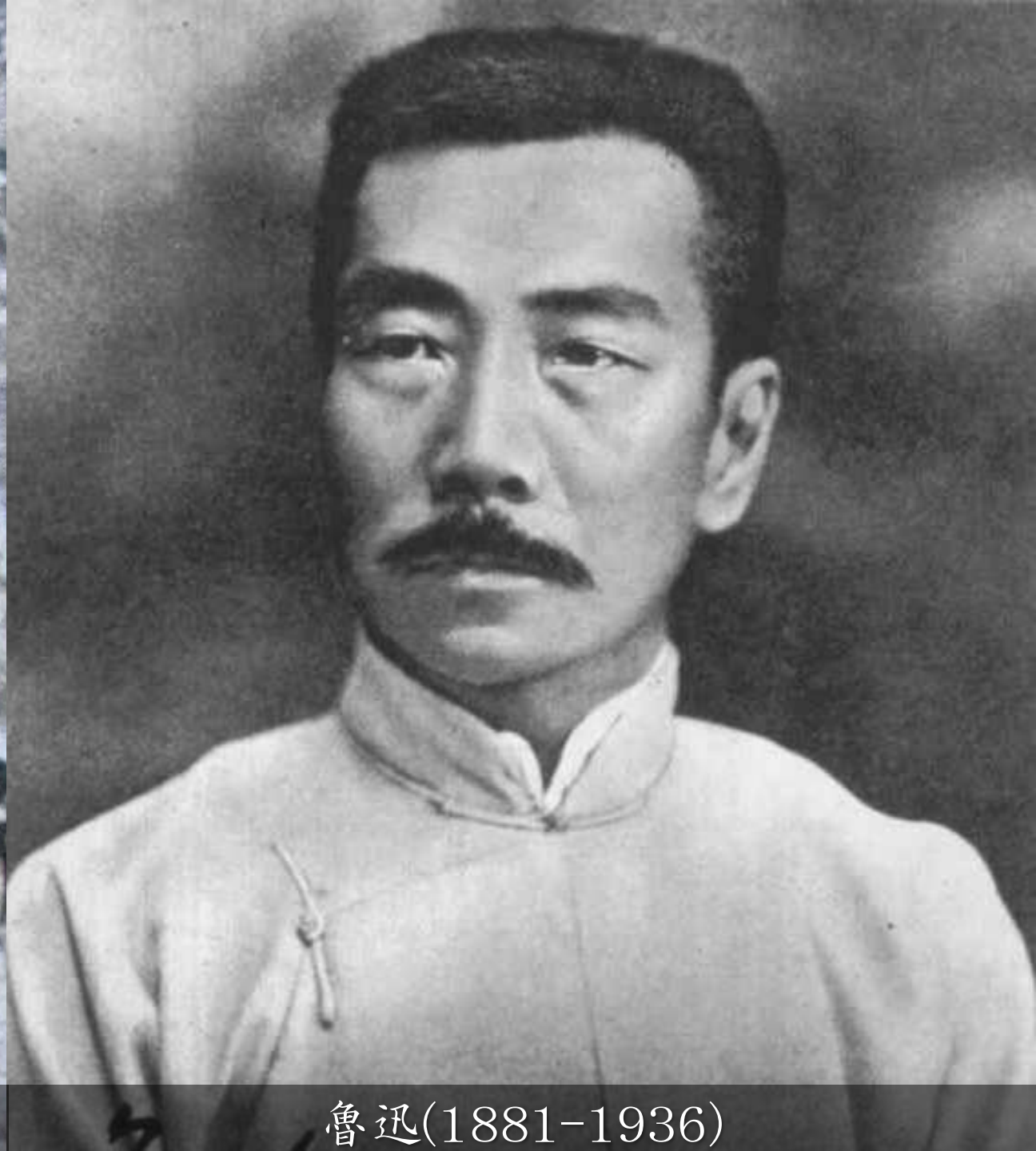
南朝梁の徐陵ら玉台新詠を編纂(6世紀)

儒教は漢代以降、二千年以上にわたって中国文明の精神的支えとなったが、その一方で国教化した儒教は、人々の自由を奪う多くの因習を生み出していった

五四運動や文革による儒教批判



魯迅が小説「祝福」に描いた祥林嫂



魯迅(1881-1936)

まとめ

一. 紙は西暦一〇五年に後漢の蔡倫が発明したとする説は、前漢時代の紙の発見によって修正された。

二. 安価な書写材料である紙の普及は中国文化の裾野を広げ、それまでにない長編の民間文学作品が後世に伝えられるようになる。

三. 玉台新詠巻一には、後漢以来三百年にわたって歌い継がれてきた、千七百字あまりの長編叙事詩「焦仲卿の妻」が収録されている。

四. 儒教は漢代以降、中国文明の精神的支えとなったが、その一方で人々の自由を奪う多くの因習を生み出していった

参考文献

■陳舜臣『紙の道』（集英社文庫 一九九七年）

■潘吉星著・佐藤武敏訳『中国製紙技術史』（平凡社 一九八〇年）

■潘吉星著『中国古代四大発明』（中国科技大学 二〇〇二年 未翻訳）

■ピエール＝マルク・ドゥ・ビアシ『紙の歴史～文明の礎の二千年』（知の再発見叢書一二九、創元社、二〇〇六年）

■内田泉之助『新釈漢文大系60 玉台新詠』（明治書院 一九七四年）

■小尾郊一、岡村貞雄訳注『古楽府』（東海大学出版会 一九八〇年）